



MAIL TOP

## 管理人の落書き帳 八尾市ソフトテニス協会HP 更新記録

No	更新日	内容
1	2001.6.18	協会員に公開
2	2001.6.20	カウンターの設置
3	2001.6.21	掲示板の開設
4	2001.6.25	BGM設置完了
5	2001.6.29	試合結果詳細 追加
6	2001.7.7	ホームページ一般公開
7	2001.8.10	志紀コート・教育センター体育館への地図更新
8	2001.11.29	HP表紙の更新 これからは頻繁に変わります。 メンバー達が交代で・・・今度は誰の番かな？
9	2004.4.10	婦人部公開 皆さん集まって下さいね。
10	2004.6.15	動画を載せました。ちょっとサイズを小さくして。
11	2004.10.31	チャットルームをつくりました。みんなで会話しようぜい
12	2004.11.13	練習時間をケイタイで見られるようにしました。
13	2005.3.29	会員専用ページを設定しました。
14	2005.9.25	落書き帳 BACKUP作成。(重くなってしまったので・・・)

落書き帳 BACKUP 「ある日のテニスコート」のページに保存してあります。

2009.1.3

新年明けましておめでとうございます。昨年の10月から始まって未だ先の見えない不況感が漂う年明けとなりました。どうなるのだろうという不安感は拭いきれませんし、今更ながらに日本という国が世界と共にでないと歩いてゆけない状況なんだということを感じます。工業品に然り、食料品に然り、元はといえばエネルギー全般です。発展途上国も豊かになれば自国を工業国にしてゆきます。そうすると、不足してくるものは明らかです。日本が抱えている問題は今後世界中の国々で起こるものなのです。最終的に平等化社会が来れば、自国の中で産業の分化が進まなければならないでしょう。しかし、現実にはこの世の中を支配しているのは形を変えた奴隷社会です。アメリカ、ヨーロッパ、東南アジア、中国、インド、・・・それぞれが各々の2重構造を抱えてバランスをいや富裕層の生活を保っているのです。日本においても、構造改革という名のもとに2重構造社会の成立を助長しました。某カリスマといわれる首相の下、某学者大臣が派遣・請負の自由化を推進したのです。経営者にとってはとても都合な制度で、好況が故に盲目となっている若者達にフリーターだの自由な労働形態などという幻想や盲信を植え付けたのです。一見、何物にも支配されず自由に働くということは素晴らしいことのように見えます。しかし、そこには一つのことを長く続けてゆくことから得られる真実や本物は見えてきません。イヤなら変わる・・・そこには忍耐も自己マインドコントロールも何もありません。協調性などが欠落しかかっている若い世代には好都合かもしれませんが、人間の品格や質の向上はもはや望めません。同じ職場で働く人たちが同じ質の仕事をしているのに年齢や能力以外で給料や資格格差がありそれらは決して埋められる事はありません。

また請負業務に当たっては、契約のみで明らかに下部組織の別会社社員が親会社の仕事を代行するのです。そこにはオーナーと下請けの関係しかありません。明らかな2重社会の構造です。

しかし、自主的に仕事を得る事ができない人たちは不況になるとどこからも、何の保証もないままに職から放り出されるのです。そのような状況が今現実にも目の前で起きつつあります。若い人たちだけでなく、シニアにもいずれ姥捨て山の切り捨てが始まるかも知れません。現実を良く見据えていきましょう。

さて、テニスのお話を一つ。今年正月に本屋さんでソフトテニスマガジンを読んでいました。時安選手が、自分のフォアボレーに関して「自分はそんなにフォアボレーがうまい方ではなかったが、若いときにはこんなものだと思ってずっとその通りやってきていた。しかし、45歳頃どうも今までの考え方が間違っているのではないかと思い少しグリップを変えてみたところ全てが解決した」と記述したところがありました。時安選手は学生時代は私と入れ替わりくらいで実際のプレーは一度しか拝見した事はありません。ただその時はS46の東京インドアで、木口・横江ペアのただただ素晴らしいプレーに圧倒され、私も横江選手のような前衛になりたいものだと思って思った時でした。ですから、西田・時安ペアの印象もあまりないのです。その後、西田さんの指導書に時安さんの連続写真がありましたし、ソフトテニスマガジン

には必ずといって良いほど時安選手の写真が載っていましたのでそのフォームは目に焼き付いています。確かにバックボレーは本当に素晴らしくローボレーもハイボレーも横江さんとはひと味違う素晴らしいものだとおもいます。フォアボレーはそれに比べてややウエスタンが強いのか堅い印象がありました。ややイースタンにした方がもう少し楽に取れたのではないのでしょうか。また縦面が主体のようでしたのでフットワークに主眼をおかれたフォアボレーであったと写真からは思います。きっと想像するに、時安さんは横面にするにはセミイースタンが簡単だし合理的だと言いたいのではないかと思います。バックボレーは肩を前にして肩が支点になりラケット面が使えます。横面の時体は起きています。縦面でも体はしっかりと起きています。誰もバックボレーの時、ラケット面の後ろに顔を持っていけと指導しないでしょう。それよりもボールを上から見るようにしろと指導します。体の軸とラケット面は垂直なのです。バックボレーは顔とボールが垂直なのが正しいのに、フォアボレーはラケットの後ろに顔を持っていくように教えます。これは何故なのか？・・これは縦面で教わった事の名残なのです。もう一つはウエスタングリップのフォアポーチボレーは基本的には縦面でないとうまく取れません。横面にしたとき体が垂直だと肩が後ろにあるので不自由な格好になってしまうのです。フォアポーチボレーというのは横に面を使っているのですが実は縦面さばきで、ラケットの面の角度に合わせて体の軸を傾けていかなければいけないのです。これを脱却して頭をあまり動かさず正確なボレーをするには体の軸を垂直なままでボレーをする事です。そうなるのがグリップは自然と変わらざるを得ないのです。昔の人の本を見ると、ノーグリップが基本ですよと書いてあります。最初は意味が分かりませんでした。人の体の構造には自然とそうしか動かない関節や腱、筋肉の制限があります。そこに逆らって手足を動かすのではなく、その動きにあったグリップが正解なんだという事なのでしょう・・・と思います。

時安さん、間違っていたら失礼をお許し下さい。

2008.12.21

東大阪対抗戦が終わりました。12月というのに暖かい日でした。今年もやはり暖冬、スキー場では悲鳴が聞こえます。もはや日本は亜熱帯化してきているのでしょうか？年々、シニアの比率が高くなり一般の人たちが少なくなります。八尾も東大阪も人がいるけど出てこない。団体よりも個人という意識が強くなっているのでしょうか。それでも今日、伊田、岩崎の両君が出てきてくれました。東大阪は割と良い選手がいましたが、それでも勝ったりしています。これをきっかけに練習を積んでくれたらいいのですけどね。逆にしなくてもこれだけできるからいいや・・となるとそれは困るのですけど。

シニアは、11-13で負けてしまいました。それはひとえに私の責任です。3敗は近年にない不甲斐ない成績でした。また頑張らしましょう！！

2008.12.14

吹田クラブの日本触媒テニスコートが今年いっぱい使用終了となるそうです。理由は近隣の住民からの騒音苦情とのことです。今は、住民の個人の主張が何にも勝る世の中になってしまいました。少し前なら、そんなこともあるけれどもみんなが喜んでいるなら良いじゃないか・・という懐の深さも人心にあったように思います。いつの頃からなのでしょう、個人優先、権利優先になってしまったのは。

もう大分昔のことですが、電子レンジに風呂に入れたイヌかネコを入れて乾燥しようとして死んでしまったので、訴えて勝訴ということがUSAでありました。そのことが発端かどうか分かりませんが、取扱説明書に詳しく取り扱いを記載していなければ、していない方が悪いということになっています。化粧品にも含有成分は全て記載されています。それだけでも大変な労力ですし、読む方だって分からないでしょう。でも書いておけば売った方の責任は免れる。これには優しさも何もない、殺伐とした人間関係を感じます。

テニスをするのが悪いでしょうか？ボールを打てば音はしますし、興奮すれば声も出ます。でも、極めて健全なことだと思うのです。しかも使用時間は朝の9時から夕方5時。その間に、運動をしているひとを赦せるだけの心の度量はないのでしょうかね。

2008.12.12

月日の経つのは早いものですね。はや師走、先生も飛び回る季節・・と言いますが、今日日の先生は一般労働者と同じ久、結構多忙に走り回ってますので、この言葉も死語になりつつあります。いつもの季節は割とのんびりしている私なんぞが、最近人手不足と新しい設備に振り回されててんてこ舞いというところです。知らずのうちに冬まっただ中です。海から吹いてくる風も冷たくきつく、肩をすぼめて歩くこの頃です。

2008.11.29

多忙な年末を過ごしそうですが、まだマシかと・少し先が見えてきました。明日は岡山県高梁市で行われる岡山青年会の合宿に行きます。一年間の汗を流し、温泉でゆっくりしたいと思っています。毎年この時期はオフに向けての心と体の弛緩が大切です。ですから本当は12月にある冬の大会はあまりやりたくはありません。疲れたからだ心の緊張感のインターバルが激しいソフトテニスには十分すぎる休息が必要だと思います。合宿での課題は何でしょう。戦士の休息でしょうか？皆さんに会えるのを楽しみにしています。

2008.11.8

雨の土曜日です。いつもはテニスか仕事かですが、今日は雨で仕事もなく家にいます。久しぶりに部屋の整理などしてみると、この一年間の集積があります。シーズンも殆ど終わりですから、いろんな大会のプログラムがそれこそ散乱というか山積みというかとにかく雑然としているのです。整理しながら見てみると今年もいろんなことがあったんだと改めて思いますし、一年は決して短いものではないと感じます。次年度の向けて何をするかを考える時期に来ています。今年以上の成績が残せれば良いと思いますが、それは難しいことでしょう。新開さんと西日本までは頑張っていく。目標は優勝ですが、全日本でも同じように皆のターゲットとなりました。今回は同じ轍は踏まぬよう、心していきたいと思います。西日本後は小早川さんと全日本55での初めての挑戦です。万全で行きたいですね。一年通してテニスができますように。。

2008.11.1

もうはや11月となりました。先週くらいから大阪も急に冷え込んで風の冷たさにふるえて思わず背中をさすってみたりしたものです。今日も山中溪は紅葉が始まって山の上から色づいていっているのが分かります。しかし、迷彩色となりボールが見えにくかったことです。風流も時として災いになることがあります。久しぶりに関東に転勤になっている吉野さんが帰阪されていました。吉野・東ペアと試合をしていただきましたが鋭い球は相変わらず。殆ど表情を変えないで淡々とボールを打っていくあのプレーは少しも色あせていませんでした。やはり試合には出てきていないですけど、強い人はたくさんいます。今日もそんな話をしていました。しかし、いろいろ事情があるでしょう。若いときにやりすぎてもうやりたくない人、負けるのが嫌で試合に出ない人、時間やお金がなくて試合に出られない人、家庭の事情でテニスができない人、.. 様々な理由があるけど、とにかく今の時点でテニスができないのです。高校生だって大学生だってその時やれてない人には事情があったでしょう。お金が自由ではなかった。家が遠くクラブができなかった。進学するためテニスはほどほどであった。などなど。その時テニスでひたすらインターハイやインカレの頂点を目指していた人はほんの一握りでしかなかったでしょう。そうです、その時最も一生懸命やっている人のうちで勝った人がその時代でのチャンピオンなのです。それは当たり前なのですが、案外それは分かっていない人も多いです。

2008.10.25

今年も秋の大会が目白押しの今日この頃です。各地では伝統ある大会や新設の大会が盛大に開催されていることでしょう。しかし、どの大会に参加しても思うことは、一般男女の参加が少ないということと、遠くからやってくる選手が少ないということです。私は岡山出身です。かつて天満屋全国大会、何久層全国大会という大きな大会があり、地元の選手はもとより東京の全国レベルの学生やナショナルチーム級の選手を招いて素晴らしい大会が開かれていました。もちろん、景気も良かった時代で大きなスポンサーがかなりの額の負担をしていたと思います。そしてそれを赦す風潮でした。しかし、世の中が管理社会となり、効率化重視で利益追求をしていくと真っ先にこういったスポーツへの補助金は打ち切られます。数年前にバレーボールや野球を支えてきた社会人チームが相次いで廃部されたのは記憶に新しいところです。お金になるスポーツはどんどんもてはやされるけれども、社会性が高いけれども地味という印象のある競技は置いてけぼりにされます。もちろんそのスポーツを分かりやすく説明できることが必要ですが、それだけでは面白さが分からないものもあるのです。ソフトテニスなんかはその最たるものではないでしょうか。ソフトテニスは最初は難しいのですけど、コツを掴んでしまえば割と上達が早いスポーツだと思うのです。逆に硬式テニスは最初はやさしい印象です。当たれば飛びますし、とりあえず遊べるのです。しかしなかなか上達が難しい。硬式テニスはいつまでもサーブ、リターンの域から脱せず、ボレー、スマッシュの段階にたどり着くまで時間がかかります。ましてや、ゲームを組み立てたり相手との駆け引きなどの域に達せる人は早い段階ではそう多くはないでしょう。ソフトテニスは自由に球が扱えるのに時間が比較的短いので、戦術や相手との心理戦が早い段階からできるのです。ですからソフトテニスの試合には硬式テニスのように比較的力で圧倒したり、正確なコントロール力などで相手のサイドを抜くかそれを決めるかという単純なもの以上のものが含まれているのです。もちろん硬式テニスでも、大きな大会に出ている選手は十分な技術力を持っているので軟式の選手と同じ思考でゲームを進めていると思います。私たちソフトテニスプレーヤーはおそらくウィンブルドンなどの試合を一般の人以上に非常に楽しんで見ることができていると確信しています。彼らの心の中の動揺や焦り、そして立ち直っていく様や、どうやって気持ちを切り替えているのかなどが参考になりますし、素晴らしい選手には素直に喝采を贈るものです。話が飛びました。今は移動手段も多種多様ですが、交通費も宿泊費もかかりますし、とても遠くの地までかけていく時間も余裕もないのでしょう。また、出かけなくても近くに適度な試合がたくさんあるからその必要もないのでしょう。しかしそれはちょっと寂しいものです。大会自体も盛り上がりず、全国大会の名が空しく響きます。

何だか良い方法は無いものでしょうかねえ...

2008.10.18

今年も全日本シニアが終わりました。結果は16本。最近2年間の2回戦、1回戦負けと比較すれば上出来です。目標とした一日目もクリアできましたしリードの松本・宮本ペアにも勝てました。しかし8本取りの富田・小川ペアの試合はやはり悔やまれるものです。思い切りがなく、ズルズルと行ってしまいました。今年の後半の自信のなさを裏付ける結果となってしまったのです。努力して克服したつもりですけど、驕りが見え隠れするときはダメです。結局は2本のポイントでのレシーブネットが全てでした。小早川さんにはすまないと思うばかりです。あんなに激しいミックスでの試合を6試合もこなし、祝勝会もせず早く寝て、僕と組んでの試合に備えてくれたのに、最後で応えてあげることができず申し訳ないと思います。そしてなんの愚痴も言わず、ここまで来れば上出来ですよと言ってくれた素晴らしい後衛に、次は応えようと思うものです。

感想; 今年、岡山の地元での試合でした。それだけに岡山県勢は勝つ布陣を引いていました。45は上松/2位杉本、50は藤原・西、55はミックスで土本・木村、60は倉田・田中と優勝、素晴らしい成績を上げています。最も岡山のテニスが強い時代の選手達がシニアでも内容は競っていますが、やはり上がってきました。このあたりが、一流といわれる所以でしょう。勝負所の正確さと思い切りの良さ、そのあたりは見習わなければなりません。練習もしてなくて出てきて勝つ... ことに皆心の中では苦々しく思っているでしょう。しかし、勝負事はこれが現実だと教えてくれます。今勝っている人たちが、決して一番ではない。出ていないだけのことかもしれないし、そうでないかも知れない。ただ、今回の一流の岡山県勢は確かにギリギリではあるが強かった。藤原選手のストロークやサーブ、それに勝てなかった事実は悔しいけれども認めなければなりません。彼らが本気で闘志むき出しにしてやっていたのではなかった。まだ余裕があるように見えました。かつて、アジア大会予選や天皇杯などで彼らが必死でやっていたのをみると、まだ彼らは余力があります。僕たちは同じ土俵まで引きずり下ろさねばなりません。そこから彼らとの試合が始まるのです。シニアも自分たちの成績に満足せず、技術・精神力を向上させるようにもっと努力が必要ですね。

今回の全日本シニアはそんなことを感じた大会でした。

2008.10.7

全日本シニアが近づくと何だかそわそわしてきます。この一週間はきっと体も心もただ一つの方向しか向いていないのでしょう。この大会のために一年過ごし、この大会のために力を蓄えて、この大会のために心技体共にmaxに持って行ってるのです。こんな人が見れば馬鹿なことを何年続けてきたのでしょうか。しかし止められないのです、今年も。そして、これからきつと。

2008.10.4

いよいよ全日本シニア選手権が今週の金曜日から岡山で開催されます。一年間というのは早いものです、もうこの大会がやってきました。これをすべての目標としてやってきたんだと思いますし、そういった楽しみを持っていることにホントに有り難いものであると、誇りも感謝もします。普通のおっさんはもうジヤサンになって世の中の速度とかに途惑いながら生きているのでしょう。しかし我々スーパーシニアはそんなこと言ってもらえません！！分刻みのスケジュールをこなし、休日は朝から晩まで体を鍛え、胃を鍛え、50週の日曜日の大半をドコカシコの大会に参加して大体同じメンバーと試合をするのです。一人でやってる人は連れ合いが犠牲になり、夫婦で参加していれば子供が犠牲になるか、道連れです。そして死ぬまで走り続けるのですね。幸せなことだと思います。

2008.9.28

今週も土曜が仕事ということで、1日の練習になりました。曇っていると目が見えず、空中の戦いは難しいものです。昨晩、GAORAを見ていたら硬式テニスのレッスンをやっていました。フェデラーのスライスサーブの解説でしたがなかなか参考になりました。何故そうするのかというのは本人に聞いてみないと分からないことが多いのですけど、解説でもなるほどと思うことがありました。安定感と確実性はテニスでは必要な要素です。あとはスピードでしょうか…。フラットで打てば威力はありますが、確率が低い。学生や一般の毎日やれるTOP選手ではありません。確実性とコントロールが重要で優先されます。スライスサーブは確実でしかも僕の場合は左利きなのでとても有効なサーブだと思っています。一応、フラット、スライス、リバースと3種類は持っているのですけど、確実性はまだ劣ります。どうしても欲しいときにファーストを確実に入れることが勝利へ近づく道だと信じているのです。

2008.9.24

9/23は檀原クラブで昼から練習をしました。今年はいろいろ都合もあって、土曜日が練習しにくい状況にあります。あと数えるところ1ヶ月を切って全日本シニア選手権があります。昨年はいろいろと準備をしたつもりでしたが、考えてみれば小早川選手とあまり話しもせず、戦い方も考えず試合に臨んだと思います。彼もミックスに出て2連覇を達成しましたが、本選の方はあまり考えが及んでなかったようにも思えます。疲れてしまったのでしょうか。私も神戸の全日本の時Best4掛けで鶴尾・細野ペアとやったときもまだ51でしたが、疲れが大分残ったのを覚えています。何しろファイナルが殆どで4試合ほどやったのですから。ましてや決勝となると6試合です。大変な疲労です。この2年間は対戦する相手も100%以上の力でやってきますし、疲れているので受け身になっている感じがありました。つまり、我々のテニスには到底なっていなかったのです。テニスは引いては絶対に勝てません。卓球ではカットマンといってひたすら耐えることに徹する人がいるのですけど、ソフトテニスではおそらくなかなか難しいことでしょう。ただ石川選手や鶴尾選手達はその部類にはいるのかもしれない。石川選手はもし対戦したらどうしたら良いのだろうと考えてしまう人です。あの取れないところを通る中ロブは脅威です。

話が横にそれました。あと2回ほどしか共に練習できないだけに、できるだけ多くの疑問点や確認事項を話しておくことにしました。僕たちは今まであまりそういったことを詰めて話したことが少ないのですけど、今回は良いところや弱いところをしっかりと話して効率的に戦術を確立するようにしようと思います。今日はそういう意味では、あまり練習試合では勝てませんでしたが有意義な練習でした。何故勝てないかを解析できて、次はこうしてみようという希望が出ます。早く練習して確認したいというこのワクワクとした期待感が楽しいですね。しかし、今度の日曜まではそれはできませんので、ゆっくりと頭の中でイメージを焼き付けて自分のものにしていこうと思います。とにかく、全日本では1日目をなんとか残るように努力しましょう。おそらく2日目は体力も回復し、またあのいい緊張感が体にカツを入れてくれます。2日目で負けるのは実力がそこまでしかないのでしょうか。しかし初日で負けるのは、そこに至るまでの準備が足りないのだと私は感じています。あと3週間、できるだけの準備をして皆さんにお会いしたいものです。外的要因のないことを祈ります。

2008.9.23

いつも一人になってみると考えてしまうことがあります。本当にテニスをしているのは自分なんだろうか？これはまやかしや夢ではないのだろうか？などとです。確かにテニスが大好きで田舎の山の中で育った割にはテニス何ぞをやり始めて、途中でやったりやらなかったりした時期もあり、決してテニスのエリートコースを歩いてきたわけではなくて、いわばごく普通の好きで続けてきたテニスなんです。負け続けても試合に出て、いつかは上の方にいつかみたいかなんて考えてたんですけど、それはいつも空想でしかなかったのです。自分の位置が分からない・ということだったと思います。どれくらいのことができればどれくらいの成績が取れるだろうとか、自分の技術ではこれくらいの成績なんだとか、そんなところを見ることが、感じるができなかったのです。昔から時々、自分では思いもよらないことを言われたことがありました。一番最初に言われたのは、テニスの先生ではありません。高校の時、僕の学校は県下でも有数の体育に力が入っていた学校で、ラグビー、サッカー、バスケット、剣道、柔道、水泳・・・などなど強いクラブがたくさんありました。学校も活気あふれていましたしやんちゃ坊主もたくさんいました。先生達も国体選手、日本代表などの人も多く、今から思えばスゴイ環境だったのだと思います。1年生は格技の単位必須で、僕は剣道を選びました。殆ど初心者でしたのでそれこそ竹刀に振り回されていたのだと思います。が、ある日、先生が授業の終わりに正座して色々話をされるのですけど、急に「高原、君はうまいな」というのです。同級生には剣道部員もたくさんいて、一斉に見るのです。えっ・と思いました、ワケが分かりません。その先生は何年も岡山県代表で出ている有名な選手だそうです。でも足さばきも儘ならず、防具にふらつきながらついていっていただけの自分には何も分かりませんし、今でもどうしてそう思ったのかを聞くこともなく謎のままです。

2回目は28くらいの時、八尾でテニスを始めて3年くらいたったときですかね、佐野さんが、当時GOSENの監督をされる前のことでしたが、八尾の忘年会で、お前と東山はいい素質がありそうだから本気でやってみないか？と聞いて下さいました。その時も、東山は素質十分ですけど、僕はそんなことはないですよ、今でも必死ですから・・・と言いました。分からなくても良いから、やる気になったら電話くれ・といわれてもにわかにはハイ・とは言えなかったですね。一冬考えて、もう歳も29になるしこんなことを言うてくれる人もいないし一度お願いしてみるかと、3月頃電話してじゃあ一年組んでみようと言って下さいました。でも、運がなかったのでしょうかね、その年からGOSENは女子の実業団を始め、佐野さんは監督になり自分が選手どころではなくなりました。おまけにペアは解消したので試合に出るのもままなりません。そこから、逆に必死で後衛を探し始めたというのが本当のところでしょうか？しかし、難しいもんです、気がつけば自分は誰にでも組んでもらえるだけの力は全くと言っていいほどなかったのです。ですから、それからは本当にどうすれ

ば力がつくのか、何をすれば前衛になれるのかを本当に考えた時期だったと思います。シニアで高宮と組んでいくまでは、16年間もまだ時間がありました。

2008.9.21

八尾市民大会、今日は、結果を見るとYST(八尾同好会)の活躍が目立つ大会でした。一般男女は特にそうです。主催者である協会は不参加も多くイマイチ盛り上がり欠けた大会でした。若い人たちは自分たちのクラブを育てていくというより、大切にしたいと思うのです。自分たちはここで気持ちよく自分の場所を持っているのですが、それは愛おしみ慈しんできた人たちが守っているからその場所があり続いているのです。残しておきたいとか、ここは良いなと思えば大切にしたいと思うのですが、僕たちが行くと、若い人たちはいつもお客さんみたいに感じます。早く自分のものにして欲しいですね。そんな風に感じました。

今年は音川さんと55のクラスで組むことになり、大阪の大会もあと2回あります。市民大会も初めてなので合わせてみようと思いました。結果は4位で賞に届きませんでした。まあ、初めてなので球筋やポイントでの考えなどを頭に入れるには良い機会だったと思います。雨も降り、コート整備をしながらやった大会でした。延期となると、遠方の参加者もいらっしやいますのでおそらくダメということで強行した次第です。水取を手伝ってくれた高校生諸君には感謝をしています。ありがとうございました。

自分としては、先日の鳥取からの疲れもあるのか、どうも集中力が無いのが今の状態です。大事なポイントでのミスとか重なりムートが一度に悪くなり、勝ちが逃げていってしまいます。持続するのは難しいもんです。これから、10/11までにどうやってアップしていこうかと色々考えます。でも、着実にマイペースでこなしていくことなんでしょうね。

最近になり心配事はテニスの技術もそうですが、一番は体調管理や体を壊さないで今の状態を維持するのはどうすればいいかということが分からないことですね。肩や腰、肘や膝や足などに歳からか疲労からか痛みが残ります。特に関節が動かす毎にポキポキと音を立てるようになりました。これは潤滑油が欠如している証拠でしょう。サプリメントに頼る方が良いと思い、最近は十分管理されていると思われる会社のサプリメントを飲むようにしています。そうすると以前よりは少しマシかなと思えるようになりました。継続しようと思っています。あとは体が次第に硬くなって来ますので少しずつストレッチをすることでしょうか?だんだん、爺くさい話になってきましたが、健康に長くテニスを楽しみたいと思っていますので必死に良いものを、自分にあったものやっつけていこうと思っている今日この頃です。

2008.9.15

昨日は鳥取で久松クラブ杯がありました。毎年参加させていただいていますが、地元の方々の暖かいおもてなしでも楽しく過ごさせていただいています。今年は、参加できないんじゃないかな・とっていました。仕事も忙しくなり始める頃なので、秋は出られないなと覚悟していたのです。これが今年最後のまあまあゆったりできる連休かもしれない、何とか休みを取りました。おそらく、全日本以外は今年はいつまでかけている大会には出られないと思うのです。そういう意味では新開選手と今年の締めくくりをしたかったのですが、結果は決勝で福谷・高田ペアにファイナル5-7で負けてしまいました。ファイナルも5-1までリードしながらスマッシュミス2本で5-3、次の新開選手のサーブを2本落とし、レシーブミスと最後は高田さんのボレーをフォローミスでゲームセット。過去あまり覚えのない大逆転負けでした。しかもこの6ポイントはすべてポイントが我々の自滅でした。綱引きで、勝ったと思った瞬間手を緩めて一気に引き込まれてしまったようなものです。教訓になりました。また一つ認識を体感で獲得したのです。これは私にとって今後大きな財産になったと思うのです。

この日の反省は、決勝トーナメントの試合は良く凌いだなというのが実感です。決して調子も良くなく、レシーブは20点くらいのでき、ボレーは目が離れ、スマッシュは回り込みの時やや足が追いつかずタイミングが遅れたため2試合で3本ミスでした。しかもメイクマッチでの1本は大きかったですね。これで勝利が大きく遠のいた1本でした。まあ、そんな状態でしたが、目標は2つ。個人的にはレシーブをしっかり打ち切ること、ペアとしては諦めないこと。レシーブについては何とか目処が立ったかなというところです。最後の福谷さんの試合ではセンター以外はほぼできました。あとはセンターにしっかりエースが取れることですね。これをあと一ヶ月で練習します。基本が大切ということです。私はレシーブが打てないときは20-30%くらいしかプレーはできないと思います。それだけストロークは大切です。

新開選手と組んで今年成長したのは、2枚腰ができたかなということですね。途中で立て直すことができるようになりました。試合の中で戦術や攻撃のパターンを決めてやり直せる、これがまるで自分一人のようにできるのです。彼がこういうところに打つから、こちらを守ってくれといえれば彼のようにやりますそれが大体当たりです。僕がこのコースに打つここを空けるので次はこういう攻め方といえれば彼は実に生き生きとそれをこなすのです。それは素晴らしいことです。一番良いのは、お互いがミスすることは仕方ないから次の1本に集中しようと考えていることです。どんなに大きなミスをしてもし赦せるということが自然にできることはなかなかできないことですが、彼にはそれを感じるのです。この精神的な信頼関係はすべてのことを成長させる原動力です。お互いに成長を続けていきたいものです。

今回の福谷・高田ペアはこれまでの印象とは違い、常に攻撃的であったと感じました。それは福谷さんの打球の鋭さに表れていました。決勝1ゲーム目の1、2本、2ゲーム目の1、2本これらは速いだけでなく切れがある・というのが合っている表現だと思います。近年今回の福谷さんの球ほどの切れに会ったことがありません。空中での伸びが違いました。2ゲーム目の1本目にクロスコートに行ったボールが大きくコートを外れ隣のコートに弾かれました。この時、うっ・と感じました。先週の山中溪での練習会でも同じ展開で抜かれています。しかしそれは少し違うものでした。福谷さんの「取ってみろ!」という気迫が籠もっているものと抜いておこうというものの差でしょうか?ボールは非常に似たものでしたが、全く性質の異なるものだったように思います。高田さんも、ぐっと存在感がありました。安達・直原ペアとの準決勝もミスしてもミスしても前に詰めてポイントも同じくらいありました。皆、ミスが多いねと言っていたが、ちょっと違うと何となく感じました。直原さんと真向勝負をして行った福谷さん、安達さんとやはり勝負の位置にいた高田さん。その緊迫感は55のベストマッチだったと思います。テニスをしているという充実感・そして打ち切って勝った福谷さんの気持ちは見ていて感動を覚えました。いいゲームでした。

2008.8.23

オリンピックもあとは男子マラソンを残すのみとなりました。色々な競技があり、それぞれに最高峰の戦いをしてそれぞれの思いで栄光を掴んでいる、そして掴み切れていない人もいます。勝負の世界はどこぞの国の順番をつけたがらない教育とは無縁に厳しい順序が待っています。戦うことや勝つことに意義を持たさない教え方がある意味では良いと言われているが、それは競争社会では原理原則から外れているものであるという認識は持たせた方が良いでしょう。

しょうね。知識ではあっても認識しない欠陥人間が増えるだけかも知れませんが…。ルールに統一性のない競技、主観が点数に反映される競技の無神経さには今回も何度も首を傾げました。やはりそんなものは公式競技に取り入れるべきではないと思います。体操やシンクロなんかですね例えば。個人鉄棒などは誰が見ても中国人の優勝はあり得なかった。野球のストライクゾーンは明らかにおかしかった。でも日本が負けた原因はそんなことではないのですけど…。もっともらしい理由にしてしまうのはいけません。データに頼り一発勝負は殆ど勝てない日本の野球がトーナメントで戦う国際試合に通用するわけがないでしょうね。今回テレビで見ただけでもピンチの時のピッチャーの目は韓国戦の岩瀬、アメリカ戦の和田はいずれも死んでいました。明らかに監督の交代時期ミスですね。日本では任せるぞ!の一言で勇気が出た…なんておかしいでしょ。その時その時の一瞬の判断が監督の持たなければいけない勇気でしょう。それで失敗してもそれは仕方がない。しかし、今回はそうではなかった、一試合一試合で勝敗の決まるトーナメントです。全試合気を抜いてはいけなかったところでした。厳しいようですがあの2試合の采配を見て星野監督の勤は明らかに錆び付いていると感じました。また、ソフトボールにしろ、野球にしろ負けても2回くらいは優勝できるチャンスが残っている組合せもおかしいですね、笑ってしまいます。明らかに敗者復活戦が何回もあるのですから…。まだサッカーの方がマシでしたねその点は。陸上競技の100mなどは日本人が出ていなくても決勝まで中継します。でもテニスなんか日本人がいつ出ていつあったのかさえもわからない。放映さえもされない。誰が優勝したさえもわからないですな。これは一体なんなんですかね？シンクロも新興中国やスペインが出てくると殆ど扱いは低いですし、そもそも数年前メダルが取れそうな時は個人名を出して特集を組み…なんて時と隔世の感がありますね。

私が言いたいのは、そもそも差があるのは仕方がないから、もっと厳しい評価をマスコミはしなくてはイカンでしょうと言いたいのですよ。柔道だって、JUDOになって明らかにスポーツが変わっている。それなのに国技国技と言って選手にプレッシャーを与える。おまけに金メダル以外は同じです！とまで洗脳された19歳の選手まで出る。絶対勝てる根拠はどこにあるのですか？競技を同じ年月同じ思いでやってきた人が地球の裏側にいて、その情報が正しくなくて、日本が一番なんだから！などと精神論だけが膨らんでいく。それは根拠ではないでしょう。勝てる根拠では無いでしょう。それはソフトテニスにも言えるのですよ。韓国や台湾はルールが変わったとき明らかに新しいスポーツとして研究をして対応しています。それがダブルフォワードであり、韓国のバズーカであり、台湾のカットサーブです。台湾はシングルスプレーヤー二人がダブルスをするというスタイルでソフトテニスを逆転発想から進化させてきた。韓国は日本の弱いところ、前衛のサービスレシーブ後の対応に的を絞って徹底的に差をつける練習を行った。そして後衛の前衛としての徹底訓練を行った。それが台湾と韓国のダブルフォワードの成立過程の差です。ただ共通して言えるのはダブルフォワードは雁行陣に勝てるという彼らの結論は同じであったことです。日本は形だけを見て取り入れようとした。でもそれは付け焼き刃で、本物にはなっていないのです。これからソフトテニスはどの方向に行くのか、どうすれば先んじていけるのか…個人レベルでも日本連盟レベルでももっと真剣に考えて行かなければならぬところでしょう。…と思いますが、いかが？

2008.8.21

お盆が過ぎると、急に秋風が感じられます。ここ2-3日は本当に涼しくなりました。そうすると、何だかテニスを一生懸命やろうという気になります。現金なものです。新しいラケットを用意して、新しい気持ちで張り切っていきましょう。…でもまだ残暑が厳しいと思いますけど…。

2008.8.17

大阪総体が迫ってきました。夏の終わりに開催されるこの大会に毎年参加していますが、今年はどうでしょうか？昨年は第2シード吹田市のパックに入り厳しいなと思ってのですが、逆に1回戦を突破すれば比較的楽に決勝まで進みました。ただ、体力が持たなかったですね。今年も暑さが普通ではなく、やはり不安を感じます。調整をしながらいきたいものです。今年は大阪府知事も替わり、何かと緊縮財政で行こうとしています。総合体育大会とはいえ、一部の選手のために府の予算をだすのか？…と言いかねないのでこの大会の存続に危惧していましたが無事に開催されるようです。私は何でも中止していく体質は避けたいと思います。止めてしまうのはすぐできるでしょう。しかし、継続することは難しい。そこには良いものも多くあります。見直して取捨選択をすることが良い指導者ではないのでしょうか？新しいものを創れば、そこには必ず抜けるものがあります。不要なものも多くつくってしまうものなのです。誰も分からないのですから。運用してみてそれが良いか悪いか見直す機構があればそれはまた良いかもしれませんが、人がやることで、またよからぬことも入る余地があります。それよりも今の体制のスリム化と均衡化が最も短期間で成果を上げる方法でしょう。良いリフォーマーを望みますが、デストロイヤーは望みません。

2008.8.16

岡山に帰省していましたが先ほど帰って来ました。古里はやはりいつもと同じで柔らかく迎えてくれます。暑さも益過ぎれば少し朝晩は凌ぎやすく感じます。今年の夏は暑いな・と会う人は口々に言います。そうですね、毎年暑いので良くわかりませんが。

どこにいても今はオリンピックの話題でギッシリです。しかし、テニスでさえ、殆ど前評判なければ放映さえもいつやられたかさえも分かっていません。逆にフェンシングやカヌーなどマイナーであったとしても勝てそうならテレビカメラが追っかけてきます。時間枠も拡大し、ヒーローが創られていきます。勝ということが宿命のような人たちもいます。彼らはある意味では可哀想ですね。期待もされますしそれに負けないように十分努力をしてくれていると思います。しかし鈴木選手のようにあまりにも完璧に負けてしまうことだってあります。彼のインタビューは力も気力も無いものでした。しかし、そういったことがスポーツの宿命なんです。勝つものがいれば負けるものもいる。頭だけでもダメですが、筋肉だけでもダメです。その和がいかに優れているか…それは予測の外にあります。目に見えるものだけなら、結果の推測は簡単でしょう。でも勝負事はそんなものではありません。強いものが必ず勝つなら、勝負なんかないでも良いでしょう。しかし、この次は勝とうと思う、次は勝ちたいと思う、次は勝つと思う、次は負けないと思う。これが勝負師の宿命です。目標があるなら、どうやって勝つかを考えて実践する。それで初めて勝てるでしょう。ライバルがいなくなれば自分との戦いです。今回もそんな人たちが何人かいたようでした。かれらは口には出さないけど、本物は何となく分かります。表現は皆違うのですけど、言っていることは皆同じだと思えるものでした。

2008.8.11

土曜日は榎原コートで練習でした。大阪から外環状線で南へ下り3年前に開通した南阪奈道路に乗ります。この道は

とても有益な道路です。私の自宅から約30分で奈良の都に連れて行ってってくれるものなのです。南阪奈道路に乗ると二上山が見えます。アメリカならツインピークスというところなのでしょう。道のTOPに近づくと大阪と奈良を貫くトンネルがあります。このトンネルを過ぎてしばらく走ると眼下に広い平地が広がります。これが古代の都の末裔である奈良盆地です。その盆地のやや南側を南北に切り裂くように東西に延びる南阪奈道路、そしてそれに続く大和高田バイパスが延びてゆきます。遠くに大和三山が家並みの海に浮かんだ小島に見えます。少し厳しい神々の住んでいるような畝傍山、美しい綺麗な円錐型である耳成山、そして最も有名なだけけれども実はどこにあるのか近づくと良くわからない生活感のある天の香具山がここからははっきりと見えるのです。香具山もこの位置から見ると山として低いけれども分かります。色々な風景がありますが、南阪奈から見るこの景色はのどかな奈良の都の昔を想わせ、またこの日本の人口の多さを感じさせてくれるものです。何となく心の中の郷愁を誘うものがあります。

このコートも夏はさすがに使用する人が多くはなく、特に12時付近だととんでもない暑さです。あれほどテニスが好きな人が集まっているのですが、ひと汗かいたらなかなか立ち上がりません。余ったコートがますます暑さを感じさせます。その日も3ペアくらいしかいませんでしたので、とても連続ではやれませんでした。ただ、暑さの訓練でしかないということですが、ここでやっておかないと試合でバテるという気持ちもあり、皆のそのそと出ていくのです。

しかし今年の夏は異常です。こんなに暑い日々も知りません。

その日もいつものように食事をしたあと筋肉をほぐすために近くに温泉に行きました。昼間から湯につかりボーッと1時間ほどゆっくりと体を弛緩させました。そこまでは良かったのです。。このあとが問題でした。家に帰ってビールを飲み、テレビでオリンピックなどを見ながら横になっていつしか眠りました。寒っ！と思い、気がついてクーラーを消したのですけどもう遅かったのでしょうね。その夜、なんか寝付けなくてすぐ目が覚めます。起きてもすっきりとしないのです。体中痛いのです。久しぶりに練習を激しくやったからこんなに疲れたのか・・こんなに回復しないのは・・歳かな？とか、お腹も痛く、胃が全く動いてないようでしたので・・やはりどこか悪いんじゃないのか？とも悪い方に考えたりもします。結局3, 5, 7時と目が覚めて、7時には不快ながらも起きてみました。でも体がだるく、節々が痛く、腰も痛くなって・・こんなじゃ、テニスなんかもうできないなあ・・なんて思います。グダグダしながら昼になりました。長ーい！と感じています。それでもまだ「ラリーくらいならできるんじゃないか・・」と考えます。外に出ると、何これ！ってくらいの暑さ。Tシャツを通して皮膚がジューツと焼けるようです。思わず目眩がして、今日はやめとこう・・とやっと気持ちの整理ができました。往生際の悪いことです。さらに3時になり、まだすっきりしない、おかしいな熱あるんじゃないか？と測ってみると37.5度熱の出始めはしんどいときです。そりゃダメだわな・・とそのまま寝っ転がって1日が過ぎていきました。

たまにはこういうこともあるんだと普段あまり病気をしない人は自分の体調が悪いのを気づかないで頑張りすぎてかえって悪くするのではないのでしょうか？自分を見つめ直さないと危険かも知れませんよ、シニアの皆さん！！

2008.8.7

この2週間ばかり、あまり運動をしていないので体が少し楽になったような気がします。春先から西日本シニアまで割と計画してテニスをやってきたつもりでした。知らないうちに疲労が貯まっていたのかも知れませんね。本当に、西日本シニアが終わってから腰痛と背中中の張りが酷く寝ると腰が痛いのです。そして起きて体を動かして背を丸めたり伸ばしたりすると息ができないくらい背中に緊張感が残ります。また腸の調子が悪く2-3週間も一日中下痢が続きます。食欲がないわけではないし、胃も痛いわけではないのできっと腸が弱っているのだらうと思いました。冷たいものを控えれば、もっと休養が必要なのかも知れません。休む勇気も必要だと・思っているのですが、心の割り切りができないのです。それでは長持ちしませんねえ。

やっと、体も回復したようなので今週からぼちぼちやり始めます。大阪総体に向けて調整しましょう。そして、秋の大会に間に合うよう小早川さんと再調整を始めなければなりませんね。

2008.8.3

8.2-3と久しぶりに講習会とやらで土日に缶詰でした。部屋の中から外に出ると目眩がしそうな程暑い日々です。ジリジリと太陽が服を通して背を焼きます。蝉だって死んでいるんじゃないかと思うくらいの暑さです。私の家の前に何匹もネコがいるのですが、いつも塀の上で顔を合わせると一目散に逃げていきます・・のに最近ではぐったりとして頭に触っても逃げようとしません。熱射病なのかも知れませんね。あんなに厚い毛を纏っていればそりゃ暑いでしょう。テニスも今週はしていませんが、やっている人があまり羨ましくないことでした。珍しいことです。

でも、来週に備えてガットをハットキマショウ、せつせと。

2008.7.27

今日は中学校大会男子の部でした。朝からかなりの気温が上昇、真夏の太陽が照りつけます。7月に入ってから大阪は暑く、体はもはや疲れのピークのようなのですが中学生達は元気です。もはや3校しかソフトテニスをクラブとしてやっている学校はありません。また技術も低迷の一途でしたが、今年の亀井中学は後衛はかなりの数、前衛も数名はかなり期待の持てるものがありました。先生方も2名男子顧問がいて熱心に指導されています。木下先生は硬式をやっていた人ですが、軟式にも理解があるのか年々質が向上しているように思えます。ここからもう一段高いところに行くには、生徒だけでなく指導者の意識改革も必要です。どれだけのことをやればどこまで行けるかを知らなければ目標も運営基準も定まらないでしょう。このままで留まるのかそれともう1段2段高みにいけるか、それが問題です。

2008.7.24

今、私は大阪の堺市の南に隣接する高石市に仕事で通っています。電車は近鉄-JR-南海を乗り継いで南海羽衣駅まで行きます。そこから会社まで車か社バスを利用して構内に入り、さらに10分ほど歩いて事務所に入ります。Door To Doorで1.5時間といったところです。30年間15分の通勤時間だったのでやはり長い時間は疲れます。今日は夕方7時頃の社バスで駅まで行きました。車窓からは夏の夕暮れの入道雲と初秋を感じさせるもの悲しい空気が感じられます。真夏ののに何故か孤独感と寂寥感がありました。

2008.7.22

吹田でスーパーシニアカップが開催されました。今回は関西の方のみで関東の参加はありませんでした。東日本選手権と重なることもあり不参加の方もおられたようです。前年度は決勝で日没という結果でした。今年はしかしながらリーグ内でもマッチを5本くらい逃し逆転されて2位。トーナメントも1回戦で2-0の3ゲーム目、何本もポイントを取られながら逆転され、あとは押し気味ながらもズルズルと敗北してしまいました。僕のミスがポイントが多く、決して小早川選手もベストの状態ではなかったが、徐々に上向きかけていた調子を狂わせてしまったのが敗因です。前衛は打つ回数は少ないけれどもちょっとした劣勢を生じさせてしまうことがチームの気運を落としてしまいます。今回もポイントにはならないけれども僕の所為で失ったポイントが数多くありました。結果は後衛のミスですけど、それはそこに打たせてしまった前衛の責任なのです。何となくズルズルと・歯止めがきかなかったのは未熟さ以外に何もありません。シニアになるとそこまでプレーを続けている人は差などは髪の毛ほどしかありません。その日の調子や体調で大きく順位が変わった来ます。そんなことは頭では分かっているのですが、ついついやってしまいます。自分に厳しくなくては勝てません。

東日本選手権で50歳の部 優勝は松本・津吉 2位：新沼・大山ペアと連絡が入りました。新沼選手は今年の超壮年で決勝で負けました。遅咲きの選手ですが、テニスに賭ける情熱は並々ならぬものがあります。時には強引に見えることもあります。それでも自分を貫いていくことができる強さを持っています。パフォーマンスをエネルギーに変えて、おめでとうございます。

松本選手は学生時代、関東学連の4部で長く一緒にやったのですが、当時は彼とは試合をさせていただけるほどの力はありませんでした。昨年関東甲信越大会55の部で優勝された河野さんと大将戦をやっていたのを思い出します。勝率は5割くらいではなかったでしょうか？当時から柔かいテニスで定評がありました。久しぶりにに見たのがもう5-6年前。世田谷オープンでしたが、その前に彼は全日本チャンピオンになっていたと思います。津吉選手は、シニア45名古屋での試合で谷尾・杉野ペアとやったのが初印象です。神戸の大会では高宮選手とBest8がけてやり、負けてしまいました。あの年は我々も充実期でしたので、次の篠辺ペアとやると思っていたのですが、彼らに完敗でした。運動能力の高さ、野性的とも思える勘の鋭さでボールを捕らえられたのを覚えています。また昨年の全日本シニアミックスで当たりファイナルで敗れました。ゲームカウントリードしたところで思いきりのいいアタックを彼の腹の内側をめがけて1本打ったのです。会心の当たりの高さでしたが裏面でジャンプしてボレーをされました。咄嗟の判断であんなことができる凄い能力です。その津吉選手が、新沼選手と組み1昨年の北九州インドア・世田谷オープンに出場。その頃から良く話をするようになり、何となくテニス観が似ていたりするのかと勝手に思っているのですが、良い友人になりました。

今回西日本で勝ったよとメールをしたところ「俺もそれじゃあ頑張るわ！」との返信。優勝が決まったあとすぐ「俺も勝ったぞ！」とのメール。流石です。彼らは全日本もシニア50で出ます。私も小早川選手と組みシニア50の最後の年です。彼らと当たり、テニスで十分会話ができるようにそれまで頑張りたいと思っているものです。

2008.7.14

昨日は岡山に帰り、高宮選手のところに行きました。津山のスポーツ公園の近くの南側の斜面に眠っています。ホームグラウンドのテニスコートがすぐ近くで、耳を澄ませばポンポンという音が聞こえます。朝9時過ぎにお参りに行ったのですが、もうすでに花と水が手向けられていました。7/13の日を覚えているのは僕だけではありません。もう4年もたつのですが・・速かったなとも思いますし、いろんなことがあったなとある意味では長くも感じます。僕の心の中には彼はいつまでも歳を取らないでいます。最後に見せたあの優しいまなざしは今でもしっかりと目に焼き付いているのです。しかし・・僕が今続けている旅の結末は一体何なんでしょう？？終わりが無いものなのかも知れません。今は何も分かりません・・残念ながら。

2008.7.8

西日本シニア選手権が終わりました。今年は55歳になって新開選手と組み、非常に幸運なことに優勝できました。ペアの新開さんは元より、いろんなところでお世話になりました皆様方には改めて御礼申し上げます。特に先週の西脇庭協のシニア練習会には、新開・高原で参加させていただきました。非常に激しい雨が降り、pm1:00からの開始でしたがコートは水浸しで大丈夫かなと思ったのですが、次第に雨がやみ終わりの頃には陽が強く差し込んでくる状態でした。その中で、新開・高原は遠くから来ているので早く試合をするよう皆さんに先んじてコートを使わせていただきました。本当にありがとうございます。木下・生駒、客坂・大塚、柿原・呉さんとやらせていただきました。特に木下ペアは55歳の上位常連で気合いを入れての練習には頭が下がります、あの直向きさがきつとお互いの信頼をもたれている理由なのでしょう。本当に名ペアと思います。

試合の方は、リーグ内での試合はやはり緊張を最初します。予選は4チームのリーグ戦です。しかし何とか乗り切って2日目に、2日目も残りの1試合があります。奈良の前田・中村ペアです。このチームとは3月の富田林練習会でやり、結構簡単に負けてしまいました。そのイメージもあり、気合いを入れていきました。ただ新開選手はあまりそんなことお構いなしで打っていきます。僕もその方が強いだろうと思います。そのおかげで、殆ど何もすることなくゲームセットでした。ただ、この日の新開選手の勢いは素晴らしくあまり手出しをしない方が良いとさえ思えるほどでした。次の第4シード細川・松本ペアの時もその勢いは衰えず、本当に完璧に近い当たりがでていました。試合が終わってすれ違う人に皆口を揃えて「まだ目は開いていないな？」といわれるのです。寝ているように見えたのでしょう。死に玉処理もあまりない感じでゲームが進んだのでした。細川さんが悪かったのではなく、新開さんが良すぎたのでしょう。きっと。次はベスト4決め、見座・木下ペアです。この試合も新開選手は入りは良く簡単に1ゲーム取れました。そのまま行くのだろうと思うと、次の2ゲーム目から連続3ポイントバックアウトしました。そこからおかしくなって今までのようなスピードボールが打てません。あとという間にゲームカウント1-2。次のゲームを取られるとこれは苦しくなります。必死の思いで長いジュースを凌ぎ2-2、少しムードが良くなりかけました。しかし、ホッとしたのか次のゲームをわりと簡単に落として2-3。万事休すです。私もすっかり目が開きました。しかし、ここは見座さんチームも少し大事に来てくれてロブが多く、スマッシュを何本か決めて3-3ファイナル。ここで新開選手は立ち直り、ボールカウント4-0まで先攻。あとは少しずつポイントを重ね7-3で勝利。今日の3試合分をまとめてやった感じのゲームでした。ベンチでは「目が開いた！目が開いた！！」との大合唱でそんなにも、今日は何もしていなかったのだなあ逆の後衛のできの良さで痛感したものでした。準決勝は鶴尾・中川vs八代醒・岩切ペアの勝者。鶴尾さんは東西対抗戦で足を痛め練習は足りていないというもののここまで上がってきています。八代醒ペアは今年の山手全国大会で負けており、今年はリーグで吉村・渡部ペア

を破り上がって来ました。試合を見ていると非常に思い切りよく打ってます。岩切選手も思い切りよく出ていきます。どちらが勝つか分からない長い展開でファイナルの結果、八代醜・岩切ペアとの対戦となりました。同じ相手には2度続けて負けな！と言う気持ちで今までやってきました。今回もその意気込みで最初から飛ばして行きました。新開選手はリーグ内の相手を吹き飛ばすようなテニスではないけど、つなぎの球が非常に速い展開になってきました。集中しているのでしょうか、アドレナリンが良い速度で出ているのかも知れません。非常に冷静ながら体は十分動いているというテニスができています。僕はその流れで思うように動けばいいのです。4-2で勝つことができました。対戦相手は安達・直原vs木下・生駒ペアです。先週の練習の結果がそのまま出ているのでしょうか、木下・生駒ペアは前田・福田ペアに4-0で勝った中村・津田ペアと福谷・高田ペアを破り進出して来ました。長いゲームをやりましたが、安達・直原ペアが上がりました。

相手を聞いたとき、これはやっとチャンスが来たと思いました。思えば高宮選手とペアを組んで全日本シニアに出はじめて10年の月日が経ちました。不思議なことに公式戦(ローカル大会以外)では安達・直原ペアとやったことがないのです。一度はやりたかったペアです。岡山での合宿や広島での広友会の練習会を通じて、彼らは僕たちの目標であり高宮選手と「いつか安達・直原ペアに勝つ」と約束をしていたものでした。練習試合を通して一度も勝ったことがありません。ゲームの始まる前、10分くらい前にコートに入りました。すると足がやや緩やかな痙攣をします。何歩か歩いてみました。下肢の前側が痙攣を始めました。大したことはないけど、これは持たないかも知れないと思い、薬を探してみました。必ず持ってきているのですけど焦っていると見つからないものですね。良く探していると鞆の中にアミノバイタルが入ってました。また漢方薬や塩をいただき同時に飲んで5分後、体中の痙攣がスッと引きました。焦りは消え冷静になりました。これで戦える。試合が開始しました。ネットを対峙して彼らを見ると昔の記憶が甦り、思わず霞んで来ました。集中力どころではありません。自分のところに来たボールに合わないのです。あとでビデオを見るとボーッとしているように見えます。2ゲーム終わり、新開選手が「高原、綺麗にやろうとしようわ、元気出せ！」と言ってくれます。ああそうだ、ここでちゃんとしたテニスをして本当に夢が実現するんじゃないか・・と考えられました。すぐには戻りませんが、このゲームもたつきながら取れました。1-2。

チェンジコートでベンチ側。皆頑張れ！大事に！リラックス！と励ましてくれます。自分で「キンチョーするわ？！」という皆禁句だったので、やっと「ほんまやでー！！」と言ってくれるのです。思いやりのある良い仲間達。さあ、ここから・・と思っていたのですが、なんか直原さんの様子がおかしい・・安達さんが足を押さえています。足がつっているのです。何ということでしょう、ひょっとしたら僕もあれと同じ姿であったかも知れない。この炎天下で新開選手が当たりをして1試合15分くらいで終わっているのと、他チームの30分かかるのでは全く筋肉の消耗が違います。その幸運と、コートでの体の異変に気づき処置をする時間的余裕があったこと・・これはとても大きなことです。さて、5分後試合は再開されましたが、もう明らかに直原さんの様子が違います。動けなくなっていました。簡単に2ゲーム取り3-2。6ゲーム目もポイント3-2。最後のボールを直原さんがスマッシュしたのですがネット。勝ったとおもった瞬間、直原さんがコートで両足かなり激しい痙攣を起こしています。もう良いですねと審判に断り、治療に。10分後になんとか治まり改めてゲームセット。皆さんに「おめでとう！！」と言われやっと終わったんだと思ったものでした。その後、皆さんから毎日お祝いメールが届きます。ありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

2008.6.22

雨が多い季節です。今年は梅雨も梅雨らしく降っていますが、やはりリスコール型というのか昔のしとしと降るというイメージからドバッとパケツをひっくり返したように降るという感じに変わってきました。温暖化が進み垂熱帯化してきているのでしょうか？長いスパンで見れば今は間氷期の中の周期の中で最も気温の高いところにいるんだから心配要らないよと言ってた人もいます。しかし我々は100年の周期を感じて生きられるほど体が丈夫ではありませんから、今が大切なのです。今年の夏をどう乗り切るかがとても大切なことなのです。

2008.6.10

時の記念日です。時間を大切にしているのかなと言われれば自信のないところですが、シニアになり55歳を過ぎると色々な変化が身の回りでも起き始めます。入社した頃バリバリだった先輩諸氏が定年で会社を去り始めます。最近では再雇用制で残る人もいますし、余裕のある人やこの会社がイヤな人はサッサと辞めていきます。65歳まで年金が出ないとなれば仕方ないでしょうが・・とも思います。私なんかは、早く自由になってやりたいことをもっと自由にやりたいと思います。定年すると時間があってしょうがないと言う人もいるのですけど、そんなことはないだろうと思うものです。とにかくそんなことを考えるようになってきたと、ということは残りの時間を気にするような年代になったということですね。

北九州のシニア全国大会から帰ってきましたが、予想もつかない展開で本当に疲れました。おかげで、集中力を持続することや向かっていかねばならないと認識したり1本のミスが命取りになるのだと痛感したりとても勉強になりました。栄原さんから、「55デビューにしては随分ドラマチックだねえ」と言われてしまいました。本当に安定感のないところですね。後半の細川・福田さんとの試合をビデオで見ると決して悪くはなさそうです。向かっていくのと受けるのとでは随分と差があります。1ヶ月後の西日本では、そんなことが無いようにしっかり行きます。最初の戦いはどこにおかれても仕方がないし覚悟はしています。挑戦するのは我々の宿命です。それにしても松田理事長をはじめ、児玉さん、中野さん、古屋さん、村上さん達にはいつも本当にお世話になります。楽しい時間が過ごせて本当にありがとうございました。

さて、今回の大会では鹿児島島の旧姓吉留さん(現 迫さん)にお会いしました。昔のテレビや大阪インドアでの試合などで拝見した頃とあまり変わらない感じでした。話したことがなかったのですけど、気さくで明るく、酒も強くまた良い酒ですね。昔と違い、前衛をやったり後衛をやったりしてテニスを楽しんでいるように見受けられました。でもあのストロークの安定感は素晴らしい。そしてそのフォームはバックシングが少しだけ小さくなったようでしたがあとは殆ど同じでした。変わらないものですね。指宿はとても遠いですが、鹿児島島の南の地でしっかりテニスは息づいているのだという感じでした。

2008.6.1

あつという間に6月になりました。その間に色々ありましたが、何だか世の中落ち着かないですね。ガソリン価格は6/1から13円/Lだとガソリンスタンドでは昨日どこでも顧客確保に躍起の様子。中国では未曾有の大地震。日本ではサ

ミットが続きます。大阪でもしばらくすると市内は厳戒態勢にはいるようで今はポスターがあふれています。私もいよいよ仕事が佳境に入りますので、そろそろテニスもしばらく試合からは遠ざかるのかもしれませんが、まだ実際のところは読めません。ストレスのかからないようにしたいものです。大きな地球のうねりとは無関係な私の生活ですが、人間の目標は一体何なのでしょうね。

2007.5.20

近畿大会が雨で延期になって月曜日になり参加ペア数がシニア45-55までは4-7ペアくらいで行われたようです。先日も近畿大会は週を改めたほうが良いと提言しました。色々なところへ練習に行きますと同じような意見が聞かれます。それだけでなく、実際に奈良の役員の人に直訴した人もいたようですけど、「結局何も変わらないものなあ・・」と嘆いておられました。

また、近畿大会の組合せにはいつも腑に落ちないものがあります。それは通常、同一クラブから参加した場合は(例えば4組)4つのブロックに振り分け できるだけ上位で当たれるようにしてあげるのがルールです。たとえ市民大会でも組合せを考えると、そのように配慮するために長い時間をかけて会議を行います。

そうやってもお間違いが一カ所くらいあるのは致し方ないところですが。しかしこの近畿大会、奈良県明日香コートで行われる試合は、大体同じチームの選手同士がどちらかのパッキンに入っていたり、3組エントリーしているのに片側にすべて入っていたりと散々です。1年くらいなら間違いかもしれないと思ったものですが、ここ3-4年間で例えば八尾市STAの出場組はすべて同じブロックに2ペア入っています。もし過去のものをお持ちならシニア50-55を2-3年間見てみてください。また、私のところだけではなく、そういった組合せに多くのクラブが同じようになっています。また、前年度の成績もほとんど考慮されていないようです。それはやはりおかしいと言わざるを得ません。近畿大会は格調の高い大会と位置づけるためにも、日程も そうですけど、組合せにも細心の注意を払って頂きたい。あまりにも酷いので、一度正式な抗議をしないといけないなど何人かの人たちとは話しているところです。個人的にいてもダメでしょうから、その時は加盟団体の連合として抗議をします。プログラムを作成している担当の府県の人たちには、そのようなことがあるのは恥と心得て、早急な改善して欲しいと思います。

2007.5.10

雨が降ってます。昨日の天気予報では今日は雨の確率80%・・こんな時は良く当たるもんですね。近畿大会は順延となって、ただし明日は一般男女があるので月曜日開催です。もちろん我々サラリーマンは殆ど出ることはできないでしょう。過去にも4-5ペア以外は皆棄権の時もありました。近畿大会は日曜日に延期というのではありません。しかし、月曜日にやらねばならない理由はないと思うのです。逆に、この時代に月曜日にやるのがおかしいのではないですか？宿泊を無駄にする・・というのかもしれませんが、中1日おいて月曜日にやるなら、帰った方がマシです。昔は交通の便が悪く、近畿大会でも宿泊が普通でした。もっと盛り上がったものです。しかし今は2-3時間以内で近畿だと会場に来ることができます。遠い人でも4-5時間でしょいか？そういったことを考えれば、1週ずらしても次の週にやった方が大会としての品格はあるのではないのでしょうか？

西日本大会と全日本大会は順延やむ無しとは思いますが・・。

話は変わって、東大阪超壮年大会では関東の新沼・中村ペアに3-④で負けました。この日は1試合ごとに波があり、安定しませんでした。小早川さんもやりにくかったことだと思います。それもレシーブがひどく1試合平均4-5本ミスする有様でした。過去にも打てなくなることがあり、必死で修正しました。もう大丈夫だと自信を持っていたのですが。原因は心の油断と姿勢です。やはり、試合開始の1時間前には最低現地に到着して、ウォーミングアップや調整をやっておかなければなりません。それにもかかわらず次の神戸の大会も同じような感じで臨んでしまいました。油断大敵、敵は内にあります。人というのはいい加減なものです。自分がいつもやっていることはやさしいことですが、限りなく繰り返し実行することは一番難しいことでもあります。

継続することが凄いいことだと、先日もとゴーセンの佐野さんに言われました。佐野さんにしてみれば、僕などは眼中になかったくらいの選手だったと思うのです。でも少しは良くなったといわれてホッとしているものです。また元気が出てきました。

2008.5.5

こどもの日です。今日は神戸しあわせの村で山手クラブ主催の全国大会があります。ちょっと天候が心配ですが、できれば頑張りたいものです。この連休中は徳島の新開さん、広島の栗尾さん、東京の新沼さん、中村さんが我が家に来てくれました。東大阪の超壮年大会と今日の山手大会に参加するためですが、昨日は檀原クラブのコートを借りて練習を行いました。夜は皆さんと色々な話をするのですが、尽きるころがありません。それだけテニスが好きで向上心があってまだまだうまくなりたいという人たちばかりです。特に新沼さんは高校をでてから45歳までの長いブランクがありましたが、最近の成長には素晴らしいものがあります。こんな言い方をすると失礼ですけど、ほとんどの人がまだまだ・・と思っていたのではないのでしょうか？しかし、一昨日東大阪の大会ではファイナル4試合を切り抜け見事優勝、決勝の相手は残念ながら・・私でしたが。緩急を使い分け長短を随所に入れて持ち前の運動神経の良さと勘の鋭さで振られたボールや取られたボールを拾いまくり、しぶとくボールをつなぎます。中村さんが強くボールを抑え、あきらめない二人のテニスに押し込まれた格好でした。

私もまた一つ生まれつつある大きなライバルに負けないように努力をしなければなりません。

さて今日は55歳の部での山手大会への初参加です、チャレンジします。

2008.4.22

忙しい今年ですが、どうやら7月ごろまでは何とか試合に出られそうだと思えるようになりました。練習はこれでいけるという確信がなかったために出遅れてしまっていますが、まだ試合は始まったばかり。今週からの連戦に体を鍛えておこうと思っています。私の目標は皆さんの目標と同じです。宝は一つしかありません。だからこそ貴重なものでしょうし賭けるものがあることはすばらしいことだと思うものです。

2008.4.13

桜の花びらが舞い落ちて、はや季節のうつろひを感じます。大阪の春を告げる北村全国大会が晴天の元開催されました。シニアになって毎年参加していますが、まだNo.1になったことはありません。高宮選手と参加した頃は、入賞が

ありませんでした。北の国の津山の冬は練習が殆どできないくらいですので、春先の試合はどうしてもイマイチでした。彼は「東は鬼門じゃのう」と言っていたものでした。その後小早川さんと出て、準優勝・8・3位と来ています。でもこの大会は難しい。大きな谷尾・杉野ペアがいます。この2、3位と優勝の差は大きいですね。彼らはやはりミスをしたくないのです。ソフトテニスはミスをしたくないゲームです。ミスが勝敗を分けます。現に今日の彼らとの試合でも、1、2ゲーム目に僕のネットプレーのミスが4-5本ありました。これらが皆入っていれば、形勢は一挙に逆転でした。それを逆ポイントさせてしまったために試合は一方的になりました。負けるときはこんなものですが、勝てる要素が無かったわけではない。ただ神様は今回我々の方に味方をしなかっただけです。ミスをしてはいけません。それが僕らの信条でした。それを少し忘れていたのかもしれませんが。試合というものは生き物だと感じます。人と人の有機的な心の配り合い、過去からの研究やその相手に対する優位性や劣等感が深層では得体の知れない堆積物のようにのしかかっているのではないのでしょうか？疑心暗鬼とはよく言います。実態のないものなのに自分が創り上げたまぼろしが何かの形あるものに投影されて見えてしまう・・・心の鏡なのかもしれません。恋人のことを思って歩いていると、ふとした瞬間に街などですれ違った全く違う人なのに振り向いてしまったりすることも良いほうでの解釈なのかもしれませんね。心の中に何かを持っていると、どちらかに動きます。テニスでは、いつも勝っていると・・・今日は負けるかもしれない・・・とどこかで思っていたりします。それが出てしまうのでしょうか？悪い方に傾いた流れは止めることがなかなかできません。一気に転落するのが普通です。ただ、こうも言えます。負け続けていると、相手の心には・・・今日は負けるかも知れない？・・・との疑心が頭をもたげてくるのです。そして、自滅の扉が開かれる。そうならないように、自分の心の中に強い気持ちと、裏付けとなる確たるものを創り上げなければなりません！！

2008.4.10

春となって皆何となくウキウキです。今年は入学式の頃に桜が咲きました。去年はとでも早く咲いたのですが、戻り寒波がやってきて桜は長持ちしま

した。でも造幣局の通り抜けは開花予想から大きく外れて終わり頃に2-3分咲きという惨めなものでした。

今年はそんなことはないだろうと思いますが・・・。

さて、先週の日曜日は中村選手と箕面市の市民大会に参加しました。結果はBest8とあまり芳しい成績ではありませんでしたが、まあまあなんとか動けたかなという感じでした。来週の北村全国大会には万全で臨みたいものですが。今回、何だか全部の試合に乗りきれないなあという感じでした。良い試合があったあとに続かない・・・体が動いていないわけではないけど逆に取りすぎてミスも出てしまうという悪循環。帰りの車の中では中村さんと分析をしました。がなるほど勝てないなあと思いました。つまりお互いが、普通にやっておけば相手が何とかしてくれるだろうと思っていたのです。最近の出来具合は毎週一緒に練習しているのだから分かります。彼は絶好調、私も少しは動けるようになってきています。まあ少し引きながら試合をしていたのが本当のところですよ。ソフトテニスは正直です。一生懸命向かっていけば恐らくはどんな相手でもかなりのところまで接近できます。本気になったもの同士が充実した試合を見せます。そこが我々には欠けていたのです。中村選手と「今度はお互いしっかり話ながらやろう」といいながら分かれました。こうやって少しずつ信頼感とか安心感が育つのだなあと思います。今日はペアで試合をしたのではなかった。前衛と後衛が2人で好き勝手なボールの打ち合いと取り合いをしていただけです。・・・

2008.3.27

暖かくなっていたのですが、今日は久々に寒い風が吹きました。きっとこれが冬将軍の最後の抵抗なんだろうと思います。先週の岡山で行われた広友会と吹田クラブの練習会に参加させていただきました。どちらのクラブも私にはなじみの深いクラブです。そして最も多くの友人先輩達を持つところでもあります。それは逆には多くのライバル達が切磋琢磨しているところでもあるのです。良い友人というのは、ただ寄り添って穏やかに過ごしているだけのものではありません・・・と思っています。そういった穏やかなまるで幼かったときの母親が持っているような包容力を感じるのとは今では幼いときに過ごした友人達のような気がしています。それはとても大事なものであるのですが今の自分たちの世界とは違うと思うのです。勝負事をやって知り合い、さらに 良き友人でいられるというのは、お互いが尊敬できる確かなものを持っているからに他なりません。僕たちが尊敬できるのは素晴らしい技術と勝負強さ、そして良いマナーといつも前向きな態度と向上心、そして謙虚さだと今はそう思うのです。シニアになって色々なことを知り、そろそろ皆会社でも転換期を迎えつつあります。人生の悲哀も知っていれば、素晴らしい感動も何度となく体感したでしょう。それがテニスに出るでしょうか？私は出ると思うのです。昔から、テニスは今の人間を映し出すと言っては笑われました。たかがテニスだよ。遊びなのにそんなものが出るわけがない。。と。それはちょっと違うな・・・といつも心の中で呟くのですが、声にはなかなか出ません。・・・そうかも知れないとも思ったりもします。・・・でもでも。やっぱり違います。たかだか20分くらいの試合の中にその時までのその人の生きた証、決断力や判断力、行動力、割り切り、集中力、体力、継続力、筋力、瞬発力、知力、洞察力、解析力、勘、経験の記憶力、過去の対戦相手のデータ記憶力と呼び出す能力、体への伝達力・・・そういったものが総合的に1本のボールに込められます。それが意識することなくできたとき、それが一種のトランス状態だと思います。時間をコントロールすることができる・・・そうです、1秒を1分に使えれば何も難しいことではありません。努力によって、そのような状態が創り出せればそれは努力したその人のその時点までの人生が出ているのではないですか？

2008.3.20

雨が降り続き春先の風の強い日でした。気温は暦どおりお水取りを境にどんどん上昇し、今や春という感じです。そろそろ各地から春先の試合の結果などが速報でやってきます。今日は松山で全関西大会が行われました。今年は遠征があまり出来ないということで新開選手は栗尾選手と出場し見事シア1部で優勝との事、お見事です。来週は吹田クラブと広島広友会の定期戦が行われます。また3/30には堺市で大阪団体戦も開催されます。年度末でもあり年始めの大会といっても良いでしょう。シーズンが始まります。

体調と怪我に気をつけて皆さんと良い試合がしたいと思います。

2008.3.9

今日は久々に大阪の上に移動性高気圧が真上にやってきました。気温も上がり、春だなあと実感します。しかし、花粉や中国から飛んでくる黄砂の影響でまた目や鼻水の出る日々がやってくるのでしょうか？私はどうやら花粉だけで

はどうもないようですけど、黄砂があるとあまり宜しくないようです。苦しんでいるテニスプレーヤーもたくさんいますね、きっと。

少し前になりますが2/9-10に北九州シニアマスターズ団体戦が北九州の穴生ドームでありました。毎年色々なチームから参加させていただいています。最初は岡山の田中さんから、高宮とどうだということでも声がかかりました。その後2年くらい岡山チームから参加させていただきました。その後で大阪の喜多村さんから奈良と大阪でチームを作っているということで参加、昨年は新開さんの発案で大阪徳島広島島の混成軍で参加。今年も新開さんの音頭でもっと範囲を広げて西日本選抜+1という名前で参加でした。メンバーは東京・鹿児島・大阪・徳島なんとバラエティーに富んだことでしょう。また北九州の松田さんをはじめとして役員・クラブの方々のいつも熱い歓迎とご厚意に甘えてやはりこの大会は参加しようと思うものです。試合だけに出かけていって自分の腕を試しけんか腰で相手をにらみつけた一般時代とは隔世の感があります。ただ、勝負事は厳しいものです。喜多村さんや松田さんの試合は食事をしているときはまるで別人、お互いを倒すことに集中した闘人の眼です。その域に達して皆さんと今後も戦っていきたくと改めて思ったものでした。

前日のレセプションでは福岡の甲斐さんと久しぶりに会いました。彼は全く酒が飲めないのですけど、ずっと酒の席で付き合ってくれます。安達さんや直原さんのような雰囲気を持っているなと思うのです。彼と話をしていると思うことがあります。彼は宮崎出身で高校時代はインターハイに行き、大学は桃山学院でプレーをしたとのこと。私の知り合いでは旭さんや岡西さんがいます。でも・・と彼はいうのです。高校時代の自分はシュートボールや試合の展開など考えなかった。で、大学に入って一部の人の試合を見たり試合に出ても全然勝てない、テニスが違うなと感じた・・と。彼も若いときは悩んだのでしょう、迷ったのでしょう。自分の位置が分からない、信じていたものが間違っていたのではないかと不安になる。また、テニスをかなりのウェイトでやっていただけにそうでしょう。私のように、半分負けても仕方がないやと思いつつやっていたのとは違うと思うのです。セレクションやそれを中心にやっていくことはある意味では背水の陣を引き自分の行き場を塞いでやっているようなものです。自由度の高すぎる場所では自己管理と意志の強さが必要とされます。逃避をしないでやれることは今考えれば難しいと思いますし、芽生えた小さな怠け心は消すことは出来ないのでしょう。彼は、大学をでてからフォームや打ち方、テニスの展開などを変えるように努力したといいます。今のテニスは昨年の全日本の決勝・谷尾・杉野ペアとの試合でも素晴らしい打力です。一昨年・その前年に北九州マスターズ個人戦で対戦したときもその印象でした。そうなるまでには凄く練習をしたのではないのでしょうか？凄くというのは長い時間とぎれることなく考え続け実行する才能を持っていることを含みます。飽きっぽい人はうまくなるのも早いでしょうが、そこから最高到達点に達しないことが多いのです。人より高いところまでは行ってしまおうので、誰もその人に言えなくなる。言われなくなったときに自分が謙虚さを失わなければ負けることはないでしょうけど、うまくなり続けるのでしょうか、現実はそのではありません。それが僕たちにとっては幸運でした。自分より強い人たちがたくさんいる、また日本中には僕たちみたいにあきらめないでひたすらボールを打っている人がいる。栄原さんだってそうです。一昨年の新潟の全日本でシニア45での優勝は男女とも地元新潟のペアでした。誰も知らない名前でした。しかし。急に出てきて勝っているのでは無いと思います。それまで誰も知らなかっただけで、ひたすらに時間を無視したテニスをやってきた。それがいつの間にか上手いと言われる人々を追い越してしまった・・なのでしょう。

世の中にはたくさんの達人達が眠っています。そういう人々はある意味では達観したものがあります。甲斐さんはこれからも勝っていくでしょうが、私も弛まぬ努力をして継続することを忘れないようにしようと思います。継続は力なり、力はまた継続を呼ぶ・・です。

### 2008.3.2

八尾選抜インドアがWINGで例年どおり行われました。参加チームが昨年より少し少ないせいか進行が割と早く、良い時間に終わりました。しかし、試合というのは疲れるものです。いつになく疲労感があります。昨日は今日よりも格段に多い試合数ですが、さほど感じません。集中力が高まって感性はとぎすまされて、精神的な使ったエネルギーは計り知れないでしょう。今日は心地よく寝られるのではないのでしょうか？

一般男子ではYSTの本山・宇田ペアのテニスと身体能力の高さに驚きました。一生懸命自分を磨いているといずれは誰も勝てなくなる。今の協会の選手ではもちろん彼らに勝てる相手は殆どいないでしょうね。最近のYSTのHPを見ると、彼らが掲げているポリシーは立派なものだと思います。八尾の中で協会とは違う歩みをしてきたクラブですが、成年になろうとしています。創設者達は姿を消し、新しい運営者達がクラブを支えています。頑張ってください。八尾もできれば連盟のような形で協会とYSTが融合していけばいいと思います。まだ時間はかかりそうですが、シニア45では堀内選手の成長が見えました。打つこともあり、つなぐこともあり、それらが割と力まずやりきれました。途中で一度、カツは入れましたが、冷静にやりきれぬ力がついたのだと思います。

私は、体重を少し落とさないと長時間は無理かなあと感じています。少し、基礎トレをしないとイケません。膝もイヤなきしみ方をしてしています。まだまだ、1ヶ月ありますが、オープン戦は始まったぞと各地から便りが来ます。東京では本日は16チーム集まってる試合・これも次年度を見据えてのことでしょう。世田谷オープンが来週。北村全国大会が4月2週、3週は天長杯、4/29は若水、5/3は東大阪超壮年、神戸山手大会、近畿大会とどんどん試合の予定が立ちます。さあ、今年はどんな一年でしょうか？

### 2008.2.10

明日は建国の日ですが、今日は暖かく日差しが強く感じられました。立春が過ぎたのですけど今年は平均気温が上がらず本当に寒い感じがします。でも雨が多くの季節なら雪でも良いとも思うのですけど、それほどのもでもありません。ただ昨日は雪が一日中降って大阪市内でも5cmの積雪があったと聞きます。しかし最低気温は0℃を割り込むことはなく氷の張ることもなく、車のフロントガラスも曇ったままです。やはり温暖化しているのかと不安にもなります。楽観的な見方をすれば、暖かい周期と寒い周期が30年くらいでありいまは暖かくなっている時だから心配することはないよと言っている人もいましたけれども、初めて経験することですから子供の時と比べて異常なんだと思っています。

今日は八尾のテニスコートは満員御礼でした。暖かくなったのと、来週は東大阪インドア大会と試合が始まります。そのせいと昨日の雪で皆練習場所を求めてやってきたようです。ただ、自分たちだけの練習ではなく八尾と交わってやって欲しいというのが私の希望です。都合の良い時間だけやってきて試合をさせてくれという態度はあまり良くないと

思わないのですかね？仮にも大学時代は一流選手として活躍していた人たちですから、それくらいの分別は持って欲しい。うちのクラブは、前2時間は基本練習をやり、あと2時間はゲーム練習をやります。それは皆知っていることです。公平に練習をして、試合をしてこそクラブ員ですし、ピッチャーならもっと謙虚にせめて練習時間に来てボール拾いの一つもやってしかるべきだと思います。お金さえ払えば良いというものではありません。人はその態度や行動で信頼関係を持ってやっているものです。年に何回かしか来ないのならば、もっと気をつけてやって欲しいのです。お互い子供ではないですから、注意しなくともそれくらい分かるでしょう。テニスが上手くなればうまくなるほど気をつけてください。

### 2008.2.3

本日は八尾市家庭婦人インドア大会が市立体育館で行われました。例年、大阪インドアと重なるため、挨拶くらいでゆっくり見ることはなかったのですが、今年は外は雪交じりの雨と大阪インドアも1週ずれたため観戦することができました。長い歴史を誇る体育館で寒さと照明の悪さは相変わらずですけど、親しみの多い体育館です。しかし、いつかは取り壊されてしまうのでしょうか。最近、東京でも学習院大学の記念講堂が取り壊されたと・・ウルトラマンだかのロケに使われたのでしたね・・。今年は例年と違い八尾だけでなく外部からの招待の方々も多く緊張感がより強かったです。やはり適度な緊張感が大会を盛り上げレベル向上にもつながるのではないのでしょうか？これからも八尾に縁のある方達をお呼びすればもっと皆さん良くなるのではと思います。優勝された本山・黒岡ペアの準決勝・決勝の戦いを見ているとやはり今日のペアの中では最もバランスが良かったなと思います。黒岡さんの勝負所ではしっかりと出て行ける強さと劣勢になったときのフォローが何回も試合をひっくり返していました。じっくり見ると負けるかも知れない試合も多かったです。中村・門司ペアとの準決勝は中村さんに試合開始にサイドパッシングで2本ほど通されクロスが追えなくなりました。ゲームカウント1-2の0-2のボールカウントで中村ペアのスマッシュボールの処理ミスでもたつき気落ちして2-2・・ズルズルとゲームを落として2-2。次のゲームで本山組2-0からの1本を取り3-0。ここが天下分け目でした。もし中村ペアが2-1の2-0から次の1本を取ってれば2-1の3-0で80%は勝利を確信できていたところでした。それだけ大きな1本でしたが、どうやらやっているときに重要性は感じていなかったように思いました。テニスの技術は様々です。ソフトテニスには技術と戦術そして流れを読み呼び寄せるスポーツでもあります。ともすれば技術ばかりを教えるて欲しいといわれるのですが、1試合の中のストーリーを研究することや創り上げること、状況が変化するときどのように対応して行くのかを考えて見た方がきっともっとソフトテニスの楽しさが増えるのではないのでしょうか？簡単なことの繰り返しですが大切ですけど、実はその単調さの中に真実が多く潜んでいるのです。

### 2008.1.20

先週1週間、東京方面に出張でした。職種が変わったこともあり慣れるのにまだ不十分ではあります。テニスも自分のペースでやるしかないので今はラリーや基本練習のできる八尾のコートでできる限り若いメンバーとやればいのではないかなと思っています。幸い、次世代をになってくれる新芽達が黙々と練習をしてくれています。いつもはやる人たちとも冬の間に練習屋試合もやってもえまますので、速いボールへの体の対応はできるだろうと考えているのですけど。なかなかやはり反応が速いのでシニアのプレースメントを重視するテニスだけでは決まらなところもあります。だから、ボールを押すこともしなくてはなりませんしい勉強になります。一番心配なのは、昨年痛めた足首ですね。今日も雪が降りそうなくらい寒い日でした。センター試験も行われています。毎年この日は雪が降って一種のジンクスみたいになっていますね。最も寒い頃でしょうか？まだまだ旧暦では12/14ですので冬のど真ん中ですね。年末からテニスをして足はそんなに痛くないと思っていたのですが、やはり調子に乗ってはいけません。古傷との戦いになるのではないのでしょうか？

来週はもう全日本インドア大会です。先週は大阪代表の猪原君と練習をしました。パワーとスピードのある前衛ですが、ダブルフォワードで出場します。良い後衛と組んでいけばかなり良い成績が収められるとは思いますが、ペアとは難しいですね。また大阪の現状の組織では若い選手達が伸びやかにテニスができる状況ではないのでしょうか？ソフトテニスに対する理解やフォローアップが最近少ないと思うものです。それはソフトテニスだけではなくスポーツ全般に言えることなのですから。中学高校大学とも殆どセレクションで進学していく状況です。そこまで面倒を見るのなら、何で最終段階で放り出すんだと言いたいのです。良い大学への進学率は高いです。それは何故か・・。それは大学の知名度が高く、学生の質もある水準以上は保証できるということでその大学が必然的に就職率も良くなります。大学がテニスでセレクション枠を取っているならば、当然その成績に見合った就職は考えてやらなければいけないのではないのでしょうか？もちろん、取ったのが責任を持つてというのはありません。学生がそれに甘えて大学生としての質を落としてはならないのです。英語の読み方もままならぬ、漢字も小学生レベル、文章は書けない、計算も四則がやっと。理科、社会に至っては何の時代に生きているんだ君たちは・・というくらいの学生もいますよ。基本的な社会のルールも守れない、ではもちろん推薦もできないでしょう。テニスにも小学校、中学校、高校、大学と質と品格があるように人間にもその時代での品格が必要です。厳しい上下関係などから我慢することや礼儀や言葉遣い、気配りなどを勉強してきたはずですが、それがただ単に臥薪嘗胆、ただ高校をでるためや、大学に入ったり出るためだけの道具にして欲しくはありません。

いずれにせよ、大学までセレクションを行う以上最終まで面倒を見る覚悟が大学には責任としてありますし、学生は自己を磨かなければその権利は要求できないということです。そして社会はそれを受け入れる寛容さがあるて欲しいものです。あまりにも個人主事的なあまりにも小さくなりすぎた社会という印象を受ける今日この頃なのです。

### 2008.1.8

少し遅くなりましたが、新年明けましておめでとうございます。昨年末12/22より、イタリアに行って30日に帰国したのですが、すぐ古里へと里帰りして1/4に帰阪。1/7より仕事の関係でいつもと違う仕事の年明けとなり気がつけば1/8になっておりました。1/5-6は八尾志紀テニスコートで初打ちと恒例の紅白戦をしてテニスを全くしなかった訳ではありませんが、何だか少し落ち着いた2008年という自分の中での印象です。

イタリアは持っていたイメージは暖かくて食事の美味しい、人間は軽う感じの明るい国というものでした。飛行機が12時間のフライトでまず立ち寄ったのはフランクフルト。飛行機がルフトハンザということもあり、入国はドイツ経由となりました。今はヨーロッパは一つの国のような連帯感を持ったEUとして纏まりつつあるのだなという印象です。小さく民族毎に独立して自主性を持った国として存在していますが、世界の動向の中、経済的にはまず協力し合いヨーロッパとしての大連立をやり遂げたのは素晴らしいですね。やはり、ヨーロッパは他の諸国に比べて意識的には進んでいるのでしょう。アジアでも力を持ってきた韓国、台湾、中国、日本・・その他諸々の諸国が共通通貨を持てるかといえばそうではないでしょう。まだまだ、あそこよりはうちの方が進んでいると国間生活レベルの差、一国内での貧富の差など

で共通化はできそうにはありません。ヨーロッパも隣国同志はお互いに侵略の歴史がありいいことばかりではなかったはずですが、それがそういったことができるのは、それを乗り越えて白人としての力を統一化、かつ相互保全しようという動きの方が大きいからでしょうか？やはりその意味でもヨーロッパには他の諸地域は敵わないという印象がまず一番でしたね。イタリアについていえば、どこの街に行っても大きな教会・大聖堂・鐘楼・洗礼堂・墓地などが数多くあり、また古い町はその景観を壊さないように保護する徹底ぶりは真似のできないものでした。1000年も前から変わらない建物が並び、車が好きというイタリア人なのに駐車場のほとんどない街。しかし、交通事故に出会ったことはありませんでした。何といてもその立ち並ぶキリスト教の遺産達の前にはただただ驚くしかありません。フィレンツェの大聖堂一つとっても、街角を曲がると視界を塞いでしまうくらいの壮大さと美しい白さをベースにした建物全面にリレーフというか、彫刻というか奇跡のような紋様を飾り付けた老木のようなしかし化石ではなく確かに成年のような鼓動を感じさせながらその生き物は根をおろしていました。中に入っても、その中でその壮大な造りと構成力誰が一体全てを設計することができたというのでしょうか。おそらく何百年という年月を経て、ある人達は1階まで、ある人達はこの壁だけできあがって見たところにさらに次の天才達が壮大な一部分の仕上げを行い、さらに次の世代が積み上げて・・・狂おしくも気の遠くなるような年月と人の数と数え切れない人間の技術とそれを支える財力と権力の強さ、強大さを感じてしまいました。キリスト教をもって神の名の元に正義を掲げ世界を統一していこうとしたイタリアの過去の亡霊達がこの町には棲み着いています。今や美術館と化している多くの教会や過去の名建造物達はひっそりしかし莫大な多くの美術品を飲み込んだ恐竜の様でもありました。その美術品、特に絵画は全てと言っていいほど宗教画でした。過去の絵はさすがに技術的に劣ってはいますがその分精巧さや感情までもがでていたように思えます。立体感を出すために遠近法が確立され、染料・顔料も発展しさらに壁からキャンバスへと移っていくその過程で技術的にも格段の進歩を遂げていきます。更には、聖書の中の物語をいかに自分の中で構築して表現するか、理想のヒーロー・ヒロイン達の物語を文盲の民衆にどうやって浸透させていくか・・・そのために芸術は発展してきたのです。おびたしい画家達はおそらくその時代の誰もが知っている有名画家達だったことでしょう。しかしながら、そのおびたしい絵達は、この東洋からやってきた名もない不勉強な男には通り過ぎていく風景の一部としてしか見ることはできませんでした。命を賭けて描いた絵も中にはあったことでしょう。ただ、彼らのこれでもかこれでもかと重なり合ってくる宗教画の嵐に圧倒されその凄まじいエネルギーは僕に歴史の重みを浴びせかけました。

イタリアは古代ローマの中心、そしてヨーロッパ文明の発祥とでもいいところでしょう。そこにある文化は圧倒的な存在感で僕にキリスト教文化を持っている西欧人への意識を変えさせました。彼らは神に対する絶対的な信仰を持っている。それは日本人には決して分からないことでしょう。分からなくてもいい、しかしそれを無視して彼らと隣人には成り得ない。ダ・ヴィンチ・コードを理解するのは難しい・・・おそらく日本人は客観的に見ることはできるでしょう。ですから、超キリスト教的にあれを見ることができると思っています。しかし、あの映画のために、上映禁止になったり、トムハンクスが脅迫されたりすることは絶対にあり得ることだとも理解できるのです。それが理解できれば、イスラム教も同じ事だと想像がつかます。ユダヤ教とキリスト教の教えの差から2000年以上続く戦いにも終わりが無いことは分かります。しかし、ヨーロッパはそれを乗り越えて統一化を果たしていこうとしているのです。何も考えなくてその境地にたてる日本人とは違い、全てを分かり合った上でそれでも赦して政治的・経済的に足並みを揃えていこうかというヨーロッパには私たちは今の段階では決して敵わないと思うものです。

2007.12.17

最近では冬らしい天候です。木枯らしが吹き、それでもなおかつアウトでテニスをする我々はホンマに馬鹿じゃなかろうかと・・・思うのですが、休みになれば早く目が覚め、イソイソとコートに向かってしまう習性がオソロシイ。でもそんな仲間がたくさんいるので異常さを感じていないだけのことかも知れませんね。この季節は、ペアを捜したり、反省したり、色々な振り返る時でもあります。新たな気持ちでシーズンを迎えたいという人たちの思いが伝わってくる時でもあります。

私にも変化がありました。長年勤めている今の会社を変わるのではないですが、転職となりました。通勤も1時間半くらいかかりそうですし、今年のようにテニス三昧というわけにはいかないようです。やっと普通の人並みになるのかな・・・と誰かが言ってました。人より才能のない私には、厳しいかも知れません。まあ、やってみなければわかりません。今までどおり、全てを受け入れて全力を尽くすスタイルに変わりはありません。不安と期待とが入り乱れています。。

2007.11.21

今年もテニスシーズンからいえば終わりに近づいたなというところ。シニアでいえば11/23に茨木の高岡杯、11/24に広島中国オープン、11/25は泉州で大会があるようです。八尾市の関連では11/25箕面市さんとの対抗戦、12/2東大阪さんとの対抗戦。これが終われば一気に年度末となり、忘年会やら何やらであわただしくなります。一年のうち12-1月がやっと今はシーズンオフといえるのでしょうか？最近ではインドアやドームが多く冬でも十分テニスができますので季節感はなくなっているのがホントのところ。

私事ですが、春先に捻挫をしたのがつい2-3日前の寒さで痛みが再発しました。完治したと思っていたのですが、回復力の落ちているシニアの肉体にはちょっとした故障でもジクジクと痛むものです。しかしです、人間は適応能力というものも同時に持ち合わせていて、寒さが連続すればそれに合わせて痛みも和らげられます。何と不思議なことでしょうか？センサーの位置を自動調節してくれるのです。こんな便利な機械はやっぱりどこにもありませんね。。交換はできないのが当然でしょう。

話は元に戻りますが、高岡杯も中国オープンも後衛さんが異なりますし、どちらの大会もまだ勝利はありません。できればいい形で自分を表現していきたいと思えます。勝つだけではなく、意志を出したい、どうやって勝つか、どうやって立て直すか？何をやり遂げられるか？それが今の課題になりつつあります。小局に拘らなければその場を凌げません。しかし小局に拘ると、大事なところが見えません。大局観を持ち小局を成し遂げるのが大切なところでしょう。広島で20年ぶりに高校時代のペアに会います。20年振りにはあったときが高校を出て2回目でした。最初は大学3年の時、彼が呉のNTTの寮にいたとき、2回目は津山で正月に1時間くらい会っただけで2回目が・・・名前は早瀬さんといいます。高校時代から中ロブの上手い選手でした。彼にすまないと思うのは、私が高校2年の夏で名前に引退してしまったことです。一年上の先輩はとて厳しく、そのおかげで皆力はついたと思えます。ですから、そのままテニスを続けていけば、あるいは高校でももっと中央を狙えることができたかも知れません。過去に「たら」は禁句ですし笑って「好きなようにするのがいいよ」と言ってくれた彼に、申し訳ないことの上塗りになってしまうでしょう。過去を元に戻せたら、人生は好きに変えられるのでしょうか？誰でもそうしたいと思うことが拮抗してかえってやはり変えることができないので

はないでしょうか？自分だけが特別な存在なら、Back to the futureの主人公のように未来に繋げる操作だったとえできたとしても、自分の望んだ世界になっているとは限らないでしょう。その時その時ベストを尽くして決断してきたことが、些細な決断でも長い目で見れば大きなポイントになっていることは誰にでもあります。そうです、人はそうして精一杯生きてきたのです。そして、40年近くたって再会して酒が飲める・これはこの上ない喜びです。各地に遠征に行きます。あまり観光ができないテニスの遠征ですが、新旧の友人、諸先輩方に会えることが僕には幸せなことなのです。

2007.11.13

暖かい今年の冬にも少し冷たい風が吹き始めました。先週の八尾市長杯大会には大阪府各市からご参加を頂きありがとうございました。当市での他市をお迎えしての大会は、この大会のみです。そして、年度末に行われることも当協会に取りましては大きな目標として位置づけられています。この大会で今年も締めたいという思いがあります。今年は、団体戦から見てみると、クラブとしての年度目標である大阪総体で男子は準優勝を勝ち取ることができました。予選から東大阪に勝ち優勝して第1シードの枚方市と反対のゾーンに行けたのがまず第1の成果でした。抽選で第2シードのパッキンに入り、分の悪い吹田市が1回戦で万事窮すかと思われましたが、1番手の松川・須山ペアの完璧な試合運びで波に乗り③-0で勝利、その勢いで決勝まで進出しました。決勝は大阪No1の選手を擁する枚方市、シニアが頑張って5番まで繋げたかったですけど、暑い8月に4試合はきつく、足が痙攣をしまい50%も力を発揮できず0-2で負けてしまいました。しかし、結果は上出来ではありましたが、やはり決勝というのは、また団体戦というのはいいいですね。今回の市長杯も決勝でシニアが勝てば2-2の天秤で最終戦が大いに盛り上がるころだったのですけど、1-2で回ってきた我々が負けてしまい夢のリレーは未遂に終わりました。我々の試合は、後衛の平尾さんの気迫でシーズンゲームの末ファイナルとなりました。ファイナルで僕が少し焦ってしまったのが敗因だと思っています。思い切った勝負が3発失敗でした。最後の気迫が足りなかった、本当に残念です。あれだけ集中したゲームは今年西日本シニアでの篠辺・松村戦、福知山での谷尾・杉野戦と並ぶものでした。やはり気迫です。その意味ではゲームに入りあれだけ集中できる平尾さんは本当に素晴らしい選手だと思います。体のこともありますが、今年のあの試合ができるならきつともっと素晴らしい活躍ができると思います。来年外への試合に期待していますよ。

ところで八尾市長杯は一般男女2/2シニア男子1の今時珍しい構成です。これは20-30年くらい前の団体の構成です。もっとシニアを増やしてよという声も聞こえてくるのですけど、いや待てよと皆さん一度考えてみてください。シニアの層は非常に厚く、また中流階級シニアも多いため、手頃なソフトテニスへの復活組や若いときからの継続組、あるいは中高年からの継続組とたくさんいます。ソフトテニスの盛んな時代を過ごした我々が楽しめる試合を増やすのは当然ですし、それも比較的簡単です。

しかし、一般の試合は昔もそれほど多いとは言えませんが、目標になる試合はいくつかありました。その中で継続されているものもありますが、参加者の低迷やスポンサーの都合から廃止されたものも多くあります。例えば、奈良西日本大会、北九州インドア、岡山何久曾、天満屋全国などです。最近では堺オープンから成年男子が廃止されました。一般男女の試合がなくなれば、当然次にある成年・ひいてはシニアの大会もなくなり、ソフトテニスそのものが絶滅種に等しい運命を辿ることは火を見るよりも明かです。我々は、一般の試合を守ることに全力を尽くさなければならぬのです。そのために・・というわけではないのですけど、八尾市長杯は一般男女2/2シニア男子1の構成を保ってきたいのです。それは八尾市ソフトテニス協会が若い人中心に運営を行い、シニア・女子共に共生する道を選んでいることに基づいています。

シニアの方がきつと多いでしょう。戦績だつてきつと若い層よりはいいでしょう。でもそんなこととは別に、若い一般成年が自由に思ったように運営していくことがいいのではないですか？いつ行っても難しそうなジイサンがコートを我が物顔に占領して、遠慮しながらコートを使わしてもらいます・・なんて感じではテニスそのものや雰囲気は楽しくないですよ。各クラスが(一般男/女子/シニア)それぞれにある時間から独自に運営できる様になっているので問題は少ないと思います。また、最初の2時間は全員での合同練習、ビジターも男女もシニアも区別なく練習できるので極端なことをいえば中学生でも小学生でも入ることができるのは素晴らしいことだと思います。

そんなわけで、一つくらい昔のスタイルを守る団体戦があってもいいではありませんか？おかげで、久しぶりに若い子が多く集まった大会がここ数年続いています。先を期待していますし、八尾は若いイメージがあると思っていただければそれで十分です。

どうか、我々の考えをご理解下さいますようお願いいたします。

2007.11.07

やはり全日本シニアというのは随分と大きな大会なのだかと改めて思います。少し前までは、全日本シニアが終わっても1年のうちの1/3以上の大会が後ろに控えていて・・特に9月第1週にあったときは、半分くらいが残っていたため、それほど空虚感というのは感じる余裕がなかったのです。でも、今年は10月中旬のあの大会が終わってから確かに集中して試合には臨んでいます、それは全て来年の全日本シニアのためにやっている事なのだと感じています。今年やろうとしてできなかったことがたくさんあります。というか、今年は何もしないで終わってしまいました。そういった年もあると自分でも思います。強力な人からかけ離れた能力や技術があるわけでもない僕には、次が大きな問題なのでしょう。人のやらないことを考え、やり抜く。あるいは人がやる所を10倍くらい無心に繰り返す自分の体の一部として従属させてしまう。この二つしか道はありません。今年は、春先からフルマラソンに挑戦したのですが、やはりそう簡単には登り切れる山でもありませんでした。来年やれるかという、やはり控えた方が良さそうだとするのが結論です。それは何故かという、1回のマラソンが終わり、通常の体力まで回復するのに1ヶ月、さらに試合で普通に戦えるようになるまで1ヶ月以上の時間が必要だと思いました。

現に今年の戦績を見ても、篠山後の東京世田谷オープンでも4-5月の北村・若水・東大阪超壮年・山手くらいまで疲れが残ってしまいました。

なんか違うその重さやだるさが取れたのは6月に入ってからです。6月中旬くらいから徐々に足腰も何となく動きと自分の感覚との差が少なくなってきたのを感じました。

マラソンは単純な競技ですが、複雑な自分との駆け引きや葛藤、他人との争いも組み立てが必要ですし、やってみてさらに奥深いスポーツだと認識しました。この世界にのめり込むのはいいでしょう。しかし、マラソンランナーで記録を狙うために走るではありません。よりよいテニスの高みへ昇るために走るのです。そんなわけで、今年の冬も走りませんが、決してマラソンのために走ることはしないと考えています。

どんなことをやれば、もう少し高いレベルでテニスの話ができるのか・・・？もっと考えます。

2007.10.30

10月も終わりだというのにこの暖かさは何でしょう。今年はきっちり彼岸花も1ヶ月遅れで咲いていました。今までどんなに酷暑でもそんなことはなかったのに・・・そのせいか、何だか秋が長いような感じがします。運動会の時に感じたあの秋晴れの心地よさが今感じられるのです。

隣に府立の八尾高校があります。ここは体育が盛んで、午後3時を過ぎると運動クラブの生徒達が大きな声を張り上げます。今時こんな学校はないぞ！と思いつつ、頼むからこの良さを保ってくれよと祈ります。弾けるようなそのほとばしりを時々羨ましくも懐かしくも感じながら、4階の窓から見入ってしまうことも多いこの頃です。校内放送やチャイムの音、僕はその青春のほとばしりをフェイドアウトしながら、ぎざぎざと音のたつ図書室でインクと少しかび臭い古ぼけた本に埋もれながらよくたた寝をしたものでした。窓辺に陣取り秋の日差しの中で、あの何とも言えないまどろんだ空気の中でいつしか瞼が落ちてゆきました。・・・やがて日が翳り、冷たい空気で目が覚めます。本当の静寂が忍び込んでくる頃、図書先生に急がされながら部屋を出て行くのでした。

ついぞ思い出すことのないそんな光景を、セピア色の写真の様にゆったりと思い出してしまいます。そんな秋の日が今年は長いからつい記憶も呼び覚まされるのでしょうか？

秋の大会がまだまだ続いています、少しずつ終わりを感ずるようになりました。昔は八尾の市長杯が終わればもう今年も終わり・・・でしたが今は色々な付き合いがあります。また、シニアになれば試合が多いのです。一般の時の3倍くらいあるのではないかと思います。全部出る必要もないでしょうが、出れば何かを得ることもできます。最近、見ることで前にも増して客観的に見られるようになってきている様な気がします。もっと冷静にもっと冷徹に、しかし心は炎と燃えている！そんな境地で試合がしたいものです。

2007.10.18

全日本シニアが終わっても、まだまだ秋の大会は続きます。次週の東大阪／箕面のダブリ大会から始まって、奈良西日本、井ノ口杯、八尾市長杯、堺オープン、高岡杯、広島中国オープンとあります。これから今年目標をどんどんクリアーして行きましょう。

過ぎ去ったことよりも明日を目指していきましょう。明日はきっと良い日なんだ。それを信じて明るく行きたいものです。初心を忘れないで、心からテニスを楽しみましょう。

2007.10.14

全日本シニア選手権が終わりました。今年もまた意気込んで参加しましたが、残念ながら全くもってふがいない結果でした。何をしたのか分からない試合は今までいくつかありますが、何もしなかったな・何も残らなかったなという試合は最近では殆どありませんでした。でもソフトテニスとはいつもいってのように短い勝負です。少しパニックしてしまえばあっという間にポイントを何本も落としてしまいます。冷静になれば何かできたのでしょうか、魔術のように過ぎていってしまうのです。それは一体何なのでしょう？早くこの場を逃れたいという逃避本能なのでしょうか・先に行けば良いことがあるという期待感なのでしょうか？そうなのかも知れません。困ったときにゆっくりと時間を取り、立て直しを図る選手がいます。レッツプレーという審判の勧告があるまでは良いのだからと・・・かつて高宮選手は負けているときに相談するふりをして時間を使いました。彼は時の魔術を心得ていたのです。人の心理は急ぐものです。音楽の演奏でも、オーケストラでは指揮者よりも奏者は必ず走るものです。そこを制御するのが指揮者とリズム楽器です。この二つが強制的にテンポを整えるのです。そうしなければただの騒音が響き渡るだけになってしまいます。昨日の僕たちのペアには自己修復能力がなかったのです。技術もさることながら、コントロール機能が働かなかったのです。あれでは勝てるはずもなかったのでしょうか。もう一つ、自分のプレーが締まらなかったのはやはり技術の裏付けのなさでしょう。勢いがある時はその流れでテニスができるようにはなっただけだと思います。しかし、後衛さんにも事情があり調子の悪いときもあります。ペアとして勝つテニスができることは必須ですが、どうしようもないときや困ったときに確実にポイントがとれるようにすることは大切なことです。かつてはそうしてきたのではないかと今思い起こします。ハードヒッターは調子が出るまでは不安定です。特に1, 2回戦は自滅のパターンが多く苦しいものでした。そこを何とかポイントしたりフォロウしたりで切り抜けてきたものでした。上に上がれば自然と当たりも出ますから、もう心配は要りません。そこまでが僕の仕事なのです。昨日もそうやってコートに出たのですが、何も出来ませんでした。落ち込んでしまいましたが、どうすればいいのだろうかと思死で考えています。一番良いのは見ることだなあと、今日はじっくりと観察に切り替えました。新沼・津吉ペアや有田・吉田ペアの試合が参考になると考えました。どちらの前衛も自分の仕事がかかりと出来る違ったタイプの前衛です。彼らを見ることで自分との比較を試みようと思ったのです。それは実に楽しい事でした。彼ら二人にはある共通点があります。それが彼らの今の実績です、実力です。そういうことを観察しているうちに、また闘志が湧いてきました。めらめらと。そうです、これが今の実力です。原点に帰りました一年間の旅に入ります。

2007.10.9

3連休が終わりました。今は朝です。10/7に行われた福知山全関西大会では新開さんと組み優勝らしい優勝を勝ち取れました。今年はスーパーカップや鳥取久松杯と優勝はあるのですが決勝戦がいずれも日没・雨天と行われず何か不完全燃焼ではありました。しかし今回は全力を出しての優勝で全日本前に緊張感をもったテニスができることを非常に嬉しく思っています。今回は優勝というよりも、ペアとしての成熟を少し実感できてきつつある事を感じています。新開選手とは西日本大会までは組みましょうということでやっています。組み始めて2年ですが多くの試合に全てと言っていいくらい参加しています。彼も生活は(休日の)ほぼ100%テニスに傾倒しています。練習をして、試合に入り緊張感と試合勘を養っていくタイプですので準備が不足の時は不満足なのでしょう、練習の虫と言っていいくらい寸暇を惜しみラケットを振ります。その情熱は素晴らしいですね。また、徐々に色々なテニス観や試合中の気持ちの揺れや変化も分かり始めたのでゲーム中での修正がきくようになってきました。組み始めてすぐはなかなか合わないものですが、仕方がないことでしょうか。今は少しだけですが上方に行けるペアリングが出来つつあると言えます。来年はシニア55で西日本を狙いに行くと彼はいいです。そこに向けてあと少し、今年出来ることを重ねていきましょう。

今週は全日本シニアです。この一週間前の何とも言えない緊張感、ゾクゾク湧いてくる闘志とワクワクしてくる先への期待感、そしてやっと怪我もなく一年やってきたことを発揮できる舞台へ上がれるのだという安堵感で今は一杯です。しばしの嵐の前の穏やかな海のようなこの静寂を楽しみたい時間がゆっくりと流れます。

さあ行こう、舞台は整った。あの幕が上がれば、友人達が待っているのだ

2007.9.20

8月が終わったというのに厳しい残暑が続きます。秋のシーズンに突入し、毎週のように試合があります。先週は滋賀で第2回マスターズがありました。大阪府は見事優勝ということでした、おめでとうございます。各都道府県の選手を聞いていても名選手揃いですが、思わぬところが負けていたりします。まあ、5チーム揃えるのは大変ですし当日の調子が皆良いとも限りませんし、シニアは曲者の集まりです。さらにどうなるか分からないミックスもあります。そこが面白いと言えば面白い。シニアのミックスは本当に今は厳しい戦いですが、まだこうすればいいと言う確実な戦法は確立されていません。これからのジャンルでしょう。

全日本シニア選手権ももう20日余りです。自分自身の調整は進んでいます。これからはペアとしての練習・調整が必要です。2-3回しかチャンスはありませんが、それだからこそ集中して練習に当たりたいと思います。自分ができること、やらなければいけないことをやりきるだけです。

2007.9.16

先週は鳥取市で久松クラブ杯がありました。昨年はリーグ内で敗れるなど少し残念な結果でした。新開さんと今年は頑張ろうと心を新たにしていた初戦です。今年も初めはよくて次第に成績が悪くなっていました。でもなんか吹っ切れた今年の夏は西日本シニア選手権で復調の兆しが見え始めました。迷っていたのでしょうか？遠慮なんのでしょうか？それとも分不相応なプライドみたいなものなのでしょうか？どれも皆当てはまっているのだらうと思うのです。どれもが誰にもありがたいな事です。そこをどれくらい早く吹っ切れるかが問題でした。2年近くもかかってしまった僕たちはきっとやはり凡人であってこれからも一喜一憂していくことなのでしょう。それで良いと今は思っています。凡人は凡人らしく生きて、これ以上ないくらいの立派な凡人で過ごしてみましょ。

神戸に車を置いて、新開さんの車で一路鳥取へ。僕は彼と今年はかなり部分の時間を共有していますが、それで良いでしょう。自分のいいことも伝え、聞き、そして良いものが育っていけばそれは素晴らしいことです。あまり深く立ち入った関係になると嫌だという人もいます。僕は100人100様に付き合えばいいのだと思います。同じように接する必要もなければ、同じようにしてもらうのを望んでもいません。気持ちよく共有できる時間があればいいのです。

土曜日の練習試合は3敗でした④-1、④-0、④-0で負けました。新開選手は絶不調？かと思いましたが、まあこんなものかなと思っています。周りの人たちは、何やってるんだと思うのでしょうか？でも、調整は調整です。相手が僕たちに勝つ・・という思いで来られるのは、それは彼らの練習です。自分たちが何を調整していくのか、何が一番大切なのかは様々です。極端なことを言えば、本番の試合にはいるまでに何を考え、何ができるようになって何をどう使ってやりきる自信がついたかを極める事でしょう。練習からそんなに一生懸命に勝つことを目的にやるのが大切だとは思わないのです。かつて誰かは、練習で勝てるから自信になって本番でも勝てると思うと言っていました。それもそういった練習方法の一つでしょう。ただ全てではない。自分に合っている調整法をやりきることが大切だと思います。

2007.8.28

あつという間の10日が過ぎました。その間に色々なことがありました。夏の思い出というには ちと早いですが思い出すままに・・

8/12からお盆休みに入りました。今年は新開さんの誘いで、徳島の阿波踊りと鳴門の渦潮を見においでとのお言葉に甘えて出かけました。

阿波踊りは始めてみましたが、その楽しそうな踊りは、個性もあり、団体の整った美しさもあり、昨今のロックにも通ずる激しいダンスでもあり、徳島の土地柄が生み出すエネルギーや大らかさを見たような気がします。徳島のシニアは個性豊かで皆それぞれが光を放っています。彼らの持つエネルギーはこんなところにも象徴されるように顕れているではありませんか？徳島の土地を案内してもらおうと、何でも徹底的にやるという気概が見えます。たとえば鳴門金時、見渡す限り芋畑・その横には豪邸が・・これが皆芋御殿だと新開さんが教えてくれます。しかし手もかかるようで、数年に一度は畑の砂を海砂に替える作業があるのだと・・これまた気の遠くなる作業です。同じようにレンコン畑・・山には梨が実っていました、幸水だとかで梨の産地でもあるのです。次の日、鳴門の渦潮を見に行きました。観潮船に乗ること20分、少し前から満潮を迎え、しかも大潮ということで大きな渦が期待できます。海がざわついていました。海の中で潮の行き先に反対側の潮が立ちほだかります。落差が数メートルあるのがわかります。力が分散され、逃げようとする方向にくると渦ができます。ほんの数秒ですが、くるりくるりとできては消え、あちらでもこちらでも渦ができては消えていきます。お客は揺れる船の上を行ったり来たり、また船も潮の中に入ったためかなり大きく揺れます。その度に歓声とも恐怖の叫びとも言えない声が上がります。渦の中を20分ほど揺られて渦を見物し、興奮が冷めやらないままに帰路につきます20分。新開さんは、今日は今まで見た中でベスト5に入る良い渦だったよと教えてくれました。ビデオも撮って迫力満点でしたが本物には敵いません、ぜひ皆さんも船から見られることをお勧めします。また、満潮時を調べてからいったほうが良いですよ！！。また、うどんもさすがに四国は美味しくて、いくらでも入りそうです。2日間本当にずっと案内してくださった新開さんに感謝です。有り難う。

8/26(日)は大阪総体の本選でした。今年はずっとシニア団体戦でやっている箕面第2公園でした。朝から暑く、また1試合目は吹田市さんとこれまた強い相手です。覚悟を決めて、2時くらいには八尾に帰れるかと思いながら出かけました。昼飯は帰りにどこかで食べようと、おにぎりくらいしか買っていかなかったのが大誤算でした。やはり準備は何が起ころうとも良いようにしておくものですね。何と吹田市に③-0で勝ってしまいました。凄いですねえ、僕たちはいつも吹田とやると全敗に近いくらいの大敗を喫します。しかし、今回良かったです。吹田市だってメンバーはギリギリのところまで頑張っていたでしょう。きっと。薄氷の勝利をしいたんだ・・と分かります。勝ち上がってみればやっぱり強いのか、なんだこんな事・・と思うのでしょうか？そうでなく、よくこんなことまで来たな・・と思うのではないですか？勝負事はやってみなければわかりません。ソフトテニスには勢いのある者が勝っていく競技でもあります。ムードを自分の方に持ってこいとは橋本名人の言葉です。明るく前向きにしている人のところにラッキーが舞い込み、一挙

に勝ってしまうことがあります。それが乗っているという言葉でもいいのです。風をとらえて高く舞い上がれば落ちることはありません。いつどうやって風を捕まえるかがソフトテニスの分かれ目でもあります。

2007.8.18

夏が行きますが、今年は暑さが格別です。去年のことは忘れましたが、今年の方が凄そうです。昨日は熱射病での死亡が数名出たと・・。

2007.8.3

先日、八尾市中学校選手権が行われました。その後で、中学校の顧問の先生に質問を受けました。内容はこうです。「ファイナルゲームに入ろうとするときに正審からコーチへのクレームがあった。コーチは奇数ゲーム終了後とファイナル前の1分間は良いはず」と。

いつも、中高校生の試合の際には問題になることなのですが、改めて確認をしておかなければいけないと思います。私の解釈が間違っていたならば、どうぞ当協会の掲示板にご意見を頂くか、メールでご返信を下さい。

ソフトテニスハンドブックによれば、関連する事項は次の競技規則15条(2)項、38条1・2、41条、19条、大会運営規則1条、2条、8条であると思われます。

A.休憩は「奇数ゲーム終了後」「ファイナルゲームに入る前」1分間以内はとることができる。

B.コーチは団体戦・個人戦にかかわらずパートナー以外から受けてはならない。

2項で例外があり、この項目が非常に重要です。

すなわち、その大会の大会要項に、2項が明記されていなければならないのです。

①プレーヤー以外の者がコートにはいることができる(それは誰か?)とあれば、全てOKなのです。

主管団体もプレーヤーも、再度競技規則を見直して頂きたいと思います。

特に大人の大会では大会要項中でのルールは追加項目、ローカルルールは少ないでしょうが、学生の大会での選手以外の取り扱いにおいてを明記しておくことは重要なことです。

もう一つあります。

八尾市の中学校のN先生から、「私の使用しているのは1993年度版のルールブックです」と言われました。「競技が2-3年前に改訂になり、コーチをしてはいけないようになったこともうすうす聞いていた」「しかし、正式なルールブックが回ってきたこともない」と。今回直ちに先生は、「現行のソフトテニスハンドブックを手に入れたので中学校に配布する」と仰いました。

日本ソフトテニス連盟と高体連・中体連・日本学連、各支部の関係はしっかりできているのかなと心配になります。また、一般の各都道府県支部においても同じようなことが言えます。

私も、今回のルール大改正の際に講習会を全員に徹底するために行うか、各支部1名に受講させて、全員に指導するとかの措置がなされると思っていましたが、何もありませんでした。幸い私はちょうど2級審判更新に当たってましたので理解できましたが、大部分の人たちはルールが何だか分からないままに新ルールの試合を行って来ています。2004年からまだ3年しかたってませんので試合参加者の1/2はまだルールについて何の講習も受けていない状態です。一体こんな事で良いのでしょうか？

直ちに対策をとられることを日本ソフトテニス連盟、また各支部に要請を致したいと思いますが、2級審判を持っている人の半分は無免許運転中だということではないのでしょうか？

## 競技規則

### 第4章 競技

(プレーヤーの心得)

第15条プレーヤーは互いにマナーを尊重し、次の事項を守らなければならない。

(1)過度のかけ声、又は相手を不快にする発声をしないこと。

(2)マッチの開始から終了まで連続的にプレーし、次の行為をしてはならない。ただし、サイドのチェンジ及びファイナルゲームに入る場合又は第17条第2項に規定するショートマッチにおける10ポイント終了後のサイドのチェンジの場合は、ポイントの終了から1分以内に次のポイントを開始する体勢に入るものとする(レッツプレイ)。

ア相手がレシーブの構えをしているのにサービスをせず、又は相手方がサービスをしようとしているのにレシーブの構えをしないこと。

イ故意にゲームを長びかせる行為をすること。

ウマッチの進行に支障となる状態でパートナー同士の打ちあわせをしたり、又は休息をすること。

エゲーム終了後次のゲームにうつる構えをしないこと。

オファイナルゲーム内のサイドのチェンジの場合に休息をすること。

カラケットの修理をすること。

(3)アンパイヤーの指示に従いプレーすること。

(禁止事項)

第38条プレーヤーはマッチ中パートナー以外の者から助言及び身体上の手当てを受けてはならない。ただし、正審がレフェリーと協議の上必要と認めた場合を除く。

2 マッチを行うプレーヤー及びアンパイヤーその他特に認められた者以外は、マッチ中ソフトテニス場に入ってはならない。ただし、大会要項の中で、プレーヤー以外に「部長・監督・外部コーチ・コーチ」がコート内に入ることが、認められた大会においては許容された時間内でプレーヤーに対して「監督・外部コーチ・コーチ」が助言する事を認める。

3 大会主催者は助言をする位置を定めることができる。その位置がフェンスの中にある場合は、そのマッチ中助言をするものは原則として移動することができない。

(警告)

#### 第41条

第15条、第38条及び第40条に明らかに違反したと認められる場合、

正審はプレーヤー(団体戦の場合は監督を含む)に対し警告(イエローカード)を与える。

第19条(注意の喚起)

正審はマッチの進行に支障があると認める行為等に対しては、関係者(プレーヤー、監督、当該チーム(組)等の総称)に注意を喚起することができる

### 大会運営規則

#### 第1章総則

(目的)

第1条: 大会における運営に関する必要な事項を定めることを目的とする。

2 大会の主催団体及び主管団体から、大会運営に関する業務を委任された主管組織(以下「大会主催・主管団体」という)は、原則として、大会運営規則の規定に基づき大会を運営しなければならない。

(大会要項)

第2条大会主催・主管団体は大会要項を作成し、あらかじめ参加者に周知しなければならない。

2 大会要項に記載する項目は原則として以下のとおりとする。

- (1)大会名
- (2)主催団体名
- (3)主管団体名
- (4)共催、後援及び協賛団体名
- (5)開催期日
- (6)開催地
- (7)競技会場
- (8)競技種別
- (9)競技日程
- (10)参加資格
- (11)エントリー方法(選手変更を含む)
- (12)競技規則及び付随規定
- (13)競技及び順位決定方法
- (14)組み合わせ編成
- (15)参加条件
- (16)使用球等
- (17)ドーピング
- (18)医務
- (19)安全管理
- (20)表彰
- (21)選手団の費用
- (22)代表者会議

第8条(競技規則等の特例)

大会は原則としてソフトテニス競技規則(以下「競技規則」という)、ソフトテニス審判規則(以下「審判規則」という)及びこの規則に基づき実施するものとする。ただし、大会主催・主管団体は、大会運営に必要な場合、次に掲げる特例を設けることができる。この場合において、大会主催・主管団体は、その内容を大会要項に明記するものとする。

- (1)競技規則、審判規則及びこの規則に関し、各支部連盟の定める規則(いわゆるローカル規則)がある場合において、国内大会等において、当該規則を適用すること。
- (2)団体戦において1チームに1名の監督を置くこと。この場合において、監督はチームのプレーヤーの一員とみなされる。
- (3)団体戦において、チームメンバーは、ソフトテニス場の定められた場所に入り、競技規則で認められる条件の範囲内においてマッチを行っているプレーヤーに対し、助言及び身体上の手当てを行うことができる。

2007.7.23

昨日、スーパーシニアカップが吹田の日本触媒コートで開催されました。第3回になります。この大会はいつも11月に行われていましたが、今年から一般の西日本選手権の日で開催されることになりそうです。大きな試合は重ならないのでシニアの人たちが動きやすからうとのことからです。ただし、吹田クラブの選抜選手ということでチャンピオンを多数抱える吹田クラブの選考ですから、どなたを見ても有名選手ばかりで気遅れをしてしまいます。7.22は55,60歳のクラスです。23日は45,50のクラスです。結果は掲載していますが一部不完全です。ご容赦下さい。詳しいデータをお持ちの方メールをいただけ

れば修正いたします。さて、1クラス15ペアで予選リーグは1リーグ3チーム。2チームがトーナメントに進出できるというものの、どのリーグも厳しいものです。他の大会なら、殆ど決勝の相手と1試合目からやらねばならない緊張感で暑さの汗以外にも多く出たように思います。私のゾーンは「井場・栗尾」「川下・中上」ペアです。2週間前の西日本2位ペアと、50歳に上がってきて半年・そろそろタイトルを取る準備も整った若手のペアです。今年前半あまり成績もパツとしなかった我々にはどう見ても分が悪いではありませんか？ 思えば、北村で谷尾・杉野ペアに④-0で完膚無きまでに叩きつけられ、東大阪超壮年では55クラスの白川・南ペアに④-2で負け、ペアとしての自信が崩れかけていたのですが。でも、今日の試合はなんだか違ってました。小早川さんも、激しい練習をずっと行ってきました。それは重圧からです。僕も色んなことにさらに積極的に参加をし続けました。それもやはり重圧回避の逃避行動に過ぎません。次第に自分たちのテニスに磨きをかけることを忘れ、強いテニスを二人で目指してしまっただけです。しかし、それは本当に正しいことでは無かったのだと思います。これ以上ない強打者の井場さんに6ポイントをももの5分で奪われました。でも次の一本を取ったとき、ニヤリと笑って「これでパーフェクトはないな！？」と言うのです。そこには、今まで完璧を目指していた彼の顔と心はありませんでした。思わず「はあ・？！」と笑ってしまうことでした。かつて高宮選手があまり緊張しているので力を抜いてやろうと、鬼のような顔している彼に歩み寄って「終わったら美味しいコーヒー飲もうや！」といたら顔をくしゃっと潰して「おっケー」と言ってその後強烈なサーブを2本入れたのを思い出しました。そんなに僕の顔が凍っていたのでしょうか？ 何となく冷静になり、その後のゲームは落ち着いてできました。力任せに行くのではなく、本来の小早川選手の粘りと頑張りに戻ってきました。僕もフォロワーばかりを気にしなくても良くなりました。リズムができて信頼もスツと戻るのが分かります。攻撃をするとは、二人でテニスをするとはこういうことなんです。ある瞬間ベクトルが急激に一方方向に揃う、その瞬間が訪れるのを待つか、喚起するか、それこそが重要なんです。僕は、変わっていく小早川選手に自分はもう少し粘って欲しいんだと言いたかったけど言えなかったのです。あんなにアタックの練習をして、それは僕が頼りないからなの？ と本気で思っても見ました。だからこそ僕も無理な位置からの飛び出しや、ツイストや楽して1本を取る手段を駆使しようと思ったのかも知れません。それは、小早川選手がやろうとしていることと変わりはないのです。長い道のりを経て、ポロポロにもなりましたが、我々は気づきました。原点に戻ろうと。自分たちのやってきたテニスをやろうと。今日の試合の中でも、僕が最近分かったことを随所に入れました。ポイントでは必ず確認します。彼は自分の勘から次はここかも知れないと警鐘を鳴らします。そういったことが続くと、なんかもう何も怖くなくなってしまう。この、15ペアの中で最近のできからfinalの試合まで残ることなど考えられないことでした。でも、できました。我々のペースで試合は進みました。何だか心地よさが残っています。帰りの車の中で、彼は「東大阪の後でこれでも立ち直れるかも知れない」と思ったと言います。僕はひょっとしたら今かも知れません。本音で語れるようになった今が原点なのかも知れません。秋の全日本に向けて僕たちは好位置で気持ちのベクトルを合わせることができたようです。この大会が、いつまでも続き、そして毎年呼んでいただけるようにしたいものです。

2007.7.12

梅雨のまつただ中です。蒸し暑く、腕などはじっとりと汗ばんでいるのが分かります。九州や四国などでは局地的な集中豪雨があり大変ですね。雨が降らないのも困りますが、こんなに熱帯型の雨の降り方も災害が起こりやすく困ったものです。

さて、西日本シニア選手権大会が終わり2週間経とうとしています。大阪で開催されることに一年前は、いつもお世話になっているので今度はお返しかな・などと、思っていたものです。春先も、理事の方々に手伝いや協力はなくて良いのかと何度も念を押しました。その度に、ハイ連絡しますとか今検討中ですとかいろいろな答えが返ってきました。一月前には、大阪は理事が多いので、十分理事だけでできるから良いよとのことで安心もしていました。しかし、確認する手段も一体何がどうなっているのかも分からない状況でした。蓋を開けてみてビックリしたことは、①前日の練習コートが確保されていない。②会場への案内や施設周辺に人が殆ど配置されていない。③練習は9時までできないのは解りますが、当日の練習時間が全く取られていない。④当日の試合は1試合のみでコートが空いているにもかかわらず即終了。⑤コートでの進行のゼッケンがないため、進行が不明確、その上大きな音を出してはいけないので放送は無し。⑥2日目にシニア50女子を長居に移動、シニア60を北村に移動。⑦試合終了は4時半とか5時くらいになったクラスもある。⑧決勝戦くらいはセンターコートができるだけ使用してやるべきなのに何の配慮もない。⑨前年度の成績や対戦相手のことが殆ど配慮されていないプログラム

大会関係者には申し訳ないですが、これはざっと気づいたことです。あまりにもズサンな運営と考え方に怒りを通り越してあきれと冷笑が交差します。誰も、この計画が立てられたときにそれではダメだと反対したシニアの理事はいなかったのでしょうか？ 他府県におじゃましたときに、その方々が運営されていることを全く気にもしていなかったのでしょうか？ 昔から慣例のように行われている幹部同士の接待などはやらなくて良いのです。やったほうが良いというなら、それこそプライベートにやれば良いです。

しかし、テニスの試合に来て上の9項目のようなことが平然と行われては良いとは私には思えません。しかも西日本と全日本は名誉と誇りをかけて全神経を集中させて戦う大会です。何故上の9項目はおろそかにしてはいけないか？ 当たり前のことですよ。

①遠方の方は前日休みでなければ大阪に入れません。練習して調整したいでしょう。北村のコートが使用料が高ければその他の市営のコートは空いてるでしょう。現に八尾志紀コートは全面一日中空いていました。お金は都会のコートの事情もあるので個人負担でも良いではないですか？ 世話するくらいの配慮は必要でしょう。

②北村コートも長居庭球場もわかりにくく知ってなければまず到達できません。特に前日コート変更するなら地図くらいは配るべきです。また要所に案内は絶対必要です。

③④とも関連します。早く終われるくらいなら朝30分で良いですから解放すべきでしょう。あまりにも酷な仕打ちでした。

⑤ゼッケンでなくともホワイトボードでも良いです。見る人のことも考えていないから、ソフトテニス競技性に乏しいと言われるのです。どちらが勝ってるかを表示することも本当は必要でしょうね。

⑥公式のホームページや案内に、固定コートで行うと書いてあります。そのつもりで宿を取ったりアクセスを考えているのです。ふざけてはいけません。

⑦この大会でも2時を終了にしています。遅くとも3時です。遠くから来た人はどうするのです。飛行機の予約もおそらく例年どおりで考えていたでしょう。大阪人や近畿の人の大会ではないのです。

⑧せっかくセンターコートがあるのに全く使用しない。2日目の試合はどのクラスも少しずつ時間がずれて十分センターコートで決勝ができました。なのに何故、あんな見にくいところで決勝をやり続けるのか…

⑨昨年度に早く負けたペアがシードになったり、昨年8本に残り東西対抗にまで出たペアが8本シードの中のパッキンに入っていたり、せめて年に一度の大会は何重にもチェックを入れて欲しいものです。

もう終わってしまったことには何を言っても元には戻せませんが、次から何かの大会があったときにはきつと役に立てることだと思います。お金をかけろと言うわけではありません。①から⑨までのことでしたら、ちょっと気をつければできたことなのに何もできなかったことが、せつかく来ていただいた皆さんに不快な思いをさせてしまったことに、自分としても情けなく腹立たしい限りです。

ソフトテニスもテニスのATPランキングを設けてシードを決めたらどうでしょう？ そうすれば少なくともドローに関しては誰からも苦情は出なくなるはず。一時、そんな試みもあったようですが消えてしまいましたね。。

2007.7.10

先ほど、早稲田の斉藤祐樹投手が記者会見に応じていました。日米野球で初めての敗戦、斉藤神話崩れる！との見出しを先日見たばかりでした。元来神話などというものはなくて、そういった状況を作り出して、プレッシャーを双方に与えるため、結果として「不敗」などということが一人歩きを始めるのです。もちろんそのような状況になるまで彼は意識をしなかったでしょう。甲子園で勝ち、国体で勝ち、早稲田で負け知らず。。ここまでは不敗ということ进行全面に押し出されるわけではなかったのです。しかし、日米野球の頃には斉藤の前に「不敗神話の」という冠がつくようになりました。

彼はいいです。「その気になっていたと思います。もっと謙虚にならなければ。。」と。負けた直後のコメントでしたが、今日のインタビューでは少し肉付けがしてありました。「負けてはいけない。勝たねばならない！という意識の中1, 2戦目は本来投げない変化球を多用しました。キャッチャーからはまだ僕のストレートは信用されていないと思い悔しかった。。これで勝利とセーブはついたが、僕の中では物足りなさや不安が残った。第3戦ではストレートを中心に投げて力を試したい。。」そしてこうも言いました。「変化球に頼って投げるとコントロール重視となるため、全力で投げていない。常に80点くらいの力しか出せなくなる。100点を全力で投げることを、力を出して初めてそれ以上の力を出すことができる。」と。これは素晴らしい一言だと思うのです。自分が100点出せたと思える瞬間はそうはありませんが、その人にとって100点であるかどうかはその人しか分かりません。全力を尽くせたと、出し切ったと思う瞬間、それより先の力が実感できます。自分の限界に挑戦するとはそういうことでしょうか。私にはとてもそんなことはできないから？という言葉はいつも耳にしますが、限界って一体何だろうと思うものです。100mの世界記録は一体どこまで伸びるのでしょうか。9秒で走れる人が出るのでしょうか、8秒は無理なのでしょうか？おそらくどこかにその限界はあるのでしょうかね。でも100mの選手達は誰も限界を信じてなんかいません。日本記録を達成した瞬間、彼はその先が実感できます。彼らにとって1/1000秒、1/10000秒は限りのない時間空間なのです。

そう、斉藤選手は自らの小さく纏まろうとしていた自分の心に打ち勝って第3戦は満塁でストレートを投げ続けたのです。自分の中に少しは不安と恐怖があったのでしょうか？きわどくコーナーを突き、打者2人にフォアボールを連続で出しました。押出2点です。その、押出こそが今の彼の實力なのだと思います。打たれるかどうか分からない球の速さをストライクゾーンに投げ込むことができなかった。どこかで逃げた結果が2点です。しかし、僕は斉藤投手は素晴らしい人だと思います。USAの野球は変化球に弱く、短期決戦ならピッチャー有利です。勝とうと、今を勝とうという意識だけならば今回不敗神話は続いたのではないのでしょうか？しかし、彼は自分の最強の武器でチャレンジしたのです。ただ、少しだけ弱い心に負けてしまった。あわよくば振ってくれたら、あるいは打ってくれたら勝ちでしょう。しかし、そこは代表選手です。そんなに甘い選手はいなかったのです。

この敗戦でしかし、彼は挑戦する勇気を覚えました。できればノーwindアップで真ん中のストレートを見たかった。その勝負ができていたなら、日本の貴公子から、世界のサムライに変わることができたのでしたのに。

私達も、見習わなければなりません。無難にテニスをまとめてしまわないで、心技体の限界で挑戦するテニスをやりたいものです。若くないので、若者がするチャレンジとは違います。しかし、シニアとしての希望の果てにいつもチャレンジしていきたい。私は決して身体能力が優れていません。柔軟性は最低レベル、ジャンプ力は無し、背筋、握力、何一つとっても殆ど劣っています。

しかし、やはり好きこそものの上手なれ、で道具をいかに巧く使い、相手の心を読み、いつまでも身体的に健康であることを続けて、今のレベルでの限界に挑戦していこうと思います。

斉藤選手の一言に感謝です。

2007.7.9

昨日は総体予選。中河内からは2市が選ばれます。今年も代表を選び、皆で臨みました。本当は八尾市のクラブ員全員で応援したい所なのですが、この大会は在住が条件なので、八尾市ST協会・同好会からは何名かが東大阪市・柏原市からも出場して対戦することになります。若手・シニアを独立して同じように運営している当協会のポリシーは決して間違っていないのだと思うものです。今年の八尾市はまとまりがあったと感じています。応援一つでも団体戦では負けたのですが、そのチームを勝たせようとする気迫や暖かさを強く感じました。反面、他市から参加している人たちはどう対処して良いか分からず困惑気味の様子でした。ある意味では可哀想だと思うのです。同じクラブでありながら同じに喜べないというのは。。

個人戦もいいですけど、団体戦は面白いですね、熱が入ってしまいます。

7/7の七夕には近江八幡で東京の国分寺クラブと滋賀県シニアとの交流戦がありました。吹田クラブも加わって3地区対抗という感じでした。滋賀県も若い人たちがどんどん入ってきて、良いシニアのまとまりになっている気がします。それも清永さんや吉光さん、永井さん達ののちまぬ努力なんでしょうか。また国分寺クラブは皆さん非常に明るいムードのあるクラブという印象です。梅雨空の元、テニスのできる確率は50%以下ですけど、ものともせずテニスと旧知、新しい交流を求めてやってこられる皆さんには感心しますし、関東もいろいろいるぞと楽しくなってしまいます。

2007.7.1

西日本シニア選手権大会が終わりました。梅雨の中で良く天候が保ってくれたものだと思います。八尾市からはシニア

男子45で堀内・大橋(吹田)16本、シニア男子50:高橋・東山32本、新開(徳島)・高原8本、余田・神田橋リーグ、シニア女子45田所(堺)・藤本初戦と今回は入賞となりませんでした。私の試合に限っていえば、この半年やってきたことが1/3くらいしか出せず、本当に新開さんには申し訳ないと思う次第です。初戦は兵庫の土井組;春先にOB会コートで一度練習し、少し遠慮して頂いたようで④-2、次は広島 片岡・木原組;片岡さんの調子が良く最初の4ゲームはシーソーゲームでサービスキープ。5ゲームから新開選手が吹っ切れたのかシュートボールが入り始め押し切ってそのまま④-2。次は全日本でのペアである小早川さんと河原田さんのペア。最初の2ゲームは様子見から入り、また片岡組との試合でツイスト失敗した後なかなか戻せなくてレシーブにゆるい球を打ってしまいます。そのため、足下や側にボールを集められあつという間に2ゲームをなくしました。ここからレシーブしっかりと打てというアドバイスや、新開選手のストロークが深く入り出しさすがの小早川さんもボールをコントロールすることができず4ゲーム逆転④-2、次は最初からやってみたかったところがヤマだろうと思っていた篠辺・松村ペアでした。篠辺選手は何をするか分からないといった展開の持ち主というイメージでしたが、試合にはいとセカンドレシーブ以外は実にオーソドックスでした。フォームどおりに打ってくる正確なストロークは速いですがまあ驚くほどではありません。2-1とリードしたサーブの時、ボールカウント1-3から3-3まで返シムードとしては風向きが変わったかと思ったのですが、私のサーブでファーストが入らずセカンド短い球を打たれて返すも決められ、松村選手にも厳しいレシーブを打たれてボレー返すも篠辺選手のクロスへの絞り込んだ球でノータッチ。特にファーストが入って欲しい場面で入らなかった、修行が足りません。2-2からの2ゲームはポイント事には競るのですが締め切れず突き放されます。最後のサーブも入れに行き入らず攻め込まれてゲームセットでした。2-④。8本で目標に届かずでした。。もう一息です。

この大会前に新開選手と組み何試合か出ました。若水杯・天長杯と最初は良かったのですが神戸山手・北九州と予選落ち、不安が大きくテニスの組み立てに迷いました。新開選手も自分のテニスを模索していたと思います。ロブの展開を多用したり安全につないでいったりと試行錯誤をしています。西日本前にたどり着いた結論はお互いの最も良い得意としているプレーを主軸にやっていくしかないということ、その中でペアリングを作りあげていこうと。今回、さすがに彼は元の新開選手に戻りました。強烈なスピードボールを打ち込んでいきます。ミスも少なくまた緩やかな球を巧く使います。もう大丈夫だと思いました。彼は崩れることはあっても立て直せます。僕が何を言ってあげればいいのかも分かりました。問題は僕の方です。いつの間にか、勝たなければというなんだか切迫感が自分の中に芽生えていたんじゃないかと思うのです。初めてシニアになった頃はテニスコートで自分が何をすればいいのか? どうすれば自分の思っているテニスになるんだろうとか、緊張しているのですがワクワクとする楽しさがありました。そのうち勝てるようになると欲が出てきます。思っていないところで負けたりすると、変に自分の中でごまかしたり苛立ったり、今日は後衛も今ひとつだったな・・などと都合のいい言い訳をしてしまっていたりして。。でもこの西日本では全部のプレーが悪かったのではありません。ネットプレーや読みは逆に良かった部類です。しかし、ストロークとサーブ・・一番時間をかけてやっていたことが20-30点の出来でした。一試合でレシーブミスで4-5本やった経験はあまりありません。それなのに今回篠辺・松村ペアのサーブが良かったとはいえこれだけ続いたのは、さすがに落ち込みました。ただ、連鎖的に全てミスしてしまう単に心の問題ではなかったのでしょうか。途中で立て直そうとしましたがやはりサーブも入りません。もっと厳しく練習して、修正できるようにしないとダメなのだと思います。

しかし、僕は小さな人間でした。ミスや体調の悪さを自分の殻の中に閉じこめて・・俺が悪かったから・・とやはり自分を正当化しようとしていたのだらうと思います。家に帰り、どう見ても自分が不調であったことが原因と思われるので、新開選手にメールをしました。「迷惑をかけた、すまない」と。すると彼は即座に返事を返してきました。「ソフトテニスにはペアでやる競技だから負けたのは一人の所為ではない。片方が不調で苦しんでいるなら、その時的確なアドバイスをしてあげるのがペアでしょう。例えば今回、最後のサーブの時も入らなくて苦しんでるのが分かったのに間合いも足らず、言葉もかけられなかった、あそこは一言『思い切ってとか慎重に』とかいうべきだった」と。そして「迷惑かけたなど」と思い、次の試合にそれが出来ないようにしてください」と書いてありました。前回の九州では彼も悩んでいました。それなのにやはり言葉はかけてやれなかった。今回は逆でした。でも僕は終始自分のことにこだわり、彼と二人で1本では無くなっていたのです。彼のメールを見たとき、なんだか目から鱗が落ちるようでした。そうだ、ペアにはいつもそう思っているのに、自分がいざ悪いとき、素直に気持ちをさらけ出して次どうしようと話し合う、それを実践できなくてどうするんだと思います。自分がいつも上の目線で見ているんじゃないかと思ってしまいます。そうなんです、ペアは対等であり、技術も年齢も関係ないんです。組んでコートに立った以上、一心同体でなければいけないのでしょうか。そこでパートナーを理解し、お互いがベストであろうと努力をし、励まし合い、対戦相手に集中してあたる。

彼は素直ですし、テニスは好きですし、努力家です。素晴らしい友人に乾杯です。彼は、「自分はずっとシニア45に出続けたのでシニア50でタイトルを取るチャンスに巡り会えなかった。だからシニア55になったときは必ず即出て、体力のあるうちに優勝したい。」というのです。来年はシニア55になります。

007.6.24

朝起きるとシトシトだった雨は8時を過ぎる頃には本降りとなりました。激しい雨が降り久しぶりに休養となりました。昨日はひょっとしたらダメかと思いたくさん試合をしたおかげで、今朝から体が重く目も自然と瞼が落ちます。休養した方が良いなと思った瞬間でもありました。新開さんが昨日から大阪に来て調整をしました。まだまだ友達でありすぎるための遠慮のようなものがあるのだなと思います。言いにくいことは自分の所為にして相手に負担をかけないようにと考えているのでしょうか。でも、言い合わなければ本当に分かり合えるペアにはなれないのではないのでしょうかね? そんな意味で昨日は大いに収穫がありました。こうしようと言って納得できること、不満を何となく話したこと、話されたこと。それで良いのです。悪いところが分かった上でまた始まります。といっても西日本は今週の土曜日ですからね・・!!?

2007.6.18

西日本シニア選手権が今月終わりに大阪で開催されます。そして10月には全日本シニア選手権が滋賀であります。すぐやってくるのでしょうかね。今ではぼーっと時間という流れに浮かんでいる船ではないように思えます。時間にも流れの速度があるようです。今は漂っているのではなく、急流にバランスを取り必死なんですけど逆に、緩やかに見えるように振る舞っているのが正しいのでしょうか。いつか川も大河となり緩やかに流れ出すときが来るのでしょうか今はそうではないのです。

色んな人が色んな考えを持ってテニスをしているのだと、全国を回ってみて思います。シニアになるまで時間の余裕がなくテニスをできなかった人、子育てが終わりやっと余裕の持った人、仕事に忙殺されていたがそれで良いのかと考え直した人、健康を思い立ちできるものはこれしかないと思った人、昔やり残したことが今も忘れられない人、40過

ぎてテニスに出会った人、また、学生時代から一貫してトップに君臨しなおかつ全国大会に50勝を目標としている人など色んな人に会いました。でも共通して言えるのは皆テニスが好きで、幸運にも健康に恵まれているということなのです。テニスは素晴らしいと思います。幼い子供からそれこそ80歳代くらいまで同じように楽しめて、同じ年代でやれば勝負事として一生戦えます。体力・知力・技術が死ぬまで「変化する」と言っていると思うのです。進歩かどうかは分かりません。でも衰えるのでなくできることが変わってくる・できないことも増えますが、できることも増えてくる。それがテニスです。逆に言えば、変化できない人は勝てなくなってくるのです。学生と同じように50代、60代になっても目の覚めるようなランニングボレーのできる人がいます。それは素晴らしいことです。しかし試合になると、練習時のそんなスピードボールを誰が打ってくれるでしょう。また、打てる選手がいるのでしょうか。50代なら谷尾・上田・井場選手・甲斐・迫田・中野選手などは速いほうだと思います。しかし、一般の選手なら誰でもあれくらい打ちます。ずっと打ち続けるでしょう。しかし、シニアはそうは行きません。ボールが遅いから前衛もポジションを深く取れますし、後衛との駆け引きもできるのです。そういった体力の変化に応じた技術を磨き、その技術を逆に利用してテニスをする知力が要求され、かつやり通せる強靱な意志とペアとの信頼関係が不可欠です。

シニアのテニスを見て若い人はどう思うか分かりませんが、決して一発勝負のエイヤではないことは確かです。一般のテニスも変化しているのです。昔と違い、ラケットの進歩から格段にボールが飛ぶようになりました。フォームをしっかりつくらなくても、練習量多くしてラケットを振り回せばコートの中には入るようになります。展開などを教えるより一発で仕留めれば良いではないですか？そんな何も考えないで思い切り飛んできて、打った本人がどこに飛ぶか分からないボールを前衛がとれるわけじゃないじゃないですか。前衛はそうでなくても時間がかかるのだけれども今はそれに当てることすら難しいでしょう。

加えて前衛も中間守備・中衛的なボールの取り方が多く、僕たちの教わった頃より極めてラケットを振り回すのです。異様にさえ感じます。しかし、ポジションが深いだけ押しだけでは威力のあるボレーはできにくいのです。従ってストロークの延長のようなボレーになってしまいます。基本的な考えが違うので教えてやることさえできないんじゃないかとさえ感じてしまうのです。それもできたほうが良い、でもちゃんとした雁行陣の形のボレーもやった方が良いと思います。ダブルフォワードが主流となり中間位置で4人がボレーの応酬をすればどうしても振ってしまうんでしょうねえ。若い人のテニスも変わっている・それはどうしようも無いことでしょう。ただ、テニスの良さが一般のテニスタイルからは決して出てこないでしょうね。技術のあるものが勝つ、弱い力や体力的に劣るものは勝てない。。。なんだかバレーボールやバスケットボールみたいになってきましたね。

2007.6.9

昨夜、大阪では雷が夜中に鳴り始めました。昔の日本では考えられないことでした。異常気象なのかまだ梅雨になってません。この分では大阪で開催される西日本シニア選手権の頃が心配です。

今日は九州に移動します。恒例の遠征ですが西日本前の調整の大会と思っています。こうしてテニスが健康にできるのは素晴らしいことなのですが、昨日の新聞には2055年には65歳以上が40%を占め、成人1,33人で高齢者1人を支える社会となると書いてありました。健康状態を考え、体力を考えると確かに60歳での引退は早すぎる、では65歳だって早いじゃないか・・・とは言い難い。それは社会構造が斬新的に変化しても、組織の変革はあまり急激には変わらない社会構造があるからです。シルバーの労働は簡単な管理業務や準公務員のアルバイト的なものです。会社の中でも守衛とか保安とか、はたまたアルバイト作業員といった位置づけです。

長い経験や、勘、技術を持った人たちが誇りを持って働ける社会ではありません。管理職が決して偉いものではありませんが、日本の社会はそうではありません。長く引かれた1本の線にぶら下がって、その列を乱さないようにしなければよしとされない社会です。エキスパートや適材適所で力を発揮している人たちに明るい光はあまり当たりません。そこがなんだか自分がこの社会に摩擦を感じてしまう、そして居心地の悪さを感じてしまう所なのです。

愚にもつかない書類の印押しや人間の管理や知らない分野でもさも知ったかのような管理職の愚行をどれだけ見てきたことでしょう。全員とは言いませんが、言い訳や屁理屈や勢いだけでスタンドプレーには長けている人間が何故かしら上に上がっていくこの社会はどこか狂っていると言っても言い過ぎではないでしょう。

シニアの知力・人脉・技術力を結集すれば、一つの大きな理想とする社会が作り出せるんじゃないでしょうか？少なくとも今のできあがった会社の変な柵を取り外した水平社会が創り出せるんじゃないでしょうか？55歳自主定年し、何か自分の中にあるモヤモヤとしたものから脱却して何かを開始できないモンだろうか・・・と考え続けるここ数年ですが、なかなか何をしたらいいのかわからないままダラダラと時間が過ぎてゆきます。こんな自分にもうんざりするものです・・・。

2007.6.1

梅雨の季節がやってきましたが、今では年中テニスの試合があります。また、最近はドームができて雨の心配のない試合がたくさんできます。オムニコートとドーム運動場は本当にテニスにとっては革命ですね。

先週、岡山に帰り高宮家にお邪魔しました。3年があっという間に過ぎましたが、やはり津山のテニスコートにたつと想い出されるものが多いのに気づきます。高宮JRは今年の春の地区大会では個人戦第2シードをもらいながら8本で敗退。しかし、県大会には出場権があります。シードがない以上厳しい戦いであることは間違いありません。集中力を高めてもらいたいものです。西日本大会で急に僕がストロークに自信が無くなり、打てなくなったことがありました。1-3で負けていて、やっと追いつきでもファイナルジュースアゲイン、彼はその2本をあの豪快なサービスエースで決めたのでした。彼も若いときは前衛にのプレーに切れ、ひいては自分のプレーが自滅という形で終わっていました。でも、シニアになってから僕たちはお互いが、調子が出るまでをカバーすることで信頼を得てきたと思うのです。他の人たちはどう見るか解りませんが。高宮選手は強打者であるためにどうしても一試合目が山となります。ベスト4くらいまでは前衛は何もしなくていい。後衛一人で勝てるくらいでないと、上では勝てないよ。前衛はそこまではレシーブを返しておけばいい・・・と言われる。どっこい彼はそうではないのです。打つボールが全く入らず、サーブもダブルフォルト2本、次のサーブをまた2本、連続でやることも希ではありません。だから、僕たちの敵は上に上がればもちろん相手ですが、リーグあるいは1,2回戦は自らのボールを安定させることにあったと言っても過言ではありません。高宮の調子があがるまで、何とか凌いでポイントを取りへとへとでも勝つ、それが僕の役目でした。レシーブゲームは絶対落とせない。また自分のポイントはまず1発で仕留める。それが僕のレシーブのスタイルでした。どんなに後衛側でポイントを落とすとしても必ず前衛側でタイにする。この安定感があるから、彼も僕を信頼してくれたのでした。上に上がれば結構調子が上がります。そうすると、もうしめたものです。しかし今度はネットの向こうに強敵が待っているのでした。苦境に立っても、試合をなげないで勝利を信じて自分のできる最善のプレーをする。そのことができるようになって彼は変わったと思うのです。2枚腰ができ

てから3年間非常に安定した時間を過ごしたのです。

若い高宮JRには、志房(しほう)君といいますが、なかなかできないかも知れませんが、この3年間のいろんなことを思いだして明日と、一週間後、個人、団体戦ともに全ての力を出して欲しいと思います。ちなみに、地区大会団体戦は優勝でした。志房は全勝だったそうでその力を継続して欲しいと思います。

彼が打つフォアハンドのフォームは殆ど父親にうり二つです。打球力もついてきました。走り方も、顔もよく似てきました。やはり、思いだしてしまいます。

2007.5.14

昨日は八尾市民大会でした。今年は一般・成年男女が近畿大会と重なっているために、市民大会への参加が少ないのではないかと以前より各クラブに働きかけて参加を募りました。その結果、たくさんの方々に参加いただき、また高校生諸君の参加が予想に反してあったので近年にない活気のある大会になりました。皆様には本当に感謝しています。やはり、大会というのはお祭りですから、人の数は大切なんだと感じます。また、若手のリーダー達の動きも慣れたもので素晴らしいですね。形が実質の力となってきたのだと思う一日でした。

シニアは一昨日の近畿大会に引き続き・・であったので少し疲れてましたが、それはそれ一日楽しみました。東山理事長は腰の故障から復帰して少し心配していましたが、いやもう大丈夫だと思うくらいの出来でした。地元西日本シニアに向けて調整しましょう。あまり無理をしないように！

2007.5.12

近畿大会に出ました。今回、山手クラブの森さんと組んでいただきましたが、素晴らしい後衛さんでした。確かにボールの扱いが違うのです。上手い人はたくさんいます。しかし彼はその中でも本当に上手い超一流の後衛の一人でしょう。何故そう思うか・・彼は技術的にはもう完成されているのですね。フォア・バック・シュート・ロブ・ツイスト・サーブ・・そしてボールをどのように扱ってどういう風にすればどのように飛んでいくかが分かっている。フットワークがいい。予測が素晴らしい。足が速い。基本のプレーが確実に実行できる。次に、試合をするときの戦術がしっかりと立てられているということです。相手の弱点を見抜く能力が高い。少し見れば、どこに打てばどんな球が返るのかが経験からなのか分かるようです。そして、そこを徹底的についていくコントロール・技術があります。今日の4試合で私がやれたことはしっかりとポジションを取って、無駄なことをやらないことでした。ですから、いつもの動きに比べれば見ている人には緩慢に見えたかも知れませんが、でも彼と組むにはあれしかないでしょう。あれ以上の動きはかえって邪魔をすることになります。あの中から、自分のポジションをもう半歩すると中にとって、ちょうど今日の滋賀の寺田選手のように一歩でホレーを決めるのです。それが最も効率のいいテニスだと思います。

勝ち続けることは難しいけど、ああやって戦術をしっかり取っていけばテニスはまだまだ完成できると思ったものです。僕はいろんな人と組んでもらって幸せですが、今日は大いに収穫があったと思うのです。

2007.5.6

今日は朝から雨、疲れた体と心には恵の雨やも知れませんが。昨日の山手クラブ全国大会は、シニア45に関していえば昨年のBest4に残ったチームで今年入賞したペアはいなかった・・。そして、川上・小野組は圧倒的強さで若水杯に続いて2連勝を達成したということです。客観的事実からも彼らは圧倒的に強い存在であり、広島男座・川本組をも④-0で撃破する勢いでした。川上選手の強打と小野選手の基本に忠実なプレー・そして運動量、パネについては申し分ない能力、またじっくり見てみるとやはり読みと予測がしっかりできています。自分の後衛の打ったボールへの反応の早さが僕とは全然違うなど唖ってしまいます。僕は相手の後衛との勝負をしているのだと感じます。小野選手は後衛のボールの違いでどう出る、どう守るがはっきりしています。もちろん、勝負もしますが意味のないことはやっていないのです。だからこそ無駄を感じません。僕は昨日見た彼の試合のいくつかで、格の高さを実感しました。彼の素晴らしいテニスセンスを自分のものにするにはできないでしょうが、少なくとも彼のやろうとしているテニスを見習っていきたく思うのです。勉強になりました。

昨晩は六甲山頂にあるTさんの会社の保養所にお世話になりました。ゆったりとした六甲の山中には深い森がもつ何物をも包み込む底知れない包容力と気高さを感じました。人はたまには木の息吹を感じなければならぬ。動物だけが生き物ではない。木々があって人は生活できるのだということを実感しなければいけないと思うのです。身勝手な人間、自分たちが生きている時代さえ良ければいいのだという感覚を個人個人と話せば、そうではないということも分かっています。しかし、社会の中で、会社の中で、組織の中で・・という2次の価値観を優先させてしまうのは、どう考えても「自分の時代さえ良ければ」という感覚に等しいのです。自分だけ逆らうことはできない、誰でもやっているじゃないか、どうしろというんだ！・・それはやはり、自分の良心を放棄したことに等しいですね。。でも、誰も責めませんが、何も言えないでしょう。時々、裁判ではこのことに触れた判決が出ます。やはり、悪いと知っていても1次的な優先事項を怠った場合は罪となります。明らかにトカゲの尻尾切りではありますが、世の中では運が悪かったで片付けられます・・・

2007.5.4

昨日は東大阪で超壮年大会がありました。変則な年齢区切りですが(竹内杯は50-59)かえって今ではやれなくなってしまったシニア55の年代の人たちとやれる機会ですのでいい大会ではないかと思います。また安田会長さんにお聞きしますと参加チームは男子だけの大会で90を越えています。また参加選手は全国・西日本各地からの有名選手が集まっています。特に77歳以上の部は8組とかつては素晴らしい諸先輩方の参加がありました。さすがに足は衰えていますがボールをとらえる力は素晴らしく、それは80歳にしてあのような体の動きが果たしてできるだろうかと驚嘆するものでした。

この大会は小早川選手と組むきっかけになった試合です。そして無我夢中で3年間やってきていくつかのタイトルをいろんな大会で頂きました。それだけに小早川・高原で出る試合は少ないですが、やはり何か違う感覚があります。相手もそうですし、かえって自分自身がその呪縛に固まってしまいます。

普段ならミスも出ます、ポイントも出ます、競ってきて信じられないようなフォローも出ます。また信じられないようなミスも出たりします。そういった盛りだくさんのゲームをやってそれでも何とか勝利してきたのが我々のテニスだったと思うのです。いや誰と組んでも「高原」のテニスだったのではなかったでしょうか?ハラハラするけどなんか見ていて楽しいとか、うまいのか下手なのか分からないけど何とか勝っていくなあ、とか時々言ってくれる人がいました。でも2005年の

全日本後にはそういったことはあまり言われなくなり、じっと冷やかに見ていられるようになったように感じます。今では、小早川選手と組んで自分が自分のカラーを出すのに時間がかかってしまいます。昨日の負けも全てはそこから来ているものではないかと思うのです。綺麗なテニスをしようにしているわけではありませんが、あれが・・と言われないうにしようと思っっていることは確かです。それが、いけないのだと思います。僕が前でガチガチでは後衛は不安でたまらないでしょう。何の不安もなく自分のボール回しができるには、前衛を絶対的に信頼することです。まああちらに飛べば大丈夫だから、こっちだけしっかりやっておこうという気持ち・・半分半分で行こうな！という気安さがいいプレーを生むのです。それがペアというものでしょう。

今まではお互い個人の力とのひたむきなボールへの執着心で勝ってきていました。しかし、これからは目標とする安達・直原さんのような技量を上げること、信頼感を持ったペアになれるような一段昇った試合をしように思います。考えてみればそうです。僕がペアのためにやっていること、やってあげようと思っっていることは、できるだけ後衛が打ちやすいボールを相手に打たせてやること、そのポジションで我慢をすることなのです。前衛なら取りたいと考えます。しかし、後衛は抜きたいと考えています。特にシニアになると前衛の先を通そうということより、かわそうとする意識の方が強いです。ギリギリまで我慢する・・相手がサイドを抜く限界まで待ってボールを懐深く持たせる、そうすれば角度がつかなくなります。後衛が打つ(待つ)時間・・それは何分の1秒でしょうけど・・と前衛の我慢比べがそこにあります。そこで打てば取れば、しかしコースは変えられない、そうしなければ上に上げるしかない。これで良いと思うのです。打てるか打てないかギリギリのタイミングで出る、そうすればサイドを打たれますが50%以上の確率でサイドかネットアウトになります。こうやって、勝負をしてきたんじゃないのかい！！と今は自分に言い聞かせています。僕のテニスは後衛に見せてなんぼ・・です。ミスをしないうにポジションでじっとしているのは全くダメです。サーブもそうです。無難に入れに行くと相手と少しだけ有利に戦っていく、それは僕のテニスではない。常に圧倒的優位に立つようエースを取りに行く覚悟でやり、入らなければその確率を上げていく努力をして次の試合に臨む。前衛のサービスが勝利の鍵です。前衛のサービスが適当なところで決して勝利はありません。

これを皆さんに話した上で、またゼロから挑戦を開始します。

#### 2007.5.1

朝から雨が降って、今日は一日骨休めです。テニスの試合が続いていたのでちょうど良かったでしょうか。でもなんだか寂しいものです。昼から雨が上がってきたので、高橋選手を呼び出してちょっとだけ練習をしました。雨上がりでコートの状態も良くなる上、風が非常に強かったのでボールを打つのが辛い状態でした。まあ、二人とはいえ十分な練習ができます。かえって人がたくさんいるときに比べると、好きなだけできるので調整も上手くできるかも知れません。ちょっと連戦で疲れが出ているのでしょうか？

#### 2007.4.22

今日は天長杯(和歌山)がありました。第81回とのこと。挨拶でも、81回・・と永きにわたる大会に万感の思いを寄せられているような話が少し聞かれました。この大会は、10年くらい前に1-2度出たくらいで、ずっとご無沙汰していました。そんなわけで、今日はNo.2を頂いたおかげで、第1シートのブロックに入りました。また、こともあろうに中村・津田選手のゾーンです。しかもオープニングゲーム、緊張感が走ります。体が硬く、ファイナルの展開になってしまいました。ファイナルはしっかり行こうと話合い、6-0まで行きましたが、私のサービスの時2本落とし嫌な感じでした。このまま行ったら嫌だな・・と思ったいとき、津田さんのクロスボレーミスでゲームセット。救われた勝利でした。一試合一試合が厳しいです。もう力の差なんかないのですから。同じゾーンに佐伯・木下組、今日は木下選手のストロークが悪くこれも助かりました。3組目は堺の丸山組、徐々に力が付いてきて春の府民大会では松浦さんに勝っています。気を引き締めて向かっていき勝利です。ただ途中から攻めて来られだして空気が嫌な感じになりました。

リーグを抜けると、府民大会シニア45大阪2位の渋谷・岩津組です。渋谷選手が少し引き気味で試合をしてくれたのが助かりました。準決勝は田中・小森組、いつもやっている相手だけにやりやすい反面やりにくいです。長短所を知り合っただけに知らないところで勝負をしなければなりません。サーブが少し悪かったことと、田中選手の故障があってややウチに有利でした。

決勝は小早川・中井組です。いつもやっているいつも味方ですが、やりたくない相手でもあります。彼の配球は素晴らしいものがあります。ただ最初の3ゲームまではどちらかという我々に分があったと思います。5ゲーム目のサーブの時に新開選手のファーストサーブがフォールトし、どうせアタックに違いないから下がってみようと思っ下がりしました。しかし、ここで連絡していなかったために微妙にタイミングが早くボレーミス・・ここから流れが悪い方に行きました。何ともやってはいけないことでした。そんな訳で決勝は少し尻窄み気味に終わってしまいました。

またまたゴールデンウィークは試合が続きます。頑張っしていきたいと思っるものです。

ただ今日は、やってみようと思ったことが半分以上できたことが大きな収穫でした。また、新開選手とも話をしながらやれました。これで気楽に考えながらお互いに気持ちを合わせてやることできると思っる試合でした。さあ次も元気に行きましょう。

#### 2007.4.19

今日、久しぶりに本屋さんに立ち寄りしました。最近パソコン雑誌くらいしか読まなくなっってしまったのですが、ふとスポーツコーナーを見てみるとソフトテニスの成書がたくさん出ていました。「強くなる・・」とか「上達する・・」とか冠が大体付いています。カラフルで写真も多く、ジュニア用や高校生用が多いようです。後はTOP選手を対象にした超一流どころの見本連続写真集などです。昔・・といっても・・やはり昔です。40年くらい前は、本らしきものはあまりありませんでした。本屋さんにも近くにはない田舎ですと、本屋さんに行くことが大変な楽しみでした。雑誌に触れることもありませんでしたから、テニスが上手くなるのは良いお手本がいるかいないかにかかっていますし、後は自分の頭で何とか未知なるものをあても無いこうでも無いと色々トライしてみることが大切だったのだと思っいます。今まで何十年も来ましたが、大人のコーチに指導してもらったということも無く、先生がいたということもなく、先輩にしごかれた思い出がありません。訳が分からぬ教え方もありましたし、明らかに間違っっているものもありました。でも、その時確かにこれが正しいのだと自信を持って言えるほど確かな技術も理論も自分にはありませんでした。

それから数年経ち、軟式テニスという雑誌が出たときは、本当に嬉しかったものです。ソフトテニスは競技性という点では未だに非常に遅れているスポーツです。ある意味では昔のギルド制が残っている職人の世界でしょうか・・つまり一般性が無いということなのです。

誰もが同じ言葉を使い、同じように定義された理論が確立されていないと言っても良いでしょうか。指導方法についてもここ10年くらいで随分と変化したように思います。ラケットの素材が良くなったので軽くて重いラケットと同じくらいのパワーが出ます。ガットも良くなり昔のような雨にも弱くなくその上、機械張りでないと張れないようになってますので強さも一定です。尤も、ガット張り機のテンションゲージの校正をやっているところは無いでしょうし、聞けば縦と横を微妙にかえている所もありますし、端の2本を2ポンドほど上げて張っている所もあるようです。話を聞くとどうも張り人の感性や経験でやっているところもあるので、「32ポンドで」と言ってもまずは一応どう張っているかを確認したほうが良いでしょうね。僕も鯨筋ガットの時は縦は最後の2本はできるだけ強く張りました。縦のガットの張りはラケットの潰れ具合と弾いたときの音で判断し、横を張っていくときの強さとラケットの形の整い具合で張りを確かめたものでした。20-30分くらいで張ってましたが、張り上がりの爽快感は何ともいえないものがありましたね。今は、大体杉野さんに張ってもらいますが、強さと感覚が同じなので安心してます。

ラケットが振り回せる分、少し理論も変わってきているように思います。そしてルールが変わり、テニススタイルも並行陣(ダブルフォワード)が主流になれば区別無くオールラウンドのプレーが要求されます。スマッシュは変わりませんが、ボレーは大きく変わっています。特にフォアのボレーは殆どストロークに近く、ラケットを止める感覚よりも足を決めて打っていく感じです。硬式の試合でもノーバウンドのストロークと言っている選手が殆どです。バックは手を伸ばせば力が伝わるので振るよりも止める感覚ですのであまり違和感はないですけど。

華麗なテニスよりもパワーで押し切ってしまうテニスになっているのですね。そんなテニスをしている若者達に我々のテニススタイルが良いとは映っていないのでしょうか。物足りないと思っているのでしょうか？

ただ、先日北村の大会を見た限りでは、大阪弁で言うところの「ただのシバキ合い」のテニスにしか見えませんでした。もっとレベルが上がらないと戦術も戦略も無いというところでしょうか。

そこまで一途にやって欲しいと思いますし、そのレベルまで大勢のテニスを志す人達を引っ張っていきける共通の言葉とスキルの確立が日本ソフトテニス連盟の指導部には課せられています。競技者育成プログラムなどと、形だけを作ればことがうまくいくのではありません。スキーやボクシングやレスリング、そしてテニスなどのように全てのことが十分な形になったとき初めて国際社会に受け入れられるスポーツへの一歩が始まるのではないのでしょうか？

2007.4.15

昨日は、八尾市ソフトテニス協会の総会がありました。小さな協会から、人数も増えてまた色々な世代もいて、そしてA,B,C級、ジュニアも抱えようかという具合に育ってきていますが、これからの運営や色々な世代の意見をぶつけ合える場として、そして明朗な会計報告と実情・事業計画と会の一年の方向性の報告・指導の方針と選手・指導者との役割の確認・・・などが主な議題です。

数年来、会計での問題点はテニスコート確保の問題と費用、回収率の点が問題となっています。市のクラブでありながら練習コート優先確保やコートの資金優遇措置はありません。やはり、市の行事の代行や代表選手としての冠を掲げて活動しているのですから、少しは優遇措置は頂きたいと交渉しているのですが、今は時代が違うのでしょうか？市民の意見が・・・で片付けられます。しかし、我々も市に協力している市民です。市に文句ばかり言っている一部の市民とは違います。テニスコートがいつ予約しても満杯で一般市民は借りられない・・・そういった意見が出れば、今ある施設の毎年開催している市民全員参加の可能性のある市民大会やオープン参加の選手権などを廃止しても構わないなどという乱暴な意見までとびだす始末です。そうまでして、1コートを2-3人で2時間以上も使用している一部の市民に開放することが大切なのでしょうか？それより、市でテニス協会やソフトテニス協会の練習枠を毎週確保しておいてプログラムを作りスクールを開催する。そこに入れば、誰でも公平にテニスができるではありませんか？テニスは世界中で愛されているスポーツです。ソフトテニスも昔から馴染まれているものです。成年、シニアの世代では経験者も多いのですが、そうやって定期的にできる場所がないためにやっていない人も多いでしょう。例えばスポーツジムは今非常に盛んですけど、りっぱに商業価値のある事業として成り立っています。ソフトテニスでもインストラクターを置いて、底辺拡大のための運営、そしてシニアのテニスを生涯スポーツとして継続していく運動を開始することはできないものなのでしょうか？

日本ソフトテニス連盟は、国際社会へのソフトテニス普及には極めて熱心です。オリンピック競技にしたい！それはスポーツをやっている団体では悲願ともいべき課題でしょう。世界中にスポーツの知名度が上がり人口も増大し、ひいてはスポーツを発展させることになるのでしょ。

しかし、我々ができることは、シニアの世界をどれだけ充実させるかだと思います。来るべき近未来、若者達がやがては一線を退きながらテニスの魅力とチャンピオンテニスを続けたいという人たちのために今のシニアの世界があることで私たちは救われています。ただ、もっと確立し充実させていくことが今後の社会の精神的な支えになろうかと思えます。シニアソフトテニスはもっと今の協議会から発展してシニアソフトテニス連盟(ソフトテニス連盟の中の組織でも構いませんが)へと膨らんでいくべきだと思います。

2007.4.14

恒例のマリントennisパーク北村で行われる全国大会、この大会があるとシーズンが開幕だという気になります。なかなか良い成績のとれないこの大会です。最高は一昨年の2位です。一般の時は笹倉選手とで8本が最高でした。今日はリーグ戦の檻の中がきつかったです。3チームですが、上路・中井／玉岡・小林組、いずれ劣らぬ強者です。また上路・中井組には5割くらい、玉岡組にはやったこともおそらく無いと思います。一本一本がマッチポイントのような展開となり、どちらもファイナルで上路組とは7-3 玉岡組は6-6の一本勝負で7-6の勝ちとなる結果でした。ホントにやっとなつたと感じていたら次は谷尾・杉野組、息つく暇もありません。これは谷尾組の気合いに負けた感じです。私達には、谷尾組に何回も連続して勝っているの、何とかなるといふ安易な考えが頭を横切った気がします。でもそれは錯覚で何の根拠もないのです。今まで一生懸命やってヒ化しいながらやっとなつているのに、その考えは冷静になればあり得ません。でも慣れとは恐ろしいものです。なんだかそういう感じになります。苦しい戦いの間のことは綺麗さっぱり忘れて勝ったことの結果だけを覚えてます。本当に、根拠はなく、怠け者なだけです。試合が終わった後、お互いそういう気になっていたことを反省し、仕切り直したねというところで秋を目指します。ここで負けていて良かった・本当にそう思います。継続は力なり、彼らを倒すために全力を尽くして練習します。そしてそう思わせてくれる相手がいることも幸です。彼らが本気でぶつつぶしにかかってきてくれたことに感謝します。やっとなつて彼らが本気で認めてくれたのでしょう。今までは、返していればいずれ自滅する・・・という半ば精神的に優位な感じが何となくですがありました。しかし今回は違いました。1本も抜く球がない。全霊を上げてボールをタタキに来ていました。そして左利きの弱点を完璧に突いてきまし

た。2年前真鍋選手に負けたのと殆ど同じ展開でした。僕たちはそうならないようにもっと話をするべきでした。そうです、今より強くなるためには、よりよいテニスをするためには戦い方が必要です。レフターとして希なペアである僕たちは、人にはない素晴らしい可能性があると思っています。誰にも真似のできないテニスを目指して行こうと思います。

2007.4.13

先週の日曜日、大阪と和歌山の間くらいに山中溪(やまなかだに)というJRの駅がありますが、その近くに大阪OB会の練習コートがあるということでお邪魔をしました。前日に檀原で練習したとき田中要さんより「行かないか?とお誘いを頂いたのです。1ヶ月ほど前谷尾さんからお誘いの時はどうしても行けない用事があり訪問できませんでした。大阪OB会には前は東三国をホームコートとして活動し、全日本中に名前を知られた名クラブです。若いときから全日本で活躍された面々で、ちょっと前までは口も聞いてもらえないという方達ばかりです。まさにOB会という名に相応しいシニアのクラブです。大阪市の土地を借りるのも今では難しく、自分たちでコートを確認しているクラブもいくつかあります。奈良クラブも柳生の近くに専用のコートを管理運営されているようです。OB会も少し大阪の中心からは遠いですが新しい土地にコートを手を3面持ち、新たなスタートを切られました。ちょうど先週は桜が満開でした。山中溪は桜の名所、しかもコートを取り囲むように桜が咲いています。ちょうど桜祭りで、地元のお祭りが開催され、テニスをしながらも歌も聞こえお祭りの様子が手に取るように伝わってきます。

テニスは、5チームほど強豪が集い練習試合を行いました。リーグ戦ですが、やはり全勝は難しいものです。私は元天皇杯保持者の仲内さんと組ませていただきました。球持ちや打つコースはさすがだなと感じます。以前のように力でねじ伏せてしまうぞ!!という気負いは無くなり円熟味が増しているように思いました。私は、集中力のないテニスで1本取っては1本ミスするといった不安定なテニスでした。まだポイントでミスしなかつただけ勝負にはツキがあったということでしょうか?

2007.4.8

今日は、試合で勝つには・・ということについて考えてみたいと思います。毎週土曜日に、奈良の檀原クラブで練習をさせていただいています。後衛の小早川選手とできるだけ合わせておきたいということで行かせてもらうようになりました。住んでいる八尾市からは外環状線を南下し、2年前に開通した南阪奈道路・高田バイパスを抜けると40分くらいで到着します。奈良まで・・というと遠そうですが、意外と近いんですよ。南阪奈道路のトンネルを抜けると大和の国が一望できます。遠くに道を挟んで左側に綺麗な形の耳成山、右側に大きな少し厳つい感じの畝傍山、そして畝傍山の隣くらいに低くなだらかな香具山が見えます。盆地の中に浮かんでいる島のように見えます。昔は紙の中でしか見るのでできなかった古代の匂いを残したこの土地に今毎週足を踏み入れ、大和の国の緩やかな息づかいと懐かしい風景の中で過ごす幸せを感じます。檀原クラブのホームコートは万葉の丘総合公園の中に6面あります。オムニコートで小高い丘の上にあります。ちょうど香具山の裏手に当たります。今日は桜が満開でした。少し雨が降っていましたがそれもまた味のあるものです。先週は驚がすっかり上手くなったホーホケキョの囀りを聞かせてくれました。同時に黄砂で大和の山々も見えないくらいに霞んではいましたが。そんな光景の中で、パカンパカンとテニスのボールを打つ音がします。中村さんや河原田さんがラリーをしているとかけ声ですぐわかります。駐車場に車を止めると、イソイソとその声に引き寄せられるように出かけてゆくのです。

メンバーは地元檀原クラブの若手からシニア60-70までとレディス。それと、最近では小早川選手の周りに集まっているシニア50を中心とした仲間達です。奈良の名選手、中村・津田組の中村選手。時々、上路・中井組、大阪から田中・中辻組、時々小森、渋谷選手など。ここには成年の井上選手・藤岡選手がいます。のびのびとしかしきっちりとした練習を行い、本当にいいクラブだと思います。

前置きが長くなりましたが、中村選手と今日はそんな話をしていました。調子が良いのか悪いのか分からない・・と彼はいうのです。負けた試合は、ミスが出ました。しかも重なっています。・・やっぱり、勝つにはポイントを連続して重ねないとダメだね。というのが一致した意見です。2-2から3-2となってからは1本取ればゲームが取れます。これは前のポイントも合わせると2ポイントは連続して取ったことになります。デュースになれば2ポイントは必ず連続しなければなりませんし、アドバンテージを取られて逆にひっくり返して勝とうとすれば3本絶対に連続して取らねば勝てません。3本連続して取るのは3-0にすることです。皆さんもゲームで3-0にすることは難しいことは分かるでしょう。でもデュースになればそれが要求されるのです。リードされることがいかにひっくり返して勝つのは難しいかを冷静に数値を見れば解るでしょう。では、勝つには・・?!デュースになれば先行することです。

また、先行逃げ切りが苦手な人がいます。負けているときは何とかファイナルまで持っていき、先行すれば急におとなしくなって余所行きテニスになってしまいます。突き放すことができません。突き放せなければ勝つことはできないのです。良い試合をするのにねえ・・といわれる人が多いですね。それは、突き放せることが勝者の条件ですから、これからそういった心持ちと気分でやってみてはどうでしょうか?

2007.4.3

あつという間に過ぎ去っていく季節に途惑いながら、でも少し余裕を持って見れるようにはなってきました。こうして日々は過ぎてゆくんだけど、常に明日があるのは良いことなのでしょう。まだ早いと思うのですが、55歳が近くなると皆先のことを考えるのでしょうか? 寄れば年金の話、定年の話、退職金や健康の話、まだ病気の話が多くないのは良いのですが、でもちらほら・・今は故障の話が多いですね。特に、腰と膝、肩、肘が誰も一度は経験していると思えますが。

今年も、ウチのM・Hさんが腰痛で一ヶ月ほど入院していました。椎間板を痛め狭窄症・・までは行ってないのでしょうが神経に当たり10歩が歩けないくらいだったと言います。同じように苦しんでいる名選手もいてどうすれば治るのか・手術はどんな具合なのか?と話すことが先日の日曜日もありました。私も大学時代に痛めた腰にどうしても疲れがたまると痛みが出てきます。梅雨時や長時間立っているときなどは辛いものです。加えて、私はストレートネックという首が真っ直ぐになっている病気でその所為で神経に障り一次右半身が痺れてしまったことがありました。回復させるには元に戻るような骨の形にすることだそうです。でもそれはなかなか難しく、特に継続が難しく、痛みが取れると自然に何もなくなってしまう。これは本当に人間の勝手さを顕しているものではないでしょうか。

とにかく長年生きていくと、体も本当に参ってきているのでしょう。労ってやりましょうね。

2007.3.30

いよいよ2006年度も終わり、2007年度が始まります。もうすでに各地ではローカルの試合が始まっていますし、春先

の練習会や合宿も終わりかけです。オムニコートが広まり、地球各地の温暖化が進行してテニスはやりやすくなりましたが、それ以外では地震や洪水、大寒波や地滑りなどなんだか極端なことが起きるようになりました。人的な災害がやってこないようにと願うばかりです。

先週は広島に行き広友会や岡山壮年会の有志と大阪からは吹田クラブ中心の面々が1泊で尾道で対抗戦と合同練習を行いました。いずれ劣らぬ名選手達・大阪吹田クラブ長の津村さんは「西日本シニアナショナルチーム」と言われましたがその通りだと思います。素晴らしい2日間でした。雨が心配されましたが、不思議なことに我々の練習の間だけ雨は急に降るのをやめてくれました。大阪では雨が続いたようでしたが・・。来年からも春先の練習会をこの尾道で行うことにしました。ちょうど大阪ー広島市の間です。例年ここでやることになるのでは無いでしょうか？

2007.3.19

昨日は当協会の年度末理事会がありました。本年のまとめとしては、①成績的にはまあまあシーズン・・ということですが、一昔前からすれば良い成績を皆が普通に取ってくるようになりました。隔世の感があります。②八尾の中学校からソフトテニス部が消滅する日も近いかも知れない。パイプをつくり、何とか存続させていきたい・・硬式地盤の八尾市ではソフトテニスが生き残るのは難しいのかも知れません。ただ、中学生がやるスポーツとして、またしっかりと練習すればあらゆるスポーツができるようになる競技ではあるのですけど。③大会について：市民コートの確保が難しい。指定管理者制度になり、独立採算がとれるような運営に協力も必要。④今後、ジュニアや中学生を含めて練習時間を割いてやることも必要。⑤テニス保険再設置も考える⑥スポーツ教室の人数を確保し底辺拡充をしたい。⑦八尾市の大会を色々な方面に働きかけて盛り上げていく。⑧合宿をやる。

などが主な決定事項です。HPができた頃に比べると会員の参加が少なくなり(練習や試合)低迷感がある。更に発展させて行くにはどうすればいいかを考えると、まずイベントへの参加を多くして盛り上げていくようにすることから始める。その為にどうすればいいかを考えようということです。

仲間である、東大阪STA・吹田クラブも若返りを考え始め、また独自の方法で合同練習を行っています。八尾も13-15時の2時間を基本合同練習に当てていることは極めて重要なことだと思いますので継続しましょう。月に1回で良いので選手の強化・合同練習を行うことでクラブのレベルアップを考えましょう。

私が思っているのは、初心者・中級程度の選手に対しての指導会などはあったとしても、上級者に対しての指導や講習会が無いのはおかしいということです。硬式テニスの世界でも、コーチが付き、トレーナーが付き、プログラムに応じたスキルをこなしていきます。上級者に何を言うことがあるのか・・という人もいでしょうし、何でこれ以上言われることがあるのだと言う上級者もいでしょう。しかし、当クラブの上級者達はもう一歩進んだレベルで試合を勝ち抜くアスリートとして君臨しています。自己管理だけでは技術もアップしません。練習していく中で、どういった課題をどのような練習で克服していくかを考える時代ではないのかな？すぐにはできません。しかし、現状を打破し、一歩進んだクラブをつくるためには大事なことだと思うのです。

皆さん考えてみて下さい。

2007.3.8

3/4(日)に篠山ABCマラソンに出ました。今年は何かを始めようかと思っていたところ、1/12会社の新年会でつい篠山を走ろう！というお誘いに乗ってしまい走るようになったわけです。黙っているとずい自分はそとやめてしまうかも知れません・・そこで色々な人にアピールして逃げ場を塞いでおきました。1/18からの練習を始めて分かったことはとても大変なことを言ってしまったと思ったことでした。私の家の前に練習にはもってこいの道があります。まっすぐな折り返しの片道1.6km。これが、1往復すると3.2kmなんですけど、恐ろしく長い・・最初23分かかりました。また、股関節が耐えられないと、悲鳴を上げます。おかげさまで呼吸器のほうは何ともなかったのですが、これは、まずは下半身に負荷を適当にかけて筋力がつくまでは無茶はできないなと思ったものでした。おそらく初日でも、5kmは行けたでしょうが、そこで10日は動けないのではないのでしょうか？ガマン、ガマン！！10日経って2周、6.4km。2/9にやっと10km走れました。(3周)10kmを3回走り、ちょうど1時間でした。このペースで後2週間15,20,30,40と行けばいいと思っていたのですが・・風邪を引いてしまい、10日間アウトでした。復帰したのが2/28に16km、3/2に最終調整で20km 2時間20分でした。これで5時間ギリギリです。

少し咳は残りましたが、行け！ってなモンです。

3/4は気が遠くなるような良い天気！気温は11時で21℃。風もなく、やたら明るい「かつみ・さゆり」の声と先日引退した有森選手の声が会場に響いている・・。いつも手袋をして、ウィンドブレーカーを着て走るのだが、とんでもない、短パンとランニングシャツでも行けそうな陽気。そこはぐっとこらえてTシャツとジャージで走る。9833のゼッケンがシャツにつけにくいし。

スタートの広場は人で埋め尽くされ、スタート位置に連行されていく。それでも11時スタートから10分は悠に遅れている。やっと自分たちの固まりが小走りにスタートを始めた。あっという間にスタート地点を過ぎる。最初の5kmは思ったペース。第1関門は10分を余して通過。ここから次の18.2km第2関門を目指す。いつもは無いアップダウンに苦しみ、暑さでくそっ！と叫びながら走る。沿道では地元の人たちが、小旗を振りながら「頑張れーっ！」と応援してくれます。子どもたちは飴やチョコレート、ポカリやお茶を持って声をかけてくれます。野球やサッカーの少年チームは沿道でハイタッチをしてくれます。苦しいとき、よし頑張ろう！と思う瞬間です。苦しくて、少し歩いていると、沿道のおばあちゃんが、「苦しいなあ、苦しいなあ・・頑張てなあ。」と笑顔で声をかけてくれました。また、奮い起こして進みます。でもその日の暑さは異常でした。救急車も何台も走っていました。15kmくらいで足に痙攣が来ました。2日前の20kmが効いていて少し疲労があり、怪しいなと思っていた右足の太ももでした。アミノ酸が良いと聞いていたので、ゲルを一本飲みました。不思議なくらい何ともなくなりましたが、次第に足が重くなっていったのが分かります。18.2kmの第2関門が見えました。後5分とコールしています。必死で走り抜けましたが3分を残すのみでした。とりあえず第1目標は超えました。24.1kmの次の関門まで何とかと思いましたが20kmを超えたところで激しく急な上り坂がありました。何としても登れない、歩いても苦しいくらいの坂でした。ダメかな・・と思っていたところ急に後ろから「今日は暑くてダメですなあ！」と声をかけられました。神戸から参加の72歳のヨシハラさん・・だったと聞いたのですが、おそらく最年長だと思います。聞けば26回参加して25回完走、今回はダメだろうな。悔しいな。とのこと。72歳には見えない筋肉。歩いても健脚です。色々な人がいるモノです。

24km地点まで行ってしし鍋を食べて帰ろうということになり、必死で歩いたり小走りになったり、でもダメでした。非情にも制限時間が過ぎてしまい、パトカーがレースを終えるようにとスピーカーから叫びます。私たちが途中でバスに乗れと言われましたが、絶対24.1km地点までいくというヨシハラさんの付き添いと言うことで許可してもらい、私もそこまでは

やっとの思いで到達しました。第3関門前でコーヒーを地元の人に頂きました。それはなんだか懐かしい温かい味がしました。バスに乗り、靴を脱いだとたん、痙攣が走りました。幸い軽いものだったので落ち着いてホッとしました。着替えをしていたところ、会社の仲間達が大阪から迎えに来てくれました。本当にいい人達です。どうせ途中でリタイアするから良いと思うけど・・・と言っていたのですが、こんな状態で電車で帰るのはやっぱりいやでしたね。ただ、とても道が混んで篠山を出るのに1時間近くかかってしまいました。

みんなは来年こそは！と言います。しかし、今は果てしない道のりに思える42.195kmです。

ただ、リタイアしたおかげで、テニスにはどうやら今のところ支障はなさそうですが、まだ動きが悪いのが気になります。

2007.2.18

九州のマスターズ団体戦に参加しました。結果はA級3位でしたが、自分たちの貢献した試合が無く、メンバーの皆さんには申し訳なく思います。

1回戦は広島広友会A 三岳・直原さんとやりました。新開・高原でしたが0-4で負け。直原さんの全てを取ってやるという意気込みと、三岳さんの緩急のストロークと何よりいけなかったのは自分が焦ってしまい、集中力が無くなってしまったことでした。何かをされるのでそれに対処するという悪いパターンでズルズルと行ってしまいました。途中、反撃のチャンスは幾度もありましたが、足がついて行っていない自分のせいで潰れてしまいました。その後松本・宮田ペア／井場・木原（広友会ペア）の活躍で勝ち抜きました。宮田さんは往年の名選手。見ていて、素晴らしい攻撃的なテニスの選手だと感じました。勝負所ではで、決して無理はしていませんがポイントを稼いでいきます。こうやってテニスを組み立てていくんだという戦略ができて前衛です。見習って行きたいと思います。世の中は広くまたたくさんの師匠がいるものです。井場さんは素晴らしいボールコントロールと配球、力強いストロークで圧倒しました。木原さんは素晴らしいカットサーブで翻弄、あのカットは見習うべきものです。

2回戦は地元北九州のクラブでしたが、1番に井場・木原を持ってきて、正解。1, 2番の2点で終了。

3回戦は岡山何久層クラブです。岡山南高のOBで結成されているこのクラブは日本のソフトテニス界の中で知らない人がいないくらい有名なです。2年連続のシア男子55優勝の倉田さんと日本を代表する名前衛の藤原潔氏とのペアとやらせて頂きました。倉田さんもしっかりと打ってきて緩めるところがありません。新開も良い球が走り出しています。僕はそれについて行けずチップやアウトを繰り返しました。これはいかんといい直し、ネット際で詰めてボールを追いつく戦法にしてみました。倉田さんは案の定逃げしてくれアウトしました。速い球を打ちに来ているので咄嗟には上げかわせません。少し流れが変わり、良いゲームにはなってきました。しかし究極は藤原さんのプレーです。幅広く取ったボールは無理をせず処理します。ポジションも良くあの大きな体を一歩動かしてボールを取ってしまいます。フォロームも2-3本やられ落ち着いてもいます。なかなか超一流には勝てないかと思いますが、いやまだまだ・・・とりあえず試合になる程度には、相手を本気にさせる程度の力がついてきた。ここからが勝負所でしょう。まだまだ発展途上人ということ！

結局勝負は1-4で負けてしまいました。次の福島・田中一松本・宮田の試合も素晴らしい駆け引きの応酬でしたが福島・田中組に勝利が移りました。ファイナルジュースの接戦も田中さんの意地が押し切ったという感じです。

結局3位でしたが、今回は色んな収穫がありました。特に宮田さんと知り合えたことは大きなことでした。

2007.2.14

何年ぶりに風邪を引きました。今年はインフルエンザや喉にくる風邪が流行っているようだと感じていましたが、大丈夫だろうと思っていました。マラソンをやったり、その他のトレーニングをしたりと結構気を遣ってやっているつもりでしたが、脆いものです。これでこじらせてはいけませんのでちょっと中断したランニングと、あと少ししか大会まで残されていないとの焦りがやってきました。走りたいのに走れない・・・このまま何日かを過ごすともた元の体に戻ってってしまうような気がします。

2007.2.9

昨日、嬉しい知らせが舞い込みました。根岸・松島組が全日本ジャパンレディスカップ2007に出場が決定したとの連絡です。この大会に参加するということは、日本中のレディスの中の実力者であるということの証なのです。一昨年、昨年のこのペアの実績は素晴らしいものがありました。今回の出場者のリストを見てもいづれ強豪選手ばかり。この中で勝ち上がって行くにはそれはまた大変だろうと思います。しかし勝負事は何かがあるか分かりません。強いものが必ず勝つとは限らないこの世界、目標は信じて達成できるかも知れないものです。必ず・・・と言えるだけの実力、何物をもはね返せるだけの力があればそうではないでしょうか。

いつも八尾のコートで練習している二人の活躍を期待します。時間があれば見に行きたいと思いますが・・・平日ですわね・・・。

2007.2.5

昨日は、八尾市の家庭婦人インドア選手権がありました。市立体育館で一日かけて行きます。2部と3部の試合ですがなかなか考えさせられる所があります。確かに女性も婦人になると筋力も衰えパワーが無くなりますのでロブの展開が多く、試合としては後衛の配球の良し悪しで決まるところもあります。

でも、もう少し前衛はポジションを考えた方が良くと思います。プレッシャーとまでは行かなくとも、目に映るのは後衛にとっては気になるところです。見て打っているだけに見せてやることは前衛の武器になるのですから。

2007.1.31

1月に行く・・・岡山では「いぬる」といいます。・・・大辞泉では いぬる【往ぬる・去ぬる】[連体]《動詞「い(往)ぬ」(ナ変)の連体形から》過ぎ去った。去る。・・・という意味ですが、口語の中に古語が残っているものです。早いですね。1年の計は元旦にあり！と昔からいわれましたが、元旦のあの気持ちを新たに今年も頑張ろうという改まった気持ちが薄れていく昨今、私たちはどこを起点に何かを区切れればいいのか。幸いに、テニスをやっている、一年が大会を中心に回っていきます。誰もがこの大会を目標に！と思っているものがあるのではないのでしょうか？それは人によって違うでしょうが・・・

暖冬のせいで、1月はよけいに茫としてしまいましたが、確実にテニスシーズンはやってきます。体調に気をつけて怪我に気をつけて、また一年が始まります。プロ野球もキャンプに入ります。我々も・・・

2007.1.22

1月ももう終盤です。冬が暖かいのはとても過ごしやすいのですが、USAでは厳しい寒さとか・・気温も局在化しているようです。体を動かさねば！と思いますが、だれきた中年男にはよほどのことがないと自分に厳しくすることはできません。高い目標をたて、それを達成することで自分にチャレンジしてみようと思いました。

春先にある某マラソン大会に参加してみようと、偶然に友人の誘いを受けて何気なく決めました。15年くらい前、同じように決心してトレーニングをしていたのですが、エントリーミスで未遂に終わりました。その時と比べよく考えてみると体力は極端に落ちています。友人家族は、冷たい目で、半ばあきれた顔でため息混じりに「・・まあ、頑張ってる・・」と言います。そんなこと言わなくても！と一昔前なら腹を立てたものですが、みんなの言うことが正しいでしょう。本当に完走できればいいな！というのが実際今の心境なのですが・・。

それでも何とかやってみたい、やると決めたらやるのが自分らしさです。大勢の人たちができていることです。もちろん色々なスタンスで。記録を狙っているトップランナーから、私のように完走を目標にする者まで様々でしょう。でもそれで良いのだと思います。一つの目標にも色々な意味があります。

私の場合は、この54歳の意志と体力の可能性を確認したい。そして目標は、春からの試合で1年間耐えられるだけの体力と気力をつけたい・・ということなのです。マラソンで完走するために膝を痛めたり、本質的な故障をしたりすることは本末転倒です。それまで1ヶ月半、できるだけ準備をして挑みます。春から、もう少し動きの良い自分を披露できれば良いのですけど・・・！？

2007.1.9

昨日は東大阪STAに御邪魔しました。かねてから睦月さんとの約束で伺ったわけです。その日は高田一三さんの慶応の大先輩の中西さんがお見えになるということで楽しみにしていました。中西さんは学生時代、慶応で全日本2位、昨年も新潟の全日本シニア60歳の部で2位と過去現在にわたり名プレーヤーでいらっやいます。しかしながら同じコートでテニスをしたことはなく、素晴らしいファイトでテニスをされる姿をいつも遠くで拝見していたに過ぎません。濃厚な人柄、話し上手で聞き上手、やはり人の上に立つ人は違うものだと思います。私のような小兵にも気安く声をかけて頂きいろいろな話をお聞かせ頂きます。

それにも増してテニスの素晴らしいことと言ったら何も言うことがありません。背中で聞くボールの音、柔らかいボール、強いボール実に様々な音がします。そしてボールが遠くに飛んでいく感覚を感じました。短いボールでも決して前衛が攻められるような所には打たないのです。計算して配球されているなということを風が教えてくれます。昨日は、大瀬・守屋さんや糸永・高田さんとやらせて頂きました。いずれも名手ペアですが、素晴らしい配球のおかげで勝つことができました。出るタイミングも気持ちよく取らせて頂きました。本当に勉強になります。今年は必ずや日本一になれるのではないのでしょうか？ライバルの多い、名手の多いクラスですけど素晴らしく柔らかいボールさばきは澤江さん・木藤さんや土屋さんとはまた違った味があります。また次を楽しみにしております。

2007.1.7

今日は朝起きると寒くその上雨が降っていて大荒れの天候でした。風の強さも半端ではなく、テニスができるとは思ってませんでしたが、昼前から日差しがでて少しずつコートの水も飛んでゆきました。紅白戦はできませんでしたが、コートは十分にあり3試合ほどこなして満足して帰ったものです。

やはり餅太りの体にはちょっと移動が応える運動です。横腹の脂肪が回転を阻止します。これではイカと反省するものです。明日からは厳しいトレーニングで体調を戻さなくては！！

2007.1.6

明日は待ちに待った初打ちの日です。今日は出勤で土曜日というのに仕事をしました。まだ松の内もただ中ですので仕事も何となく皆ゆったりとしているように感じます。世間では好景気というのですけど、何かしら自分の中では景気が良いとは思えないのです。その上、今日は雨が降って、更にこれから風も強まり冬型になると言います。京都北部では大雪警報とか・・どうか明日テニスをさせて下さい。やはりホームグラウンドでの初打ちは落ち着くもんですので！！11時からですけど、何か今も雨戸をカタカタ風が鳴らしてます。だいじょうぶかなあ??

2007.1.4

年賀状はまだまだやってきます。正月をコタツの中で過ごし、年賀状を見てゆっくり返事を書く・・これもまた一つの楽しみ方でしょうね。大阪女子短大高校の最後に教えた子達からの年賀状には(もうみんな仕事をしているのですけど)、色々辛いことや苦しいこともあるのだけど昔を思い出して乗り切れますとかいつか同期が集まり私とテニスをもう一度やりたいと話していると書いてありました。また少し以前に卒業した子達もテニスをやりたい、一緒にやって下さいとも書いてありました。懐かしさから出る言葉なのかも知れません。でもその時の時間は、その時のこの言葉を書いてくれた時間は確実に私のことを考えてくれた時間なのです。それが私が年賀状を毎年出す理由でもありますし一年に一度かも知れないけれどもその人のことを考えている感謝の時間でもあります。

年賀状は形だけだとかすぐ会うのに何で書かなくてはいけないの・・という人もいます。でも、私は違うと思っています。年賀状を印刷して表も裏も活字だけというのであっても、その人に出そうという気持ちは確かに伝わるのです。そこから先にメッセージを書く書かないはまたその先のことだとは思いますが・・。

2007.1.3

新年明けましておめでとうございます。今年もいい年でありますようにと、お互いを気遣いまた年の初めに元気ですよと連絡をする・・この簡単ではあるけれども何かほのぼのとした慣習に僕は毎年感心もし、元気づけられもするものです。足し算しかできない僕なのですけれど、何かの拍子で連絡が途絶え音信不通になってしまう人もいます。で、思い出して連絡するともう住所が変わっていて二度と連絡できない、ということもしばしばです。人の出会いは偶然ですけど、互いを気遣うようになるには少し時間も必要ですしそれだけの何か触れ合うものが要ります。色々な事情で遠く離れた人もいます。会えないくらいに遠くに行った人には昨日まではあんなに毎日会ったのにとっても全くその日から時間が止まってしまうものです。止まった時間まではいつでも戻れますが、そこから現在までの空白はなかなか埋め切れませんね。しかし・・最近の年賀状や近況を知らせるメールなどから察すると皆さん同じような道を通り、同じような経験を今もまた同じような境遇にあるように思います。だとすれば、ここからの話はきっと時間を飛び越えて一挙に埋められるものだと思うのです。

初打ちに吹田クラブさんに御邪魔しました。普通のクラブはコートが市営なので4日までは使えません。でも吹田クラブさんと東大阪STAさんは正月からテニスが出来ます。従ってテニス好きはここに集まり少しだけですがボールに触らせてもらうのです。今年も岡山から帰って、やはりちょっとだけやりたいなと思い出かけてしまいました。そこにはいつもの面々が楽しそうにボールを追っていました。「やっぱりボールを打ってやっと正月が来たという感じだなあ」と誰かが言います。何かしらホッとしてしまう一言です。

正月7日は八尾の初打ちです。毎年、1000円のお年玉を持って親善試合をやります。どうぞご参加下さい。

2006.12.29

昨日で仕事納め、今日は一日ベランダの修理と買い物・年賀状書きと結構忙しいものでした。寒さもやっと本格的になり、冬空から雪が落ちてきそうです。

岡山では雪と甥からmail、寒いので温かい格好で帰省するよとの連絡でした。それよりもチェーンを巻きたくないなと思つてます。スタッドレスを買うほど雪道も頻繁に通らないし・・。

一昨日から全日本フィギュアが始まってました。荒川選手のトリノでの活躍もあり、非常に注目されてましたが、見応えがありました。特に男子の高橋選手と女子の浅田真央選手が素晴らしいででした。ただ素人なので良くはわかりませんが、注目されていない選手の演技に対して評価があまりにも低いと感じるものです。女子は特にそう感じました。浅田真央選手は確かに文句ないところですが、4位と5位以下の選手の開きがそんなにあるほどでしょうか・・・主観で判断する競技にはどうしても、そういった疑問が頭を持ち上げます。

でも、完璧にできたときはやはり涙が出るものなんですね。いろいろ辛いこともあるのでしょう。負けている間は言えないですから・・特に何を言っても言い訳となりますし、潔くもないと皆分かっているのです。

勝てばやっと言って良いのです。肩の荷を下ろせるのです。

2006.12.24

クリスマスイブです。もう実は過ぎてますけど。クリスマスが別に楽しいのではなく、全体的な気分がお祭りムードになれば何かしら楽しかったような気がしているだけのことなのです。でもそれで幸せになれる国民性というのは良いのか悪いのか・・。逆に言えば、乗らなければいつも不幸せというか・しらけているというか？ そうなったらもうどうしようもないのが今ですね。

2006.12.21

九州から、シニアマスターズの団体戦案内が来ています。毎年この大会は参加するのですが、去年は失礼しました。それは大阪の喜多村さんがご病気になられたためです。やはり、いつもコートに出ていらっしゃる人の姿が見えないと寂しいものです。若い頃から厳しいテニスの喜多村さんというイメージがありました。何回か対戦したのですが、厳しいアタックが通ってしまいます。あんなものと思つていても通るのです。直前にあの瞳の中に激しく燃える炎を何度も見ました。あの眼光が射通すのです。また、ミスをしません。ミスをするという言葉はきつくないのでしょうか。相手が取るか相手がミスするか・・なのです。それは、先日対戦した安達さんのマッチポイントの一本と同じなのです。ミスを期待してはいけません！！必ず入ってくるのだ！ということなのです。

今年は、どこのチームから参加させて頂くことになるのでしょうか？ 徳島の新開選手が行かないかと言っています。楽しい試合がまた2月にあります。

2006.12.17

昨日は榎原でテニスをしました。同じくらいのレベルの人が集まって共に技術を上げてその上楽しむのはとてもいいことです。こうして毎週集まってもらえるのはいけば仲間がいるという安心感なのではないでしょうか？ 今日八尾に行きました。冬モードになると練習仲間はどんどん少なくなります。それは分かっています。でもそうであって欲しくはないのです。僕には楽しみは色んなことがあるのですが、やはりテニスは一番好きかなと思うものです。今、人が集まっていなくても何とか人を集める努力をして欲しいと思つています。それがどういう手法なのかは分かりませんが、独自の方法を見いだして欲しいものです。協会も生きています。今に甘んじては何も改善はされません。自らが動かなくては何も変わらないということを感じて欲しいのです。

2006.12.10

昨日は忘年会でした。年々若い人たちが多くなるなという印象ですが、着実に会は動き出しているのだと感じます。かえってシニアの人たちが少なかったのもう一つ寂しい感じでしたが、今年は個人的にも余り戦績はなく・・と理事長・会長が言われましたが、全国的には確かにそうでしたけど、大阪やローカルの大会の戦績は決してそう悪くはないのではないのでしょうか？ 男女とも入賞も数多くあり、団体戦でも後半は割と良かったように思います。ここ数年間の成績がとりわけ群を抜いているだけに目立たないというだけのことです。それだけ、みんなの意識も目標も高くなってきているということなのでしょう。当たり前ということをやめていってはいけません。しかし、決してゴールは彼方にあるではありません。見えないゴールを目指してやっていると自然にゴールが見えてくるだけのことなのです。それはコーナーのすぐ先かも知れません。

久しぶりに八尾の練習に参加しました。2時間の基本練習はやはり大切です。あの練習は単純な繰り返しですが、その中に真実があります。貴重な練習の場を保っていることに改めて感心しました。基本に忠実であれ！

冬になると年賀状の季節、12月は年に一度の挨拶ができない通知も数多く入ります。今日は、私の大学の恩師である大阪市立大学名誉教授の太垣和一郎先生の奥様より通知がありました。私は化学が専攻で今もずっとそのモノヅクリを続けています。何かを創る方が好きな性格なので、ちょっと頑固で、地道に続けていくことが必要なこの学問は性にあつたのではないかと思います。お会いしたのは18歳の時、群馬大学の応用化学科の新入生の顔合わせ会でした。大学が教養が前橋・専攻が桐生にあつたため1年間は専門の先生方と会うことはありません。私たちは応用化学の先生達と親睦を深めたいと招待をしたのですが、18当時のことで酒を飲む機会もほとんどなかったため、ノンアルコールで企画をしてしまい先生方はもちろん大爆笑。急いで酒屋に注文に走り浴びるほど酒を飲まされましたが、あの代金は半端ではなかったと思うのですが、招待したつもりがかえって招待されてしまったものです。しかし、熱っぽ

く18歳の私たちに夢を語り、化学の楽しさを説いていらしゃった若き教授達も今では、高齢かたまた星となってしまうわれています。当時40歳前後だった先生が77歳で世界されるとはまだお若かったので信じられない気持ちです。やはり癌でした。

確実に時は流れているのだと実感します。

2006.12.4

12/2-3と高梁市で青年会合宿が開催されました。今年は例年に比べると少人数の参加でしたが、逆に非常にアットホームな感じになりました。会を始めた頃の様でした。近隣の方々は宿泊せずに通いで参加され、それでも合計40名くらいにはなったのでしょうか？今回は私も仕事の日でしたが、やはり参加するぞ！と心に決めてやってきました。そして前向きに来てみれば、それなりの収穫というものは必ずあるもんです。一つは、安達さんが来られていたことでした。華麗な技術を見させて頂き、そして今回は、わりとアドバイスも多くして頂いた様です。普段は人数も多く、また試合に忙しいので練習の中でとけ込んでやるというのはなかったでしょう。今回、教えていらっしゃる時のフォームとアドバイスをされている人のフォームを比べると、本当に違うものだなと実感してしまいました。しかも、試合でも練習でも同じようにその力が発揮できる・・これは素晴らしいことです。柔らかいバックスイング・力の入らないしなやかな腕の振りと言パクトの鋭さ、無理でないフォロースイングとフォア・バック共に美しい流れるようなフォームでした。教えて頂いた人たちはそれを心に刻み込んで一日も早くその極意を会得してもらいたいものです。

2つ目は、峰南クラブの高宮Jrと今年インハイ16本の原希(はら・のぞみ)ちゃんの成長を見て、素晴らしいものだと感じ入りました。まだまだ荒削りの2人です。それだけに小さくまとまらないで欲しいと願います。冬に入り、こつこつとランニングや素振り・人がいなければ壁打ちをして筋力とボール勘を失わないようにして欲しいのです。高校生頃の筋肉は休んだ日数だけ回復する日数がかかります。毎日やらなければ育て上げることはできません。この合宿でもう一人。小林さんという中学生の力に非常に興味を持ちました。中学から初めてラケットを握り、3年間で都道府県対抗の代表となりました。素晴らしいボール勘と才能・センスがあると感じました。彼女は来春から岡山山陽女子校に通うそうです。今後の活躍が楽しみです。

青年会はすでに18回かなりの回数をこなしました。次回は11/24-25と決定しました。そして新たな代表に小野選手が満場一致で選ばれました。人が良く紳士でいながら、テニスは激しく切れが良いものです。昨年、川上・小野で中国選手権・西日本を優勝。後衛を片山選手として片山・小野で全日本2位。これは素晴らしいでしょう。今年も西日本は3位でした。来年は小野会長のもと、もう少し宿泊人数を多くして、テニス談義に花を咲かせていきたいものです。来年参加したいという方は、どうぞ私までご連絡をお願いします。

2006.12.1

時は移り、師走となりました。明日から高梁市に年忘れのテニス合宿に行ってきます。テニスをして、温泉で汗を流し、夜は仲間達と話ながら、食べながら、呑みながら・・夜の更けるまで過ごすのです。あれから幾日の日が過ぎて、あれからどれくらいの実りがあったのでしょうか？そうです、人の中で浄化され醗酵しそして沈殿し、澱が取り除かれていくように、ただ清浄だが・しかしその中には芳醇なエキスが溶け込んで、年月という光の中で見事に深みを帯びた空間を作り出しているようです。自分自身に欲というものがあるうちはとても遠くにあるものが、何かを吹っ切った瞬間にすーっと近寄ってきてくれるようなそんな感じです。殺気のあるうちは動物は近寄ってきませんが、体から消えた瞬間にイヌやネコでさえ膝の上にやってきて眠ったものです。どうやって生きていいのかわって随分悩みますし、もちろん今でもそうです。生きていくことはやっぱり争い事なんだと思います。仲がよい友達でも親しいほどそんなところがあります。

社会ではいろいろな柵があって、自分自身でも入り込みたくない中に否応なしに入れられることも多いですが、私たちはテニスという社会では少なくともそんなことは無いと思っていました。そしてそうならないようにやっている積もりではあります。私はやっぱり笑ってみんなとテニスをしたいです。みんなが強くなって行けば自然とっと練習しなければという気になりますし、負けたくないというのが本音です。そして、魂が触れ合って究極で接したとき、新たな友情が生まれるのです。明日は、ぬくもりを知っている人たちと柔らかな時を過ごしてゆきたいと思います。

2006.11.25

箕面市との対抗戦が終わりました。最近参加できていなかったもので申し訳なく思っていました。今日は堀内君とのペアで4試合させて頂き何とか全勝することができました。福谷さんとの2試合がとても長く疲れました。しかし、なかなか1本が取れずファイナル10-10までは覚えているのですが、その先いくつだったか忘れちゃった。1本・・・何本もお互いにマッチを握っていたのですが、決め手がなくズルズルと行ってしまいました。なかなか勝負事は思ったようにはできないもんです。難しいから楽しいのだと思います。

今日は、先日高岡杯では予選リーグで2試合やって1ゲームしか取れないという負け方を克服しようと、堀内君と臨みました。まず、後衛はネットにかけないで打つ。困ったら後衛の前にロブをあげる。決して全てエースを取りに行かない。前衛はやたら取りに行かないで後衛が打てるまで待つ・・などです。なかなか中学生の頃から言われ続けていることですがこれが難しい。それは相手があるからなのです。自分の世界に引き込んで自分の網の中に抱え込んでしまえば勝ちなのです。相手のコートと相手を見ないで試合をするわけに行かないのがこのテニスの単純だけれども難しい所以です。乱打はできるけど試合では打てない・・というのがそのことを示しています。誰でも乱打くらい打てればチャンピオンでしょう。打ったボールに対して相手が何をやるだろう・・・その疑心暗鬼から抜け出すことが勝つための必須条件ではないでしょうか。

これで年内のアウトでの試合は大体終わりました。今年も怪我しなかった・・ということにまず感謝致します。来週は岡山山のシニアの仲間達とテニスをしなが温泉で汗を流し、今年1年を振り返りながら来年につなげます。

2006.11.21

今日は体育館で練習がありました。かつて八尾市STAは練習場所がなく放浪していました。30年前に八尾に来たときはコートがなく狭い今の体育館で練習を週1回していました。私の会社は5分くらいのところにあるため時間が来ると真っ先に飛び出してきたものです。そして今、本当に数人の練習をしているメンバーが集まるだけで、選手はほとんどなくなりまして。時代の流れは八尾市にもコートができ皆の努力で練習時間も確保でき、いつ行ってもテニスができるということになると悲しいもんです・・体育館に来る人はいなくなってしまいました。コートが欲しいなといって一生懸命

話し合ったり、市役所に交渉に行ったり・そういうことをしていた時代が一番よかったのかもしれませんが。飽食とはいいいませんが、皆それなりに不満もあります。でも贅沢な悩みだなと思ってしまいます。A+BにならなければいけないところがA→Bとなってしまいました。悲しいですね。

以前は思っていました。仕事の都合で8:30頃体育館に行きました。誰かが言いました。「30分しかないのによく練習に来るな?！」私は「30分も練習できるじゃないか!!」と。

今でも体育館で思い切りあの壁に反響するすばらしい音を聞きながらテニスをするのが好きです。自分がうまくなったような気がします。ふと思えます、原点は何だ?そうです、以前も書きましたが、何も考えず、ただ白いボールを相手と打ち合う。その快感・その達成感・その心地よい疲労感が好きなのだと思うのです。

2週間前から、中学生がお父さんと来ています。ソフトテニスの先生がいない学校です。そして、彼女の学年でソフトテニスは終わり・テニスにクラブが変わるそうです。なんと寂しいことでしょう。うちのクラブにも何人も卒業生がいます。そしてやりたい子もいるというのに・・。しかし、皮肉なことにその女の子はとでも才能があるようです。1回いえばプレーができます。体育館に来たときと帰るときでは別人のような変貌をとげます。信じられないことです。こんなことができたのは僕の知っている限り、後にも先にも、池田征弘君ただ一人です。(石岡・池田)。彼が始めてラケットを握った日、3時間ほどして帰るときにはもう2年くらいやっていた中学生程度には十分打つことができました。たった1日です!! そのときにも等しい驚きを今感じています。この子はひょっとしたらすばらしい逸材かもしれない・今は思うのです。

2006.11.19

堺市の金岡公園で『堺オープン』が開催されました。例年、この大会は広島オープンと重なり参加していませんでした。今年は11/3-4と広島の大大会が早まったために参加することができました。小早川さんとの今年最後の組む試合でした。何とか優勝できてホッとしています。昨年のもあって・・と言うといい訳ですが全く不甲斐なかったですね。いくつか要因があります。その内の一つがラケットの選定の誤りです。昨年本当にいいラケットに出会ったと思っていましたが、メーカーから廃番と告げられがっかりしました。その後で推薦されたラケットはどう考えても前のものとは似ても似つかないもので、われわれのシアには使いこなせないくらい硬い素材でした。問い合わせるとまだあるよとのことで早速1本手配しました。どうしても今日の試合に使いたかったので木曜日に仕上がるように張り上げてもらいました。普通は、ラケットを張っても2週間くらいは使えないものですが、このラケットは違います。すばらしい出来だと思うのです。何の違和感もなく張り上げ1発目からちゃんとボールが飛んでいきます。弾きも最高ですし、言うことがないのになぜ、生産中止になるのでしょうか。もう少し、ラケットの本質を追求してほしいと思うのです。デリケートな感覚でボールを処理できるようになればなるほど、厳しくなってゆきます。またラケットに不安があるといプレーはできません。

2006.11.18

先ほどGAORAでFedererとNadalの試合をやっていました。テニス・マスターズ・カップ上海でやっているLIVEのようです。硬式テニスの試合は殆ど見ないので、さっきの試合は見応えがありました。早いサーブとフットワーク、予測と意外性のボールへの変化と対応。どれをとっても素晴らしい。過去の名プレーヤー達はスーパースターがいてその好敵手が出現し、更に彼らがどちらも研究史、技術を磨いて戦っていました。近年テニスに物足りなさを感じていたのはその図式が確立されたいなかったか、もしくはTOP2のレベルが、かつてホルグ/マッケンローなどの図式にやはり見劣りがしていたからではないでしょうか?

ラケットが軽くなり振り回せるようになった今、ソフトテニスでやっていることは全てテニスでもできるようになりました。かえって、スライスなどをあまり用いないソフトテニスに幅のなさを感じます。魅力あるソフトテニスは一体どうすれば育ち形を完成させるのでしょうか?

